Windows

RAW 画像現像／閲覧／編集用ソフトウェア

Digital Photo Professional

Ver.3.11

使用説明書

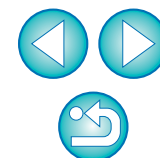
本使用説明書上のおことわり

- 名称の Digital Photo Professional を DPP と表記しています。
- 基本となる操作例に Windows 7 の画面を使用し、一部に他の OS の画面を使用して説明しています。
- ▶ の手順は、メニューの選択順序を示しています。（例：メニューの［ファイル］▶［終了］を選ぶ）
- ［ ］内の語句は、パソコン画面上に表示されるメニューやボタン、画面の名称を示しています。
- 〈 〉内の語句は、キーボードのキー名称を示しています。
- p.** の ** は、参照ページを示しています。また、クリックすると参照ページが表示されます。
- ？：困ったときの手助けになる事項が書かれています。
- ：上手に使うためのヒントが書かれています。
- ：注意事項です。
- ：補足説明です。

ページの移動

- 画面右下のマークをクリックします。
  - ：次ページ
  - ：前ページ
  - ：ひとつ前に表示していたページに戻る
- 画面右端に配置された章見出しをクリックすると、章目次のページが表示されます。さらに、目次の読みたい項目をクリックするとそのページが表示されます。

ヘルプとショートカットキー

- メニューの［ヘルプ］から開くヘルプも参照してください。
- 迅速な操作に有効なショートカットキーは、ヘルプの［こんなときは］▶［ショートカットキー一覧］を参照してください。

 CCS-M034DPPWJ-000

はじめに

Digital Photo Professional（デジタル フォト プロフェッショナル）（以降 DPP（ディーピーピー） と表記）は、EOS DIGITAL カメラ用の高性能 RAW 画像現像／閲覧／編集ソフトウェアです。RAW 画像は、一般的な JPEG 画像に比べ、取り扱いが難しいと思われがちですが、DPP を使用すると、高度で多彩な編集や RAW 画像の印刷を簡単に行うことができます。

RAW（ロウ） 画像とその特長

RAW 画像ってなに？

RAW 画像は、撮像素子の出力をそのまま記録した画像データです。撮影時にカメラ内部での画像処理は行わず、「RAW 画像データ＋撮影時の画像処理条件の情報」という特殊な形で記録されているため、画像を見たり編集するには専用のソフトウェアが必要です。

※「RAW」とは「生の」や「そのまま」の意味です。

RAW 現像ってなに？

RAW 画像は、フィルムでいえば撮影済で未現像状態（潜像）のような概念になります。

フィルムは、現像してはじめて画像が現れますが、この RAW 画像もその後の画像信号処理を行わないと、パソコン上で画像として見ることができません。

そこで、この処理のことをデジタルでも「現像」と呼びます。

RAW 現像が行われるのはいつ？

DPP では、RAW 画像を DPP 上で表示するときに、この「現像」処理を自動で行います。

そのため、DPP で表示されている RAW 画像は、すべて現像処理が完了した画像です。

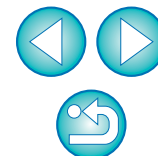
DPP では、特に現像処理を意識することなく、RAW 画像の閲覧、編集、印刷を行うことができます。

RAW 画像のメリットは？

RAW 画像は、「RAW 画像データ＋撮影時の画像処理条件の情報」という形で記録されています。DPP で RAW 画像を開くと自動的に現像が行われ、撮影時の画像処理条件の情報が適用された画像として見ることができます。

また、開いた画像に対してさまざまな調整（そのつど、自動現像処理）を行っても、画像処理条件（現像条件）を変えているだけなので、「オリジナル画像データそのもの」はまったく変わりません。したがって、劣化をまったく気にすることなく、撮影後にじっくりと画像を創り上げる「作品派」ユーザーにぴったりの画像データであると言えます。

なお、DPP では、調整できる「画像処理条件の情報」を「レシピ」と呼んでいます。

はじめに
やりたいこと目次
1 基本操作
2 応用操作
3 高度な機能
4 大量の画像を扱う機能
5 JPEG/TIFF 画像編集
資　料
索　引

DPP でできること

パソコンに取り込んだ画像に対し、主に次のことができます。

- **RAW 画像の閲覧／整理**
- **RAW 画像のリアルタイム調整**
  - オリジナルの状態を残したままでの各種画像調整
  - ピクチャースタイルを自由に選んで画像に適用
  - 調整前／調整後の同一画面表示
- **画像の角度調整と切り抜き（トリミング）**
- **画像サイズの変更**
- **レンズ収差補正**
- **自動／手動ゴミ消し処理**
- **RAW 画像から JPEG 画像、TIFF 画像への変換／保存**
  - 大量の RAW 画像を一括画像処理（バッチ処理）
  - 画像編集用ソフトウェアへの画像転送
- **RAW 画像の印刷**
- **JPEG 画像、TIFF 画像の閲覧／整理**
- **JPEG 画像、TIFF 画像のリアルタイム調整**
  - オリジナルの状態を残したままでの各種画像調整
- **JPEG 画像、TIFF 画像の印刷**
- **カラーマネージメント対応**
  - 商用印刷用 CMYK シミュレーション

動作環境

OS（オペレーティングシステム）	Windows 7*1、Windows Vista*2 Windows XP Professional ／ Home Edition*3
機　種	上記の日本語版 OS がプリインストールされているパソコン ※ アップグレード機は動作保証外
CPU（シーピーユー）	Pentium 1.3GHz 以上 *4
RAM（メモリー）	1GB 以上 *5
ディスプレイ	画面の解像度：1024 × 768 ピクセル以上 画面の色：中（16 ビット）以上

*1 Starter Edition を除く全バージョンの 32bit ／ 64bit システム用に対応
*2 Starter Edition を除く Service Pack 1、Service Pack 2 の 32bit ／ 64bit システム用に対応
*3 Service Pack 3 に対応
*4 Core2 Duo 以上を推奨
*5 Windows 7 64bit 版は 2GB 以上
最新の OS を含む対応状況については弊社ホームページをご確認ください。

対応画像

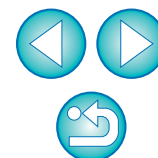
本ソフトウェアが対応しているのは、以下の画像です。

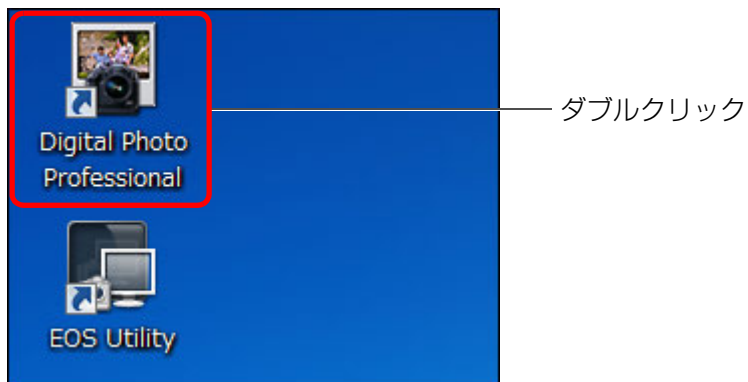
画像の種類		拡張子
RAW 画像	EOS DCS1、EOS DCS3 を除く EOS DIGITAL で撮影した RAW 画像 *1 PowerShot で撮影した RAW 画像 *2	.CR2 .TIF .CRW
JPEG 画像	Exif 2.2、2.21、2.3 に準拠した JPEG 画像	.JPG ／ .JPEG
TIFF 画像	Exif 規格に準拠した TIFF 画像	.TIF ／ .TIFF

*1 EOS D6000、EOS D2000 で撮影した RAW 画像は、CR2 Converter で「.CR2」の拡張子が付いた RAW 画像に変換した画像に対応。
CR2 Converter については、キヤノンホームページをご覧ください。
*2 ・「カメラユーザーガイド」巻末にある「主な仕様」の「データタイプ」欄に、Digital Photo Professional の記載がある機種のみ。
・PowerShot からパソコンへの画像取り込みは、専用ソフト「CameraWindow」を使用。使用方法は「カメラユーザーガイド」をご覧ください。
・レンズ収差補正は、一部の機種でのみ使用できます。
・自動ゴミ消し処理などの機能は、EOS DIGITAL 専用のため使用できません。
・PowerShot Pro1 で撮影した RAW 画像も対象となりますが、RAW 画像調整機能では編集できません。

やりたいこと目次

1 かんたんな基本操作

カメラで撮影した画像をパソコンへ取り込む方法から、取り込んだ RAW 画像の確認、編集、保存、印刷までの基本的な操作の流れについて説明します。

DPP を立ち上げる

デスクトップのアイコンをダブルクリック

➜ 立ち上がるとメイン画面（**[フォルダ]** 画面）が表示されます。

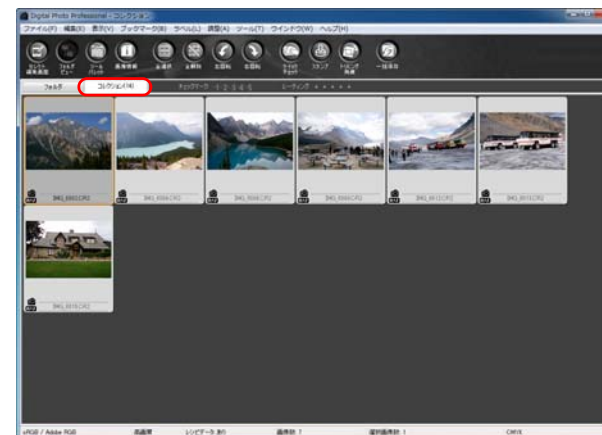
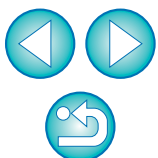
メイン画面（[フォルダ] 画面）

メイン画面の表示

メイン画面では、タブの選択によって **[フォルダ]** 画面と、**[コレクション]** 画面のいずれかに切り換えることができます。**[フォルダ]** 画面はパソコンのフォルダ内の画像を表示する画面、**[コレクション]** 画面 （p.36）はユーザーがフォルダから任意に選んだ画像を集めて表示する画面です。

以降、特に注釈のないときは、**[フォルダ]** 画面をメイン画面として説明します。

[フォルダ] 画面

[コレクション] 画面

パソコンに画像を取り込む

カメラとパソコンを付属のケーブルで接続し、カメラ内のメモリーカードに保存された画像をパソコンに取り込みます。

なお、画像の取り込みには、カメラ用ソフトウェア「EOS Utility」をDPPから立ち上げて使います。

1 画像の保存先を選ぶ

- 画像の保存先を、メイン画面左側のフォルダエリアで選びます。
- フォルダを作成するときは、p.50 を参照してください。

2 EOS Utility を立ち上げる

- メニューの［ツール］▶［EOS Utility を起動］を選びます。

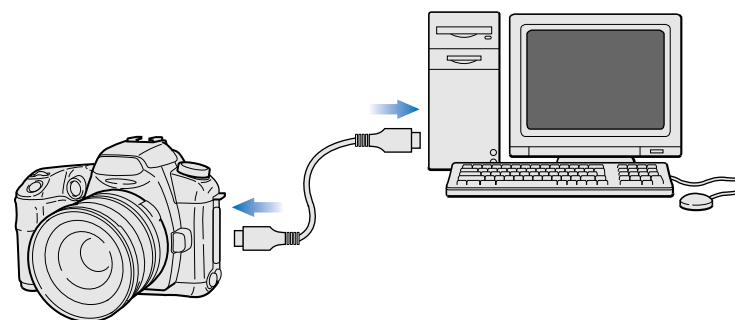
ツール(T)

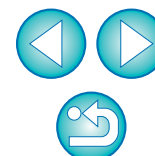
クイックチェックツールを起動(Q)	Alt+Q
トリミング/角度調整ツールを起動(T)	Alt+C
コピースタンプツールを起動(S)	Alt+S
リネームツールを起動(R)	Alt+R
EOS Utilityを起動(U)	Alt+O
EOS Utilityとフォルダを同期(N)	
Photoshopへ転送(O)	Alt+P
環境設定(P)...	Ctrl+K

→ EOS Utility が立ち上がります。

EOS Utility

3 カメラとパソコンを接続してカメラの電源スイッチを入れる

- カメラに付属のインターフェースケーブルで、カメラとパソコンを接続し、電源スイッチを〈ON〉にします。
- カメラとパソコンの詳しい接続方法については、「EOS Utility 使用説明書」（PDF 形式の電子マニュアル）を参照してください。

→ EOS Utility のキャプチャー画面が表示されます。

はじめに
やりたいこと目次
基本操作
応用操作
高度な機能
大量の画像を扱う機能
JPEG/TIFF画像編集
資料
索引

4 [メイン画面] ボタンを押す

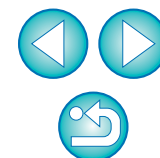
➜ EOS Utility のメイン画面が表示されます。

5 画像を取り込む

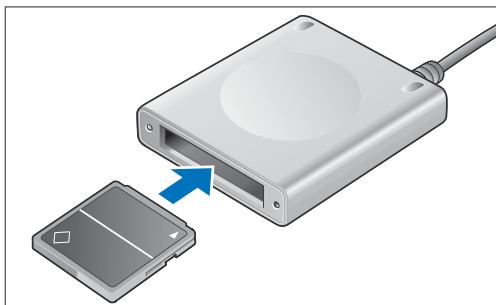
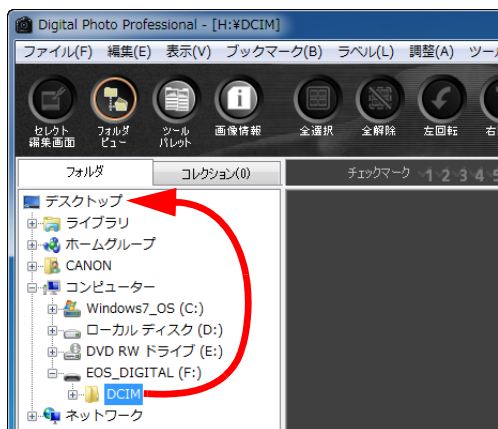
➜ 画像の取り込みが開始されます。
➜ 取り込まれた画像は、手順 1 で選んだフォルダ内に保存され、DPP のメイン画面に表示されます。
➜ 取り込まれた画像は、撮影日ごとにフォルダ分類されて保存されます。

EOS Utility を使って画像を取り込むメリット

EOS Utility を使って画像を取り込むと、画像が撮影日ごとにフォルダに分類されて保存されるため、画像の整理がしやすくなります。

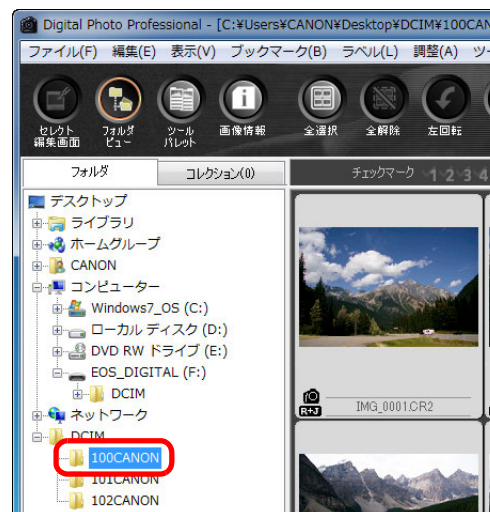
- [コレクション] 画面 (p.6、p.36) では、EOS Utility を立ち上げることはできません。
- DPP から EOS Utility を立ち上げているときは、次の機能を使用することはできません。
  - ・クイックチェック画面表示 (p.16)
  - ・画像の角度調整と切り抜き(トリミング) (p.38、p.111)
  - ・デジタルレンズオプティマイザ (p.69)
  - ・画像の合成 (p.78)
  - ・HDR(ハイダイナミックレンジ)画像の生成 (p.81)
  - ・ゴミ消し処理(コピースタンプ機能) (p.73 ～ p.77、p.114 ～ p.118)
  - ・ファイル名の一括変換(リネーム機能) (p.101)
  - ・撮影情報付き印刷 (p.85)
  - ・一覧印刷(コンタクトシート印刷) (p.86)
  - ・Easy-PhotoPrint EX、Easy-PhotoPrint を使用した印刷(プラグイン印刷) (p.43、p.46)
  - ・Photoshop への画像転送 (p.77)
  - ・画像の一括保存(バッチ処理) (p.99)

カードリーダーで取り込む

市販のカードリーダーをお持ちの方は、カードリーダーを使ってパソコンへ画像を取り込むこともできます。

1 メモリーカードをカードリーダーに差し込む

2 [マイ コンピュータ] ▶ [EOS_DIGITAL] の順に開き、[DCIM] フォルダを [デスクトップ] にドラッグする

➜ [DCIM] フォルダがパソコンへコピーされます。

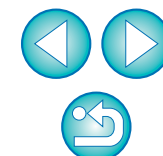
- [DCIM] フォルダには、すべての撮影画像がフォルダ単位で保存されています。

3 パソコンにコピーした画像を表示する

- デスクトップにコピーした [DCIM] フォルダ内の、撮影画像が保存されているフォルダを選びます。

➜ フォルダ内の画像が DPP のメイン画面に表示されます。

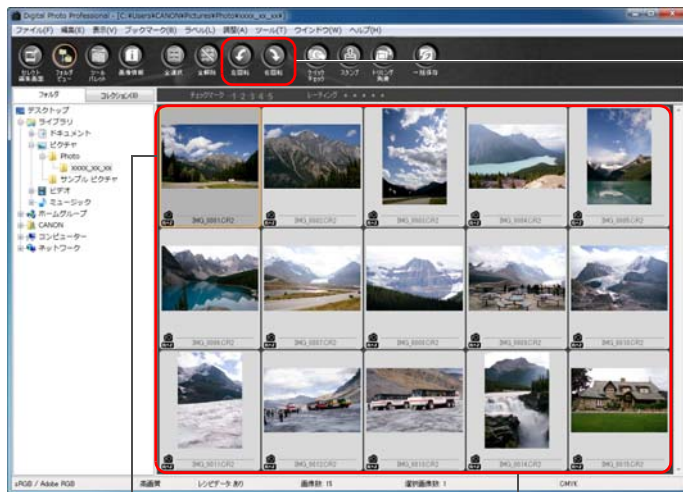
画像を取り込む前に確認するには

メモリーカード内のフォルダを DPP で直接選ぶと、フォルダ内の画像が DPP に表示され、撮影画像を確認することができます。

- メモリーカードに大量の撮影画像が保存されているときは、パソコンへのコピーには時間がかかります。
- [DCIM] フォルダ内のフォルダ構造と、撮影された画像のファイル名については、「EOS Utility 使用説明書」（PDF 形式の電子マニュアル）の「メモリーカード内のフォルダ構造とファイル名」を参照してください。

画像を見る

パソコンに取り込んだ画像は、メイン画面にサムネイル画像として一覧表示されます。また、画像をダブルクリックすると編集画面が立ち上がり、画像を大きく表示することができます。

メイン画面で画像を一覧する

メイン画面

選んだ画像を回転

クリックで画像を選択

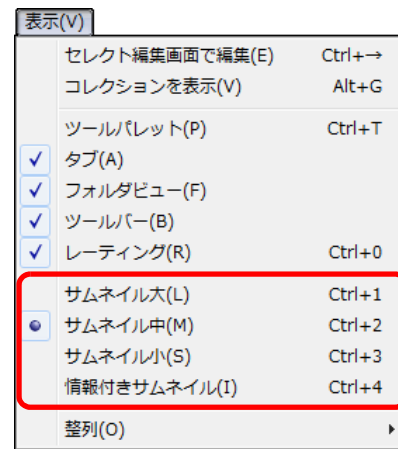
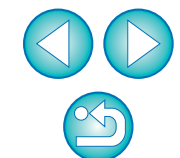
画面左側のフォルダエリアで選んだフォルダ内の画像を一覧で表示

- [🎥] マークが表示された画像は動画ファイルですが、DPP で再生することはできません。EOS DIGITAL の動画ファイル再生に対応した「ImageBrowser EX」を使用してください。
- [メモリ不足です] というメッセージが表示されたときは、1 フォルダ内の画像数が多すぎます。フォルダを分割するなどの方法で、1 フォルダ内の画像数を減らしてください。

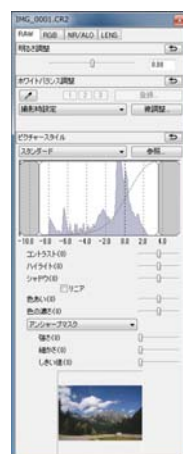
- EOS-1D X、EOS-1D Mark IV、EOS-1Ds Mark III、EOS-1D Mark III、EOS 5D Mark III、EOS 7D、EOS 60D、EOS Kiss X6i、EOS Kiss X5 で撮影した画像に、アスペクト比情報が付いているときは、切り抜いた画像として表示されます。(p.38、p.111)
- メイン画面の機能一覧は、p.124 を参照してください。

サムネイル画像の大きさを変える

メイン画面に表示されるサムネイル画像の大きさを変えたり、撮影情報付きで表示させることができます。

メニューの［表示］▶ 目的の項目を選ぶ

➜ 選んだ項目の表示に切り換わります。

編集画面で画像を拡大して見る

➜ 編集画面が表示されます。

編集画面　　ツールパレット

➜ 画像が鮮明な表示に切り換わるまで時間がかかることがあります。

● 編集画面を終了するときは、編集画面右上の［ ］を押します。

● 編集画面では、メニューの［表示］▶［AF フレーム表示］を選ぶと、撮影時にカメラで選択した AF フレームを表示することができます。ただし、画像サイズを変更の上、変換して保存（p.42、p.134）した画像や魚眼レンズの歪曲収差補正で［撮影時設定］以外の効果を選んだ画像、カメラ本体での RAW 現像処理時に歪曲補正、色収差補正の設定を行った画像では、AF フレームは表示されません。

● 編集画面の機能一覧は、p.127 を参照してください。

特定の箇所を拡大して見る

拡大したい箇所をダブルクリックする

➜ ダブルクリックした箇所を中心に、100％（ピクセル等倍）の拡大表示になります。しばらくすると、より鮮明な表示に切り換わります。

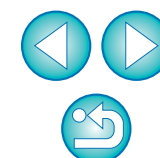
● 再度ダブルクリックすると全体表示に戻ります。

● 表示位置を変えるときは、画像上をドラッグするか、ツールパレットの拡大表示位置をドラッグします。

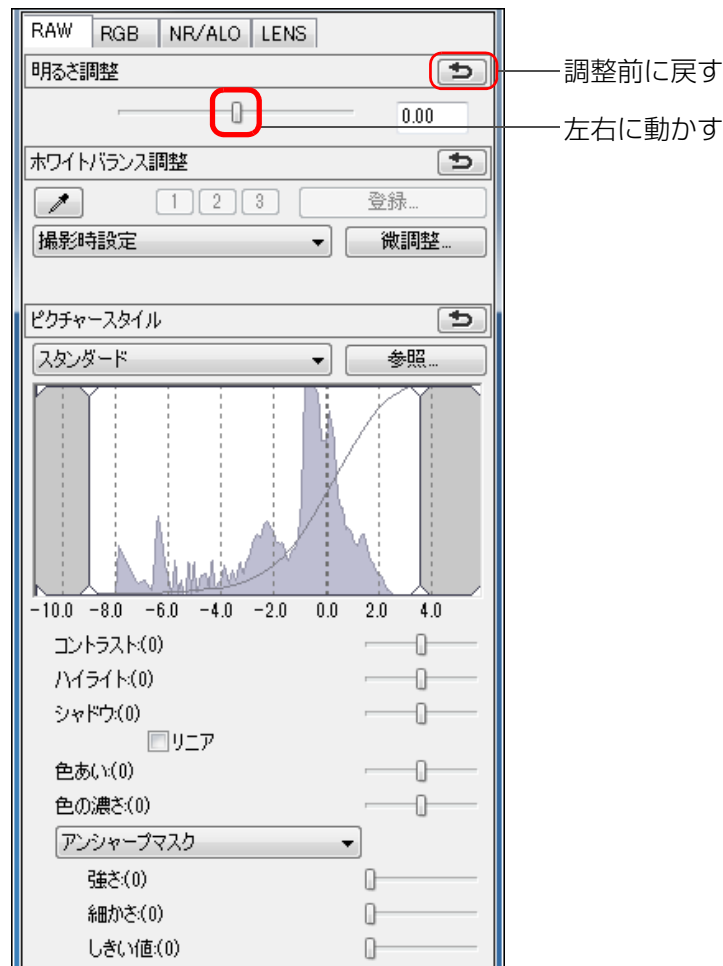
ツールパレットの拡大表示位置

100%以外の拡大率で表示する

メニューの［表示］▶［200% 表示］または［50% 表示］を選びます。

ダブルクリックしたときの拡大率を変えることができます。（p.91）

画像を調整する

　編集画面のツールパレットを使って、画像の明るさやピクチャースタイルの変更など、様々な画像調整を行うことができます。なお、間違った調整をしても［ ］ボタンで簡単に元の状態に戻すことができるので、色々な調整を試してみてください。
　ここでは、例として画像の明るさ調整を説明します。

ツールパレット

➜ 調整量に応じて、画像の明るさがリアルタイムで変わります。

? ツールパレットが表示されない

メニューの［表示］▶［ツールパレット］を選びます。

ツールパレットについて

　ツールパレットは、編集目的に応じて［RAW］、［RGB］、［NR/ALO］、［LENS］のタブ画面を切り換えて画像を調整することができます。
　ツールパレットで調整した内容（そのつど、自動現像処理）は、画像処理条件を変えているだけなので、「オリジナル画像データそのもの」はまったく変わりません。そのため、編集にともなう画像劣化を一切気にすることなく、何度でも調整をやり直すことができます。
　なお、ツールパレットの各機能は、2 章以降で詳しく説明します。

レシピについて

　ツールパレットで調整したすべての内容（画像処理条件の情報）は、DPP では、「レシピ」というデータとして画像に保存することができます。（p.96）

 ツールパレットの機能一覧は、p.128 を参照してください。

はじめに
やりたいこと目次
基本操作
応用操作
高度な機能
大量の画像を扱う機能
JPEG/TIFF画像編集
資　料
索　引

保存する

ここで説明する保存操作を行うと、ツールパレットで調整したすべての内容（レシピ）を RAW 画像に保存することができます。

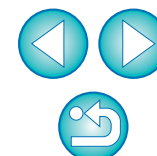
メニューの［ファイル］▶［上書き保存］を選ぶ

➜ 調整した内容（レシピ）が画像に保存されます。

保存について

DPP では、目的に応じた以下の保存を行うことができます。なお、各保存方法は、2 章以降で詳しく説明します。

- **上書き保存** （p.41）
  ツールパレットで調整した内容（レシピ）を、RAW 画像に保存します。
- **別名で保存** （p.41）
  オリジナルの RAW 画像に、ツールパレットで調整した内容（レシピ）を付けて、別の RAW 画像として保存します。オリジナルの RAW 画像はそのまま残ります。
- **画像にサムネイルを付加して保存** （p.23） *
  メイン画面のサムネイル画像を作り直し、各画像に保存します。
  メイン画面の画像が鮮明になり、画像の表示速度も向上します。
- **変換して保存** （p.42）
  調整した RAW 画像を、JPEG 画像や TIFF 画像に変換して保存します。
  オリジナルの RAW 画像はそのまま残ります。
- **一括保存** （p.99）
  調整した複数の RAW 画像を、JPEG 画像や TIFF 画像に一括変換して保存します。
  オリジナルの RAW 画像はそのまま残ります。

* メイン画面で行うことができます。

印刷する

画像をプリンターで印刷することができます。ここでは、例として 1 枚の画像を 1 枚の用紙に印刷する方法を説明します。

1 メニューの［ファイル］▶［印刷］を選ぶ

➜ プリンターの印刷設定画面が表示されます。

2 印刷する

- 表示されたプリンターの印刷設定画面で、写真印刷に最適な設定にして［OK］ボタンを押します。

➜ 印刷が開始されます。

印刷について

DPP では、目的に応じた以下の印刷を行うことができます。各印刷方法は、2 章以降で詳しく説明します。

- 1 枚印刷 （p.49）
- キヤノン製インクジェットプリンターを使用した印刷 （p.43、p.46）
- キヤノン製ハイエンドプリンターとの連携印刷 （p.87）
- 撮影情報付き印刷 （p.85）
- 一覧印刷（コンタクトシート印刷）（p.86）

DPP を終了する

メイン画面のメニューの［ファイル］▶［終了］を選ぶ

ファイル(F)
編集画面で開く(O) Ctrl+O
編集画面（拡大表示）で開く(N)
上書き保存(S) Ctrl+S
別名で保存(A)... Ctrl+Shift+S
画像にサムネイルを付加して保存(T) Ctrl+Shift+T
変換して保存(V)... Ctrl+D
一括保存(B)... Ctrl+B
新規フォルダの作成(N)...
印刷(P)... Ctrl+P
詳細指定印刷(E)... Ctrl+Alt+P
コンタクトシート印刷(C)... Ctrl+Shift+P
プラグイン印刷(L)
コレクションに追加 Ctrl+G
コレクションからはずす(R) Ctrl+Shift+G
コレクションをクリア
削除(D) Del
画像情報(I) Ctrl+I
終了(X) Alt+F4

➜ DPP が終了します。

調整した画像を保存せずに DPP を終了しようとすると、保存に関する確認画面が表示されます。［すべてはい］ボタンを押すと、調整したすべての画像に調整内容（レシピ）が保存されます。

2 一歩進んだ応用操作

効率的な画像確認から、さまざまな画像編集、キヤノン製プリンターを使用した RAW 画像印刷、画像整理まで、一歩進んだ操作について説明します。

画像を効率よくチェック／分類する

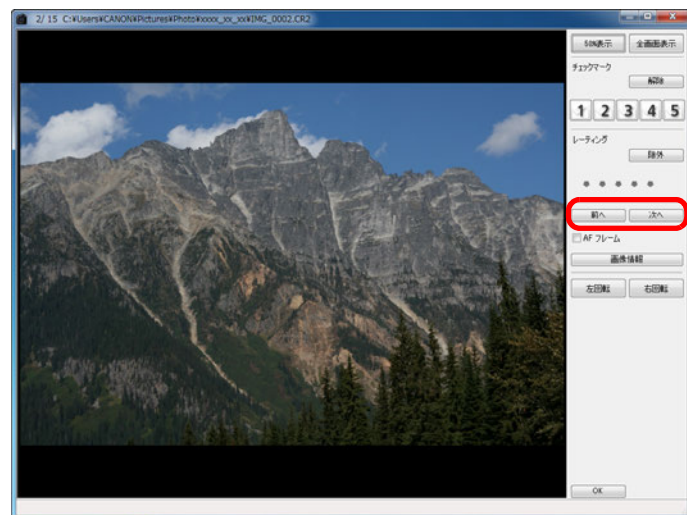
メイン画面で一覧表示されている画像を大きく表示して、写り具合を効率よくチェックすることができます。また、チェックマークをつけて画像を５グループに分類することができます。

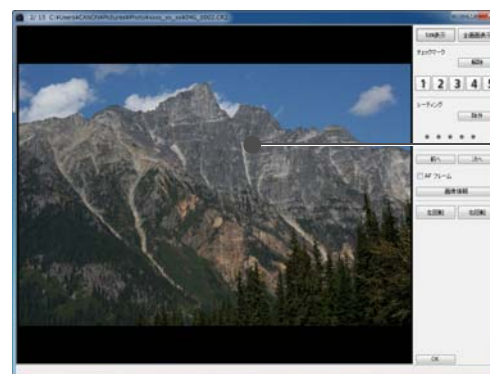
1 クイックチェック画面を表示する

- ［クイックチェック］ボタンを押します。

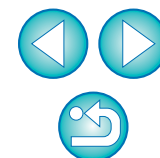
➜ クイックチェック画面が表示されます。

2 ［次へ］または［前へ］ボタンを押して、チェックする画像を切り換える

クイックチェック画面

- メイン画面に表示されたすべての画像をクイックチェック画面でチェックすることができます。

3 拡大したい箇所をダブルクリックする

➜ ダブルクリックした箇所を中心に、拡大表示（50%表示）になります。

- 表示位置を変えるときは、画像をドラッグします。
- 再度ダブルクリックすると全体表示に戻ります。
- 終了するときは、［OK］ボタンを押します。

［AF フレーム］をチェックすると、撮影時にカメラで選択した AF フレームを表示することができます。ただし、画像サイズを変更の上、変換して保存（p.42、p.134）した画像や、カメラ本体での RAW 現像処理時に歪曲補正、色収差補正の設定を行った画像、合成した画像、HDR（ハイダイナミックレンジ）生成画像では、AF フレームは表示されません。

クイックチェック画面の便利な機能

●画像を選んでチェックしたいときは

メイン画面に表示された画像から、任意に複数の画像を選んで手順 1 の操作を行うと、選んだ画像だけをクイックチェック画面でチェックすることができます。

●キーボードの操作で画像を切り換える

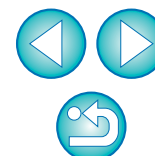
〈→〉キーまたは〈←〉キーを押して、表示する画像を切り換えることもできます。

●キーボードの操作で画面を切り換える

〈Alt〉＋〈Enter〉キーを押して、全画面表示／通常画面表示を切り換えることもできます。

●メニューで操作する

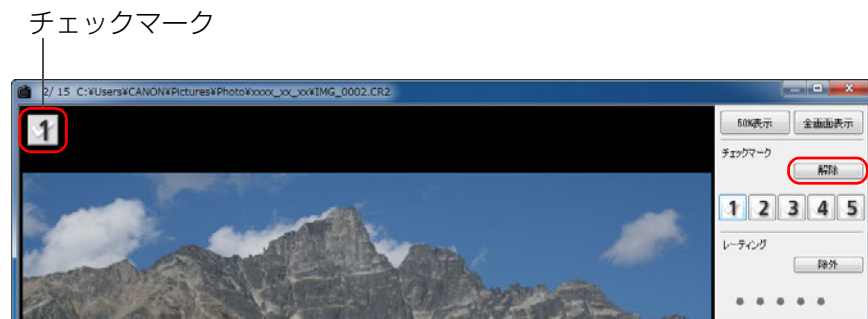
画像上でマウスの右ボタンをクリックして表示されるメニューでも、各種の操作を行うことができます。

- 拡大表示にしたときの拡大率は、100%（ピクセル等倍）の半分（50%）です。
- 拡大表示にしたときの拡大率を、100%に変えることができます。（p.91）
- クイックチェック画面の機能一覧は、p.132 を参照してください。

画像を分類する

被写体やテーマごとにチェックマークを付けたり、レーティング（[★] マークで表示）を設定して、画像を分類することができます。

チェックマークを付ける

チェックマークを付けたい画像を表示し、[1] ～ [5] のいずれかをクリックする

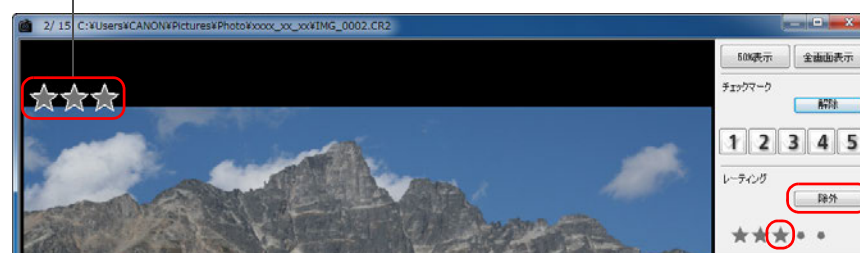
➜ 選んだチェックマークが画面左上に表示されます。

● チェックマークを外すときは、［解除］ボタンを押します。

● DPPVer3.8 以前のバージョンで画像に付けたチェックマークは、そのままの値が引き継がれます。
● メイン画面の画像上で、マウスの右ボタンをクリックして表示されるメニューでも、チェックマークを付けることができます。

レーティング設定をする

レーティングを設定したい画像を表示し、いずれかの [•] をクリックする

➜ レーティングが設定され、選んだ [★] に対応したアイコンが画面左上に表示されます。（画面は [★] 3 つのレーティング設定例）

● ［除外］を設定するときは、［除外］ボタンを押します。再度［除外］ボタンを押すと解除されます。

● レーティング設定を解除するときは、画面右側にある、設定したときと同じ位置の [★] をクリックします。

画像にレーティングの設定をすると、画像データのファイル構造が変わるため、他社のアプリケーションソフトでは、画像情報が確認できなくなることがあります。

メイン画面の画像上で、マウスの右ボタンをクリックして表示されるメニューでも、レーティング設定（［除外］の設定を含む）を行うことができます。

メイン画面で画像を分類する

メイン画面でも、被写体やテーマごとにチェックマークを付けたり、レーティング（[★] マークで表示）を設定して、画像を分類することができます。

メイン画面でチェックマークを付ける

チェックマークを付けたい画像を選び、ツールバーの［✓1］〜［✓5］のいずれかをクリックする

➜ 選んだチェックマークが画像枠の左上に表示されます。

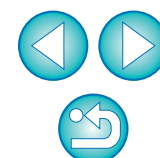
- チェックマークを外すときは、ツールバーのチェックマークを再度クリックします。

メイン画面でレーティング設定をする

レーティングを設定したい画像を選び、ツールバーのいずれかの［●］をクリックする

クリック（［●］をクリックすると［★］に変わります）

➜ レーティングが設定され、選んだ［★］に対応したアイコンが、画像枠に表示されます。（画面は［★］3 つのレーティング設定例）

- レーティング設定を解除するときは、ツールバーにある、設定したときと同じ位置の［★］をクリックします。
- ツールバーでは、［除外］の設定を行うことができません。［除外］の設定は、メニューの［ラベル］か、［クイックチェック］画面 （p.18）で行ってください。

メイン画面で複数の画像を選ぶには

〈Ctrl〉キーを押したまま画像をクリックします。また、連続した複数の画像を選ぶときは、最初の画像をクリックし、〈Shift〉キーを押したまま最後の画像をクリックします。

メイン画面でより多くのサムネイルを表示するには

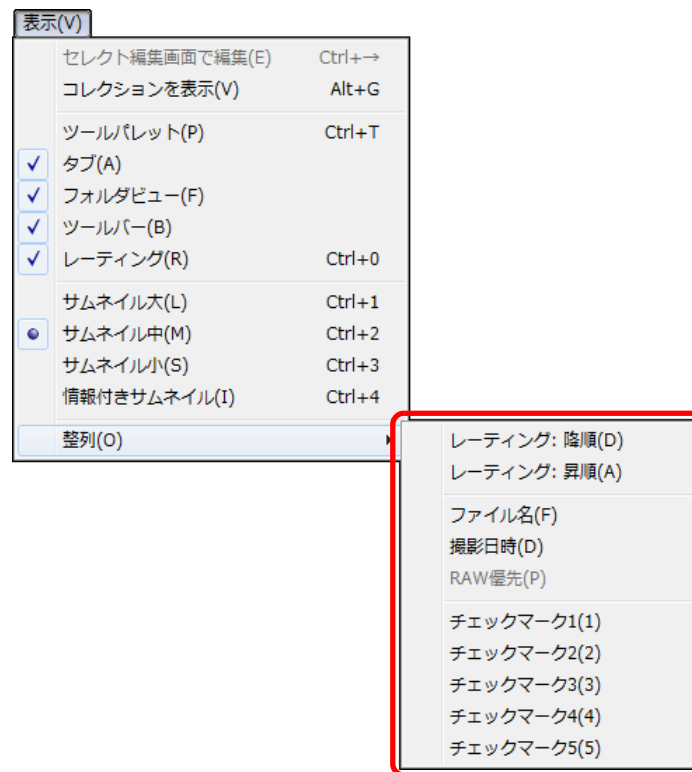
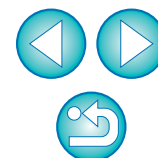
サムネイル画像の大きさを小に設定（p.10）すると多くの画像を表示できますが、その状態でメニューの［表示］▶［レーティング］を選んでチェックを外すと、画像枠からレーティング表示部分がなくなり、より多くのサムネイル画像をメイン画面に表示することができます。

- メニューの［ラベル］でも、チェックマークを付けたりレーティング設定を行うことができます。
- メニューの［編集］▶［チェックマーク］または［レーティング］▶画像の選択条件を選ぶと、チェックマークを付けた画像やレーティング設定された画像を、条件を絞って選ぶことができます。
- DPP で設定したレーティングは、他の付属ソフトや EOS-1D X、EOS 5D Mark III、EOS 7D（ファームウェア Ver.2.0.0 以上）、EOS 60D、EOS Kiss X6i、EOS Kiss X5、EOS Kiss X50 カメラ本体でも、表示や設定変更を行うことができます。
  - ・EOS Utility Ver.2.9 以降：
    DPP で設定したレーティングを表示します。ただし［除外］は表示されません。また、レーティングの設定変更をすることはできません。
  - ・EOS-1D X、EOS 5D Mark III、EOS 7D（ファームウェア Ver.2.0.0 以上）、EOS 60D、EOS Kiss X6i、EOS Kiss X5、EOS Kiss X50 カメラ本体：
    DPP で設定したレーティングが再生画面に表示されます。レーティングの設定変更も可能ですが、［除外］については、表示も設定変更もすることができません。
- EOS-1D X、EOS 5D Mark III、EOS 7D（ファームウェア Ver.2.0.0 以上）、EOS 60D、EOS Kiss X6i、EOS Kiss X5、EOS Kiss X50 カメラ本体で静止画に設定したレーティングは、DPP 上で表示や設定変更を行うことができます。

メイン画面の画像を並べ替える

画像に付けたチェックマークの種類や、撮影日時順に画像を並べ替えたり、画像を 1 枚ずつ移動して自由に並べ替えることができます。

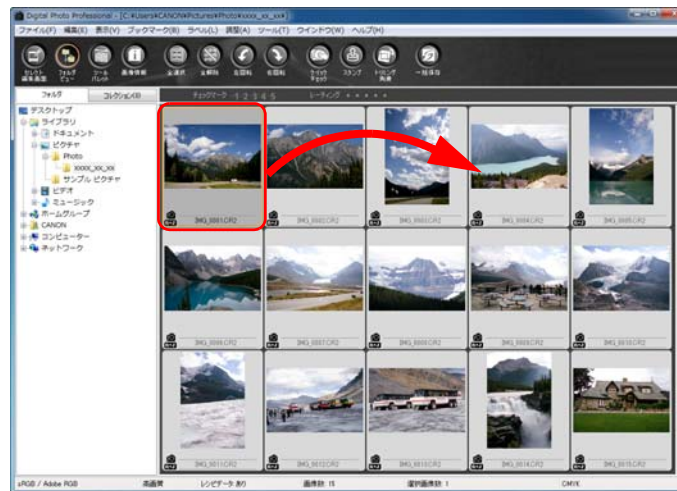
種類別に並べ替える

メニューの［表示］▶［整列］▶目的の項目を選ぶ

➜ 選んだ項目順に画像が並び替わります。

整列項目	内　容
レーティング：昇順	レーティングの［★］が少ない順に並びます。
レーティング：降順	レーティングの［★］が多い順に並びます。
ファイル名	ファイル名が０～９→ａ～ｚの順に並びます。
撮影日時	撮影日時の早い順に並びます。
RAW 優先	RAW 画像→ JPEG 画像→ TIFF 画像の順に並びます。
チェックマーク１～５	チェックマークの付いた画像が優先され、番号順に並びます。

チェックマークの並び順

１～５のチェックマークを設定したときの並び順は以下のようになります。
１を選ぶと１→２→３→４→５
２を選ぶと２→３→４→５→１
３を選ぶと３→４→５→１→２
４を選ぶと４→５→１→２→３
５を選ぶと５→１→２→３→４

自由に並べ替える

画像をドラッグして移動先で放す

→ 放した箇所に画像が移動します。

- 複数の画像を選んで （p.20）、移動することもできます。
- DPP を終了したり、フォルダエリアで別のフォルダを選ぶまで、並べ替えた画像の並び順は保持されます。
- メニューの［表示］▶［整列］▶［ファイル名］を選ぶと、並べ替える前の並び順に戻ります。

並べ替えた画像の並び順を保持するには

DPP を終了したり、フォルダエリアで別のフォルダを選んだときでも、並べ替えた画像の並び順を保持することができます。

- **画像のファイル名を変えずに並び順を保持する**

［環境設定］の［表示設定］タブ画面で、画像のファイル名を変えずに、画像の並び順を保持することができます。（p.91）

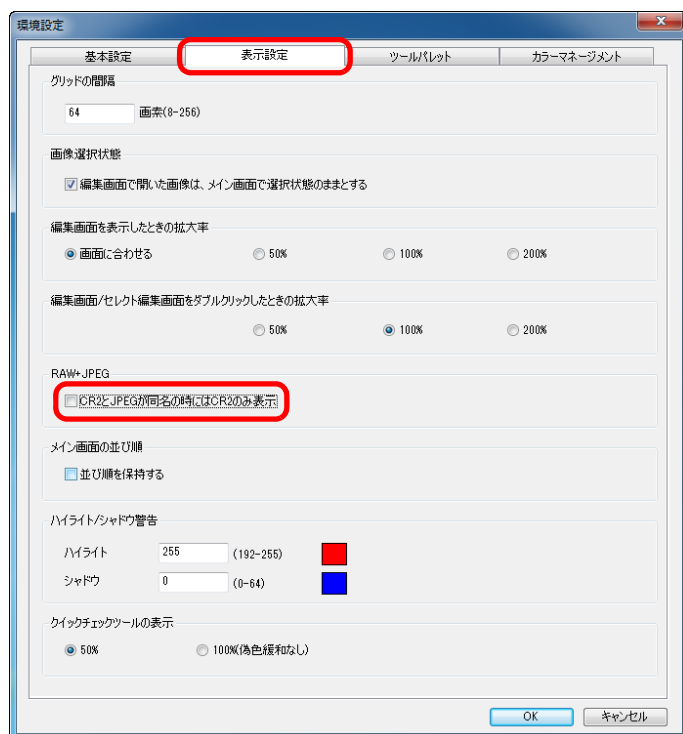
- **画像のファイル名を変えて並び順を保持する**

リネーム機能を使うと、並べ替えた順に画像のファイル名が一括して変わり、画像の並び順を保持することができます。（p.101）

RAW 画像と JPEG 画像を 1 枚の画像として表示する

同時撮影した RAW 画像と JPEG 画像を 1 枚の画像として表示し、取り扱うことができます。特にメイン画面上の表示画像数を半分にすることができ、同時撮影した大量画像を効率よくチェックすることができます。

1 **メニューの［ツール］▶［環境設定］を選ぶ**

2 **［表示設定］タブを選んで、［CR2 と JPEG が同名の時には CR2 のみ表示］をチェックする**

➜ メイン画面の表示が更新されて、同時撮影された RAW 画像と JPEG 画像が［ R+J ］マーク （p.126）の付いた 1 枚の画像として表示されます。

？ 1 枚表示にできるのは、拡張子が「.CR2」の RAW 画像

1 枚表示にできるのは、拡張子が「.CR2」の RAW 画像と JPEG 画像が同時撮影されるカメラの画像です。RAW 画像の拡張子が「.CRW」や「.TIF」で撮影されるカメラで同時撮影した画像は、1 枚表示になりません。

1 枚表示にしたときは？

● 表示される画像

すべての画面で RAW 画像が表示されます。

● 編集される画像

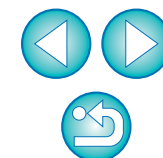
DPP の各種機能（ツールパレットなど）で調整した内容は、RAW 画像にのみ適用されます。

ただし、下記の機能を使ったときは、RAW 画像と JPEG 画像の両画像が適用の対象となります。

- 画像の削除（p.49）
- 画像の移動またはコピー（p.50）
- チェックマーク（p.18、p.19）
- レーティング（p.18、p.19）
- 画像の回転（p.124、p.132、p.133）
- 画像にサムネイルを付加して保存（p.23）

●［コレクション］画面に追加される画像

1 枚表示された RAW 画像と JPEG 画像を［コレクション］画面に追加すると、［ R+J ］マークの付いた 1 枚の画像が表示されますが、実際には、RAW 画像と JPEG 画像が個別に追加されているため、［コレクション］タブ（p.125）には、2 枚分の画像枚数が表示されます。

手順 2 の操作で、［CR2 と JPEG が同名の時には CR2 のみ表示］のチェックを外すと、RAW 画像と JPEG 画像は、それぞれ別の画像として表示されます。

メイン画面の画像を鮮明にする

メイン画面用のサムネイル画像を作り直して、各画像に保存します。
メイン画面の画像が鮮明になり、画像の表示速度も向上します。

すべての画像を選び、メニューの［ファイル］▶［画像にサムネイルを付加して保存］を選ぶ

鮮明度が向上する度合い

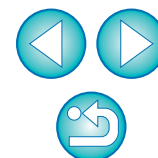
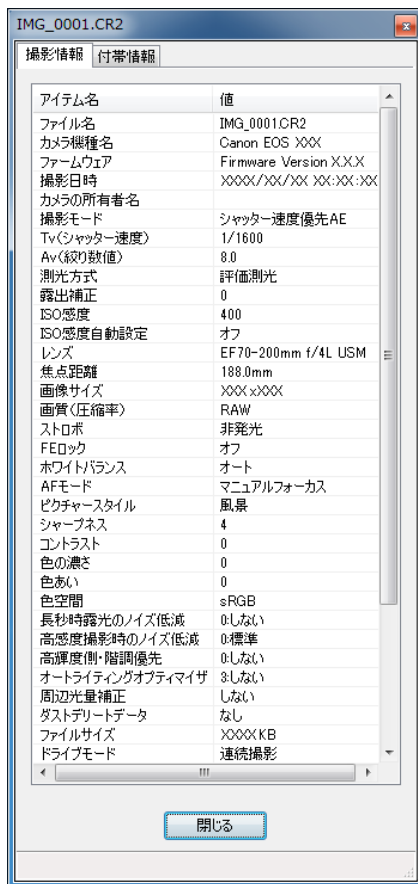
JPEG 画像、TIFF 画像、いずれの画像でも鮮明度は向上します。また、サムネイル画像の大きさ（p.10）にかかわらず鮮明度は向上しますが、**［サムネイル中］**や**［サムネイル小］**を選んだときよりも、表示サイズの大きい**［サムネイル大］**を選ぶと、画像がもっとも鮮明に表示されます。

大量の画像を選んだときは、処理に時間がかかることがあります。

画像情報を確認する

1 画像情報を見たい画像を選ぶ

2 ［画像情報］ボタンを押す

➜ 画像情報画面が表示されます。（p.24）

3 タブを選んで情報を確認する

［撮影情報］タブ画面　　　　［付帯情報］タブ画面

- ［撮影情報］タブ画面には、撮影情報が表示され、［付帯情報］タブ画面には、撮影後、画像に付加された IPTC* 情報が表示されます。
  IPTC* 情報は、キャプションやクレジット、撮影場所などのコメント情報で、［付帯情報］タブのリストボックスから、［説明］、［IPTC 連絡先］、［IPTC イメージ］、［IPTC コンテンツ］、［IPTC ステータス］の 5 項目に分類された情報を選んで表示することができます。
  なお、IPTC* 情報の付加は、Photoshop（CS3 以降）を用いて JPEG/TIFF 画像にのみ付加することが可能です。
  * International Press Telecommunications Council：
  国際新聞通信委員会
- ［撮影情報］タブ画面に表示される内容は、機種によって異なります。

メイン画面での便利な使いかた

● 表示の切り換え

画像情報画面を表示している状態で、メイン画面に表示されている別の画像を選ぶと、選んだ画像の画像情報に表示が切り換わります。

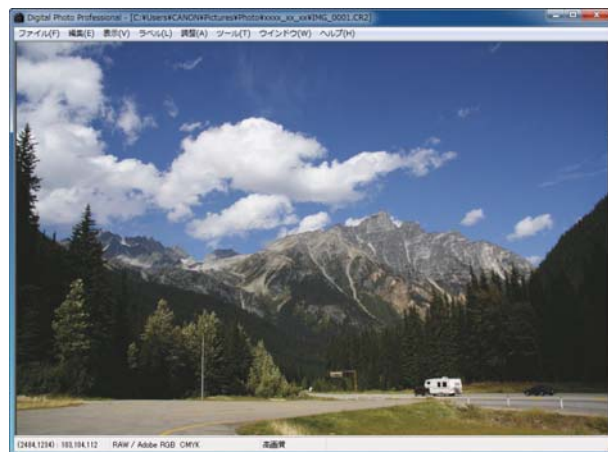
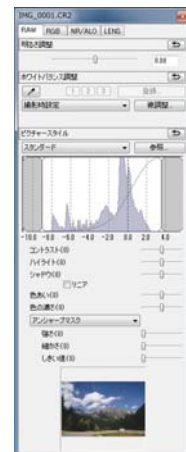
● 情報付きサムネイルとの使いわけ

画像情報画面には、画像ごとの詳細な撮影情報が表示されます。ただし、主要な撮影情報だけを確認したいときは、メニューの［表示］▶［情報付きサムネイル］（p.10）で各画像の撮影情報を確認することもできます。

編集する

編集画面のツールパレットを使った画像調整の方法を説明します。

また、間違った調整をしても［ ］ボタンで簡単に元の状態に戻すことができるので、色々な調整を試してみてください。

ここでは、［RAW］ツールパレットの機能を使った調整と、［RGB］ツールパレットの自動調整について説明します。

編集画面 ツールパレット

➜ ツールパレットで行った調整内容に応じて、画像がリアルタイムで変わります。

- ツールパレットで行った操作を 1 つ前の状態に戻したいときは、メニューの［**編集**］▶［**元に戻す**］を選ぶか、〈Ctrl〉＋〈Z〉キーを押します。

- 画像の回転は、メニューの［**調整**］で行うことができます。
- 調整前と調整後の画像を見比べながら調整することができます。（p.53）
- 複数の画像を同期させて、見比べながら編集することができます。（p.54）
- 編集画面の機能一覧は p.127 を、ツールパレットの機能一覧は p.128 を参照してください。

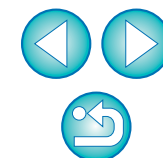
RAW ツールパレットについて

ツールパレットは、編集目的に応じて［RAW］、［RGB］、［NR/ALO］、［LENS］のタブ画面を切り換えて画像を調整することができます。

［RAW］ツールパレットの機能は、カメラに搭載された機能と同じような調整が行えます。撮影時のカメラ設定が誤っていたときや、撮影結果が撮影時のイメージと違っているときは、カメラライクな［RAW］ツールパレットで、イメージした画像に近づけることができます。

なお、［RGB］ツールパレットの自動調整以外の機能や、［NR/ALO］、［LENS］ツールパレットの各機能は、3 章で説明します。

メイン画面でのツールパレットによる編集

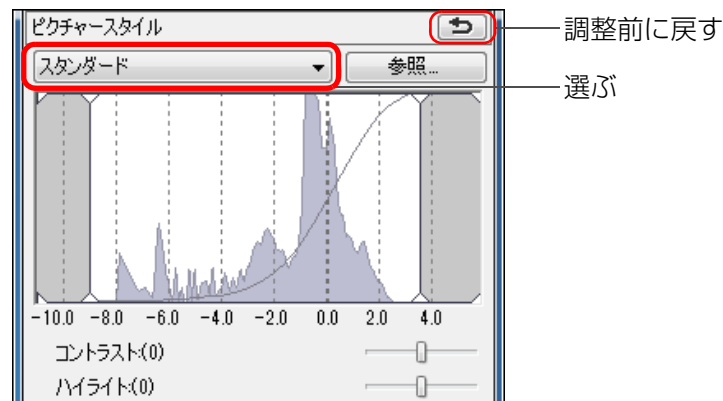
メイン画面でも、ツールバーの［**ツールパレット**］ボタン（p.124）を押すと、編集画面と同じツールパレットが表示され、画像を編集することができます。

明るさを調整する

画像の明るさを調整することができます。スライダーを右に動かすと画像が明るくなり、左に動かすと画像が暗くなります。

調整範囲は、－2.0～＋2.0（数値入力では 0.01 単位）です。

ピクチャースタイルを変える

画像が撮影時のイメージと違っているときは、ピクチャースタイルを変えることで、撮影時のイメージに近づけることができます。

なお、**［モノクロ］**（p.30）を選んで保存（p.41）しても、再度**［モノクロ］**以外のピクチャースタイルを選べば、いつでも、選んだピクチャースタイルにすることができます。

- ピクチャースタイルが搭載されていないカメラの RAW 画像でも、DPP の対応 RAW 画像（p.3）であれば、ピクチャースタイルを設定することができます。
- ピクチャースタイルを変えても「色あい」、「色の濃さ」、「コントラスト」、「アンシャープマスク」、「シャープネス」の値が変わらないようにすることができます。（p.92）
- **［オート］**は、EOS-1D X、EOS 5D Mark III、EOS Kiss X6i、EOS Kiss X5 で撮影した画像にのみ適用されます。
  なお、複数の画像を選んでピクチャースタイルを変えるときは、EOS-1D X、EOS 5D Mark III、EOS Kiss X6i、EOS Kiss X5 で撮影した画像が含まれていると**［オート］**を選ぶことはできますが、実際に**［オート］**が適用されるのは、EOS-1D X、EOS 5D Mark III、EOS Kiss X6i、EOS Kiss X5 で撮影した画像のみとなります。
- カメラ本体で生成した多重露出 RAW 画像では、**［オート］**を選ぶことはできません。

ピクチャースタイル	内　容
スタンダード	鮮やかな画像になります。 通常はこの設定でほとんどの画像に対応できます。
オート	撮影シーンに応じて色あいが調整されます。 とくに自然や屋外シーン、夕景シーンでは、青空、緑、夕景が色鮮やかな写真になります。
ポートレート	肌がきれいな画像になります。 女性や子どもをアップで撮影した画像などに効果的です。また、**［色あい］**で肌色を調整することができます。(p.29)
風景	青空や緑の色が鮮やかな画像になります。 印象的な風景としたい画像などに効果的です。
ニュートラル	自然な色あいで、メリハリの少ない控えめな画像になります。調整用の元画像として有効です。
忠実設定	5200K 程度の環境光下で撮影した画像が、測色的に被写体の色とほぼ同じになるよう色調整されます。調整用の元画像として有効です。
モノクロ	白黒画像になります。 また、**［フィルター効果］**と**［調色］**を調整することができます。(p.30)
（カメラに登録したピクチャースタイルファイル）	カメラに登録したピクチャースタイルファイルで撮影した画像を選んだときに表示されます。 リストには、ピクチャースタイルファイル名が、（　）付きで表示されます。
［DPP で適用したピクチャースタイルファイル］	DPP で適用したピクチャースタイルファイル名が、［　］付きで表示されます。

ピクチャースタイルファイル

ピクチャースタイルファイルとは、ピクチャースタイルの拡張機能ファイルです。使いかたは、p.59 を参照してください。

ホワイトバランスを変えて色あいを調整する

撮影した画像が自然な色あいになっていないときは、ホワイトバランスを変えて、自然な色あいにすることができます。淡い色の花などは、撮影時の光源に設定すると自然な色あいにすることができます。

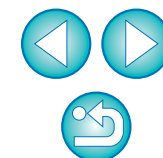
ホワイトバランスを変えても自然な色あいにならない

ホワイトバランスの設定を変えても自然な色あいにならないときは、クリックホワイトバランス（p.28）でホワイトバランスを調整してください。

色あいで微調整

ホワイトバランスを調整したあと、さらに微小な色あいを調整するには、**［色あい］**（p.29）を使って調整すると、よりイメージに近づけることができます。

- リストボックスで**［撮影時設定］**を選んだときは、調整結果をカスタムホワイトバランス（p.98）として登録することはできません。
- カメラ本体で生成した多重露出 RAW 画像では、ホワイトバランスを変更、調整することはできません。

ホワイトバランスの各項目内容については、カメラの使用説明書を参照してください。

はじめに
やりたいこと目次
1 基本操作
2 応用操作
3 高度な機能
4 大量の画像を扱う機能
5 JPEG/TIFF画像編集
資　料
索　引

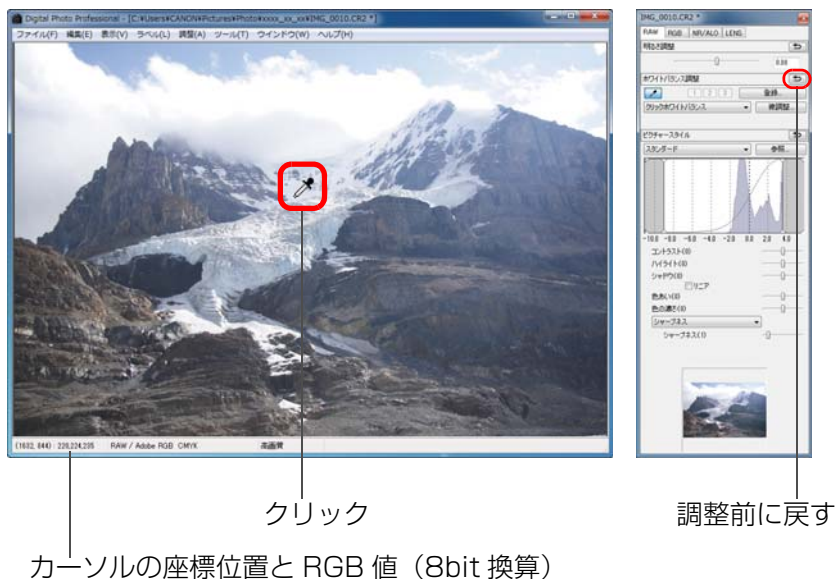
クリックホワイトバランスで色あいを調整する

選んだ箇所を白の基準としてホワイトバランスを調整し、自然な色あいにすることができます。光源の影響で、白の色あいが変わっている部分にクリックホワイトバランスを行うと効果的です。

1

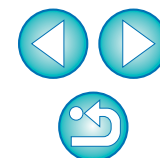
RAW　RGB　NR/ALO　LENS
明るさ調整
0.00
ホワイトバランス調整
1　2　3　登録...
撮影時設定　微調整...
クリック

2 **白の基準とする箇所をクリックする**

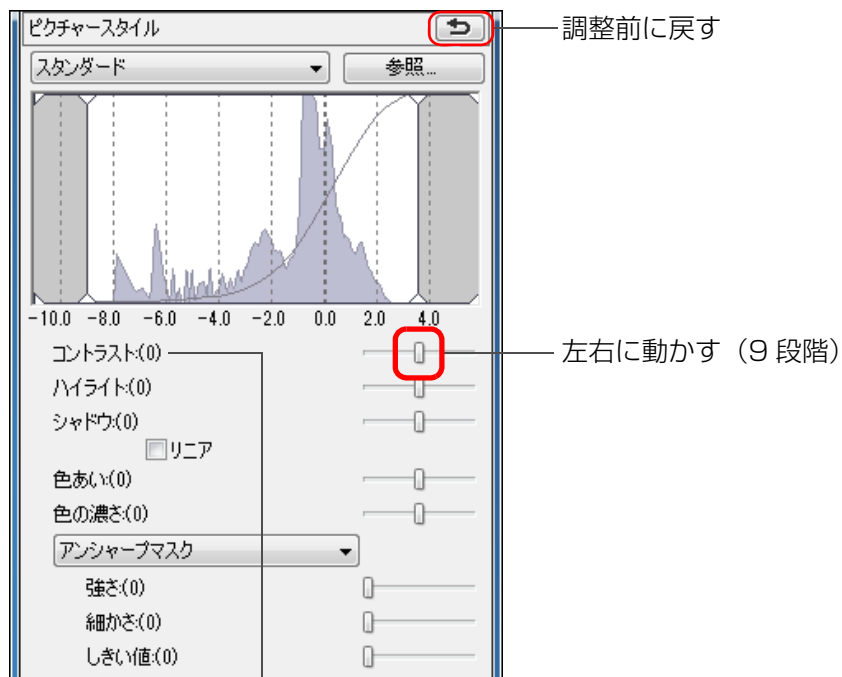
カーソルの座標位置と RGB 値（8bit 換算）

➜ 選んだ箇所を白の基準として画像の色が調整されます。
- 続けて別の箇所をクリックすると、再度調整されます。
- 終了するときは、マウスの右ボタンをクリックするか、［ ］ボタンを再度押します。

 画像に白い箇所がないときは

画像上に白い箇所がないときは、画像上の灰色の箇所を手順 2 の操作でクリックしても、白い部分を選んだときと同じように、ホワイトバランスを調整することができます。

- クリックした箇所から 5 × 5 ピクセルの値を基準に画像が調整されます。
- カメラ本体で生成した多重露出 RAW 画像では、ホワイトバランスを変更、調整することはできません。

はじめに
やりたいこと目次
1 基本操作
2 応用操作
3 高度な機能
4 大量の画像を扱う機能
5 JPEG/TIFF 画像編集
資　料
索　引

コントラスト（明暗差）を調整する

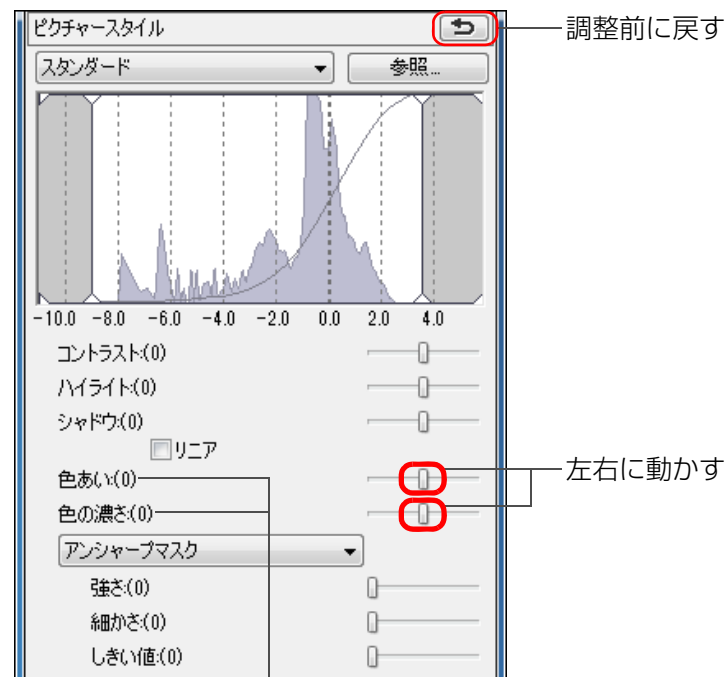
色のメリハリやコントラスト（明暗差の強弱）を調整することができます。スライダーを右に動かすとコントラストが強くなり、左に動かすとコントラストが弱くなります。

[リニア] は高度な調整をするときの機能

[リニア] は、高度な編集機能を装備した画像編集用ソフトウェアで別途調整するときに使用します。なお、[リニア] をチェックすると薄暗い画像になるので注意してください。

[リニア] をチェックすると、オートライティングオプティマイザ (p.61) は機能しません。

色あい、色の濃さを変える

肌の色あいや全体的な色の濃さを調整することができます。

なお、ピクチャースタイル (p.26) で [モノクロ] を選んだときは、[色あい] が [フィルター効果]、[色の濃さ] が [調色] に変わります。(p.30)

- **色あい：** おもに肌の色の調整に使用します。スライダーを右に動かすと肌色が黄色めになり、左に動かすと肌色が赤色めになります。
- **色の濃さ：** 画像の全体的な色の濃さを調整します。スライダーを右に動かすと色が濃くなり、左に動かすと色が薄くなります。

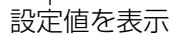
調整範囲は、－４～＋４（１単位）です。

モノクロのときの調整

ピクチャースタイル（p.26）で［モノクロ］を選んだときは、モノクロ写真にフィルターをかけたような効果を出したり、単色カラー写真のような仕上がりにすることができます。

1 ［ピクチャースタイル］リストボックスで［モノクロ］を選ぶ

2

● **フィルター効果**：同じモノクロ写真でも、白い雲や木々の緑を強調した画像にすることができます。

フィルター	効果例
なし	フィルター効果なしの通常の白黒画像になります。
黄	青空がより自然に再現され、白い雲がはっきりと浮かび上がります。
オレンジ	青空が少し暗くなります。夕日の輝きがいっそう増します。
赤	青空がかなり暗くなります。紅葉の葉がはっきりと明るくなります。
緑	人物の肌色や唇が落ち着いた感じになります。木々の緑の葉がはっきりと明るくなります。

● **調色**：色の付いた単色カラーのモノクロ写真にすることができます。**［なし］、［セピア］、［青］、［紫］、［緑］**から選ぶことができます。

［コントラスト］を上げて、フィルター効果を強調する

フィルター効果を強調するときは、「コントラスト（明暗差）」のスライダーを右寄りに設定します。

画像の鮮鋭度を調整する

画像全体の雰囲気を硬い（シャープな）感じにしたり、柔らかい（ねむい）感じにすることができます。調整方法は、**[シャープネス]**、**[アンシャープマスク]** の 2 つのモードから選ぶことができます。

[シャープネス]：画像の輪郭線を強調する度合いを調整することで、画像の鮮鋭度をコントロールします。**[シャープネス]** スライダーを右に動かす（設定値が大きい）ほど、輪郭線が強調されてよりシャープな画像になります。

[アンシャープマスク]：画像の鮮鋭度をより詳細に調整します。

[強さ]：画像の輪郭線を強調する度合いを示します。スライダーを右に動かす（設定値が大きい）ほど、画像の輪郭線が強調されてよりシャープな画像になります。

[細かさ]：強調する輪郭線の細かさを示します。スライダーを左に動かす（設定値が小さい）ほど、より細部を強調することができます。

[しきい値]：「周囲に比べ、どの程度のコントラスト差があれば、輪郭線を強調するのか」の設定をします。

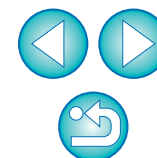
リストボックスから [シャープネス] を選び、設定する

調整範囲は、0 ～ 10（1 単位）です。

画像の鮮鋭度を詳細に設定する

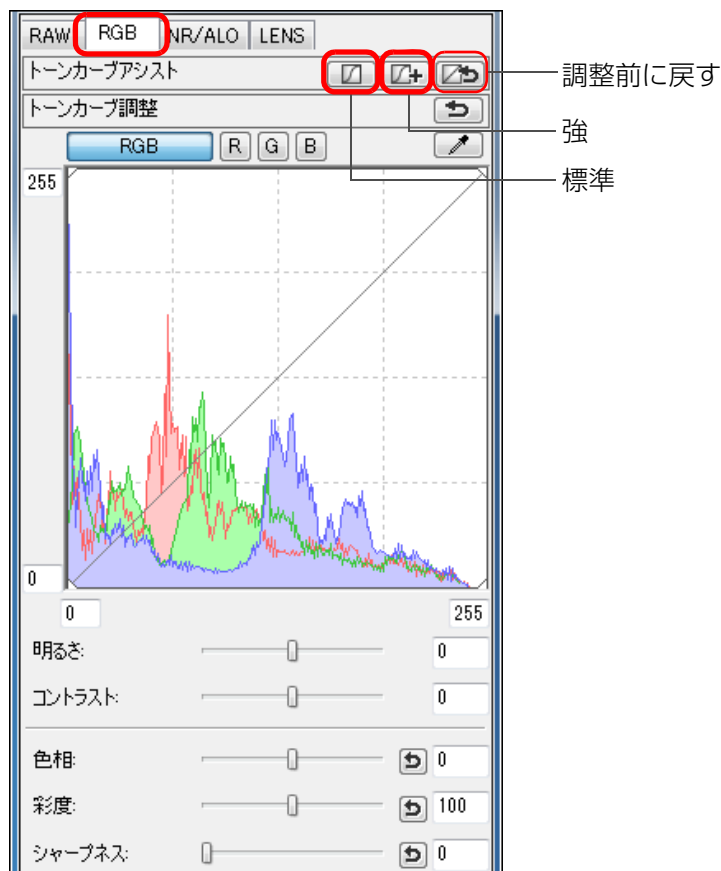
リストボックスから［アンシャープマスク］を選び、設定する

鮮鋭度の調整効果が不自然に表示される

画像の鮮鋭度は、画面の拡大率を［200%］、［100%］、［50%］のいずれかの表示で調整してください。画面の拡大率が［**画面に合わせる**］表示（全体表示）では、調整の効果が不自然に表示されることがあります。

明るさと色を自動的に調整する（トーンカーブアシスト）

好ましいと感じる標準的な画像になるよう、画像のトーンカーブ (p.143) を自動調整します。自動調整の度合いは、「標準」と「強」から選ぶことができます。

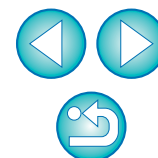
[RGB] タブをクリックして、目的の自動調整ボタンを押す

- **標準：**標準の自動調整です。ほとんどの画像に対応できます。
- **強：** 標準の自動調整では効果が弱いときに使用します。

➜ 調整すると、トーンカーブが変わります。

自動調整（トーンカーブアシスト）の苦手な画像

自動調整（トーンカーブアシスト）は、以下の画像では期待した調整結果にならないことがあります。

・適正な露出で撮影された画像
・明るさが偏っている画像
・暗すぎる画像
・極端な逆光画像

[ ] ボタンを押すと、トーンカーブの他に、**[色相]**、**[彩度]** が初期値に戻ります。個別に **[色相]**、**[彩度]** を調整 (p.107) したときは注意してください。

効率よく編集する

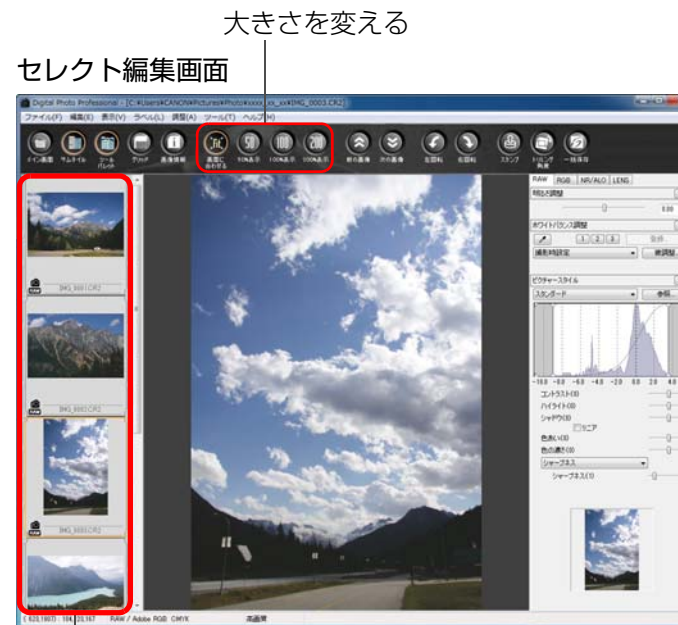
セレクト編集画面で編集する

サムネイル表示と編集画面を組み合わせた画面で、編集する画像を素早く切り換えながら効率よく編集することができます。編集する画像はあらかじめメイン画面で選んでおきます。

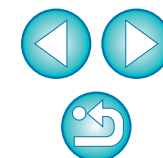
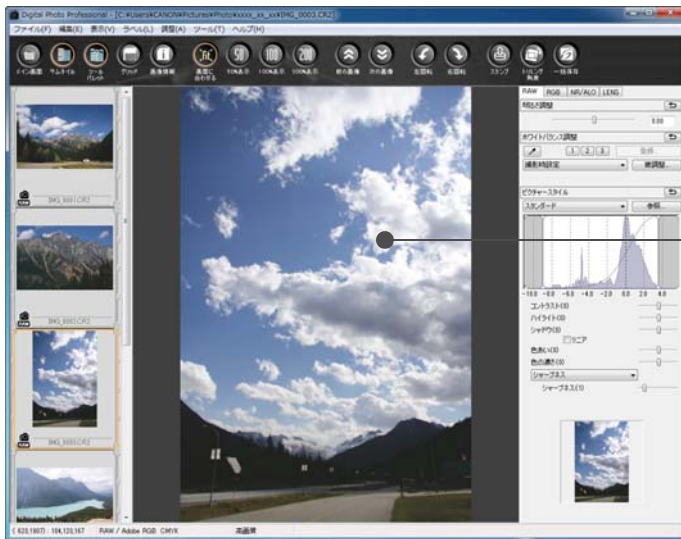
1 メイン画面で編集したい複数の画像を選ぶ

2 セレクト編集画面に切り換える

➜ メイン画面からセレクト編集画面に切り換わります。

3 編集する

➜ 画像が鮮明な表示に切り換わるまで時間がかかることがあります。

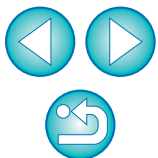
- 編集画面と同じツールパレットが表示され、画像を編集することができます。
- ツールパレットで行った操作を 1 つ前の状態に戻したいときは、メニューの［編集］▶［元に戻す］を選ぶか、〈Ctrl〉＋〈Z〉キーを押します。

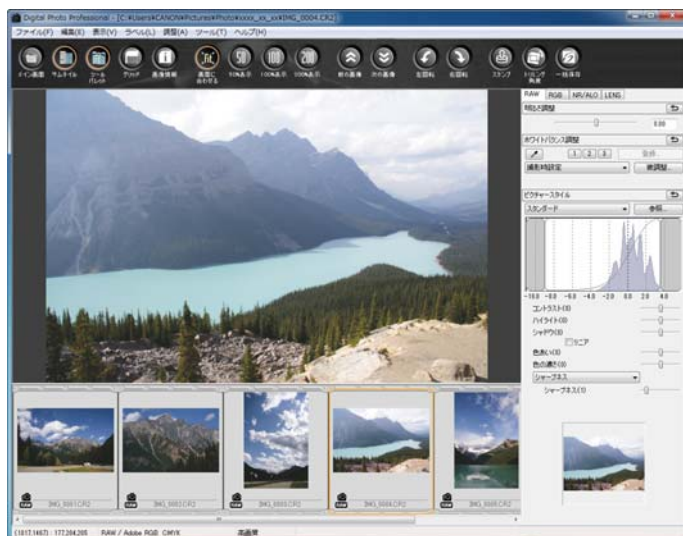
編集画面、セレクト編集画面では、メニューの［表示］▶［AF フレーム表示］を選ぶと、撮影時にカメラで選択した AF フレームを表示することができます。ただし、画像サイズを変更の上、変換して保存 (p.42、p.134) した画像や魚眼レンズの歪曲収差補正で［撮影時設定］以外の効果を選んだ画像、カメラ本体での RAW 現像処理時に歪曲補正、色収差補正の設定を行った画像では、AF フレームは表示されません。

4 拡大したい箇所をダブルクリックする

➜ダブルクリックした箇所を中心に、100%（ピクセル等倍）の拡大表示になります。

- 表示位置を変えるときは、画像上をドラッグするか、ツールパレットの拡大表示位置（p.128）をドラッグします。
- 再度ダブルクリックすると全体表示（**[画面に合わせる]**）に戻ります。
- メイン画面に戻るときは、ツールバーの **[メイン画面]** ボタンを押します。

100%以外の拡大率で表示する

ツールバーで **[50%表示]** または、**[200%表示]** を選びます。

- ツールパレットの表示方法を変えることができます。（p.92）
- ダブルクリックしたときの拡大率を変えることができます。（p.91）
- セレクト編集画面は、画像をひとつのフォルダからしか選ぶことができません。複数のフォルダから画像を集めて編集を行いたいときは、「画像をコレクション画面に集めて編集する」（p.36）を参照してください。
- セレクト編集画面の機能一覧は、p.133 を参照してください。

サムネイル表示の位置を横配置にする

メニューの［表示］▶［サムネイル位置変更］を選ぶ

● 再度、［サムネイル位置変更］を選ぶと、サムネイル表示が縦配置に戻ります。

画像をコレクション画面に集めて編集する

任意に選んだ画像を［コレクション］画面に集め、表示、比較、編集をすることができます。一つのフォルダだけではなく、複数のフォルダから画像を集めることができるので、効率よく作業することができます。

1 メイン画面の［フォルダ］画面で画像を選び、メニューの［ファイル］▶［コレクションに追加］を選ぶ

ファイル(F)

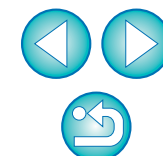
編集画面で開く(O)	Ctrl+O
編集画面（拡大表示）で開く(N)	
上書き保存(S)	Ctrl+S
別名で保存(A)...	Ctrl+Shift+S
画像にサムネイルを付加して保存(T)	Ctrl+Shift+T
変換して保存(V)...	Ctrl+D
一括保存(B)...	Ctrl+B
新規フォルダの作成(N)...	
印刷(P)...	Ctrl+P
詳細指定印刷(E)...	Ctrl+Alt+P
コンタクトシート印刷(C)...	Ctrl+Shift+P
プラグイン印刷(L)	▸
コレクションに追加	Ctrl+G
コレクションからはずす(R)	Ctrl+Shift+G
コレクションをクリア	
削除(D)	Del
画像情報(I)	Ctrl+I
終了(X)	Alt+F4

→ 選んだ画像が［コレクション］画面に追加され、［コレクション］タブに選んだ画像の枚数が表示されます。

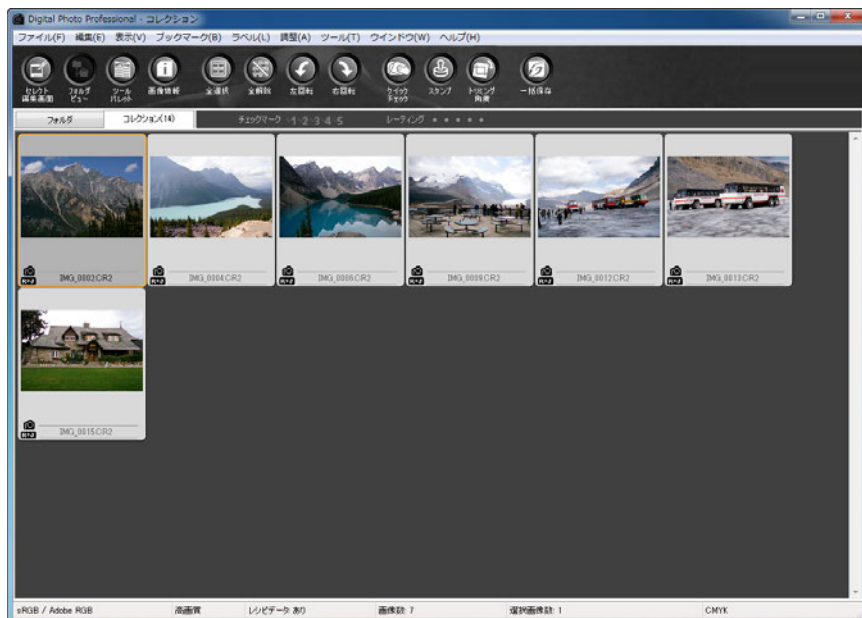
● 1 枚表示 (p.22) にした画像を追加したときは、［コレクション］タブに 2 枚分の画像枚数が表示されます。

● 複数の画像を選んで［コレクション］画面に追加することもできます。

● 画像を選び、マウスの右ボタンをクリックして表示されるメニューから［コレクションに追加］を選んでも、画像を［コレクション］画面に追加することができます。

● ［コレクション］画面には、最大 1000 枚まで画像を追加することができます。

2 ［コレクション］タブを選ぶ

➜ 選んだ画像が［コレクション］画面に表示されます。

3 ［コレクション］画面に表示された画像を確認する

4 編集する

- ［コレクション］画面に表示された画像の編集を行います。

➜ ［コレクション］画面に表示した画像は、DPP を終了しても［コレクション］画面に保持されます。

［コレクション］画面から画像を外すには

● 任意に選んだ画像を外す

［コレクション］画面に表示されている画像を選び、メニューの［ファイル］▶［コレクションからはずす］を選びます。（画像を選び、マウスの右ボタンをクリックして表示されるメニューで［コレクションからはずす］を選んでも、画像を［コレクション］画面から外すことができます）
なお、［コレクション］画面に表示されている画像を外しても、オリジナル画像はそのまま残ります。

● すべての画像を外す

メニューの［ファイル］▶［コレクションをクリア］を選びます。（画像を1枚選び、マウスの右ボタンをクリックして表示されるメニューで［コレクションをクリア］を選んでも、すべての画像を［コレクション］画面から外すことができます）
なお、［コレクション］画面に表示されている画像をすべて外しても、オリジナル画像はそのまま残ります。

画像に行った操作はオリジナル画像に適用される

［コレクション］画面に追加された画像に行った操作は、すべてオリジナル画像に適用されます。

- ［コレクション］画面でも、［フォルダ］画面と同様に、表示された画像を並べ替えることができます。（p.20、p.21）また、［環境設定］の［表示設定］タブ画面で、［並び順を保持する］をチェックすると、DPP を終了しても、並べ替えた画像の並び順を保持することができます。（p.91）
- ［コレクション］画面では、次の機能を使用することができません。
  - ・EOS Utility を起動（p.7）、および EOS Utility とフォルダを同期
  - ・一括して画像のファイル名を変える（p.101）

画像の角度調整と切り抜き（トリミング）

必要な部分だけを切り抜いたり、横位置撮影の画像を縦位置撮影したように構図変更することができます。また、画像の切り抜きに先立って角度調整も行うことができます。なお、［比率］で［円形］を選択したときは、指定した範囲の外側を黒く塗りつぶすだけで、画像の切り抜きは行いません。

1 切り抜く画像を選ぶ

2 トリミング / 角度調整画面を表示する

● ［トリミング角度］ボタンを押します。

➜ トリミング / 角度調整画面が表示されます。
➜ トリミング / 角度調整画面が鮮明な表示になったら、編集が可能になります。

3 必要に応じて画像の角度調整を行う

トリミング / 角度調整画面

切り抜き可能な最大範囲

押す（左右 90 度単位で画像を回転）

動かす *（0.01 度単位。調整可能範囲は－ 45 度～＋ 45 度）

マウス操作（［▲］／［▼］を押す）で角度調整、または調整角度を直接入力 *（0.01 度単位。調整可能範囲は－ 45 度～＋ 45 度）

* 画像サイズが 9999 × 6666 画素を超える画像の角度調整を行うことはできません。

● ［中心に表示する］を押すと、切り抜く範囲を画面の中心に表示することができます。
● レンズの収差を補正するときは、画像の角度調整の前に補正を行うことをおすすめします。
● 画像の角度調整のみを行った状態で［OK］ボタンを押すと、切り抜き可能な最大範囲で切り抜きが行われます。

EOS-1D X、EOS-1D Mark IV、EOS-1Ds Mark III、EOS-1D Mark III、EOS 5D Mark III、EOS 7D、EOS 60D、EOS Kiss X6i、EOS Kiss X5 で撮影した画像に、アスペクト比情報が付いているときは、アスペクト比情報に基づいた切り抜き範囲が表示されます。

4 比率を選んで切り抜く範囲をドラッグする

- 切り抜き範囲は、ドラッグして移動することができます。
- 切り抜き範囲の四隅をドラッグすると、拡大／縮小することができます。（［円形］選択時はできません）
- 比率（横：縦）の一覧

［フリー］：　比率に関係なく自由に切り抜くことができます。
［カスタム］：指定した比率で切り抜くことができます。
［円形］：　指定した範囲の外側を黒く塗りつぶします。
画像の切り抜きは行いません。

5 ［OK］ボタンを押してメイン画面に戻る

➜ 切り抜いた画像には、切り抜き範囲を示す枠線が表示されます。（p.126）

➜ 切り抜いた画像を編集画面やセレクト編集画面に表示したときは、切り抜いた状態で表示されます。

切り抜いた画像について

●切り抜いた範囲はいつでも元に戻せる

切り抜いた画像は、切り抜かれた画像として表示され、印刷することもできます。ただし、実際に画像を切り抜いてはいないため、トリミング / 角度調整画面で［リセット］ボタンを押すか、「編集をやり直す」（p.43）の操作を行うと、いつでも元の状態に戻すことができます。

●切り抜いた画像の各画面での表示

・メイン画面： 画像に切り抜き範囲を示す枠線が表示されます。（p.126）
・編集画面： 切り抜いた状態の画像が表示されます。
・セレクト編集画面： サムネイル画像はメイン画面の表示と同じで、拡大画像は編集画面と同じです。

●切り抜いた画像の印刷

切り抜いた画像を DPP で印刷すると、切り抜かれた画像として印刷されます。

●変換して保存すると切り抜かれた画像になる

切り抜いた RAW 画像を、JPEG 画像または TIFF 画像に変換して保存（p.42）すると、実際に切り抜かれた画像になります。

●アスペクト比を設定した画像は切り抜いた画像として表示される

EOS-1D X、EOS-1D Mark IV、EOS-1Ds Mark III、EOS-1D Mark III、EOS 5D Mark III、EOS 7D、EOS 60D、EOS Kiss X6i、EOS Kiss X5 で撮影した RAW 画像に、アスペクト比情報が付いているときは、アスペクト比情報に基づいた切り抜き範囲が設定された状態で表示されます。
また、画像は実際に切り抜かれていないため、切り抜き範囲を変えたり、切り抜く前の状態に戻すこともできます。
ただし、EOS 5D Mark III、EOS 60D、EOS Kiss X6i、EOS Kiss X5 で ［4：3］、［16：9］、［1：1］のアスペクト比を設定して撮影した JPEG 画像は、それぞれのアスペクト比に実際に切り抜かれているため、切り抜き範囲を変えたり、切り抜く前の状態に戻すことはできません。*
なお、撮影時のアスペクト比情報に基づいた切り抜き範囲に戻す（撮影時の状態に戻す）ときは、［リセット］ボタンを押します。また、すべての切り抜き範囲を取り消すときは、［クリア］ボタンを押します。（p.135）

* EOS 5D Mark III でカスタム機能の［トリミング情報の付加］を設定して撮影すると、JPEG 画像でも、アスペクト比情報が設定されるだけで、実際の画像は切り抜かれません。

トリミング / 角度調整画面の便利な機能

●キーボードの操作で画面を切り換える

〈Alt〉＋〈Enter〉キーまたは、〈F11〉キーを押して、全画面表示／通常画面表示を切り換えることもできます。

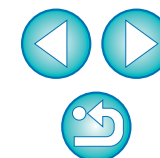
●メニューで操作する

画像上でマウスの右ボタンをクリックすると表示されるメニューでも、各種の操作を行うことができます。

●切り抜いた範囲を別の画像に適用する

［コピー］ボタンを押して切り抜いた範囲をコピーし、適用したい別の画像を表示して［ペースト］ボタンを押すと、切り抜いた範囲を別の画像に適用することができます。
また、コピーした切り抜き範囲を複数の画像にまとめて適用するときは、メイン画面で切り抜きした画像と、切り抜いた範囲を適用したい複数の画像を選び、トリミング / 角度調整画面を表示します。切り抜きした画像を表示している状態で［コピー］ボタンを押したあと、［全画像に適用する］ボタンを押すと、トリミング / 角度調整画面を表示するときに選んでいた、すべての画像に切り抜き範囲が適用されます。
なお、メイン画面で複数の画像を選ぶときは、〈Ctrl〉キーを押したまま画像をクリックします。連続した複数の画像を選ぶときは、最初の画像をクリックし、〈Shift〉キーを押したまま最後の画像をクリックします。

ISO 感度拡張を設定して撮影した画像は、ノイズが目立ち、トリミング / 角度調整画面での画像細部の確認が難しいので、当機能の使用はおすすめしません。

トリミング / 角度調整画面の機能一覧は、p.135 を参照してください。

調整した内容を別の画像にも適用する

ツールパレットで調整した画像の調整内容（レシピ）をコピーして、別の画像に適用することができます。

同じ撮影環境で撮影した複数の画像から 1 枚の画像を調整して、その調整結果をまとめて他の画像に適用すれば、効率よく複数の画像をまとめて調整することができます。

1 調整済の画像を選び、メニューの［編集］▶［レシピをクリップボードにコピー］を選ぶ

➜ レシピがコピーされます。

2 レシピを適用する画像を選び、メニューの［編集］▶［レシピを選択画像に貼り付け］を選ぶ

➜ レシピが画像に適用されます。

レシピ（p.96）は、画像とは別の単独ファイルとして保存したり、読み込んで別の画像に適用することもできます。（p.97）

編集結果を保存する

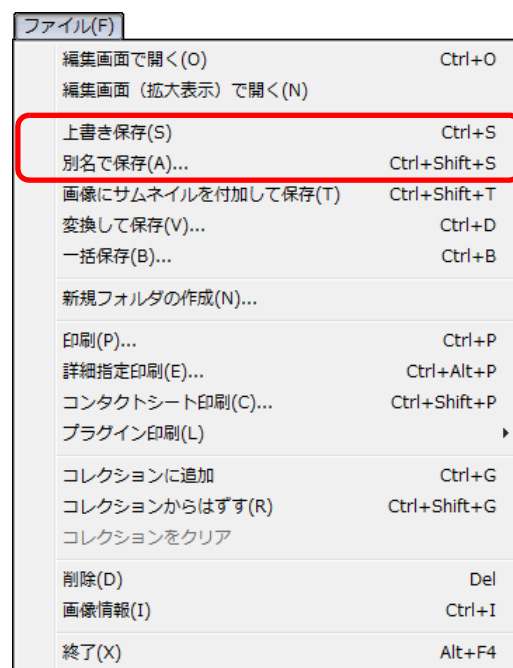
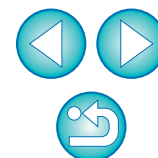
編集内容を RAW 画像に保存する

ツールパレットで調整したすべての内容（レシピ）や、切り抜いた（p.38）範囲の情報を RAW 画像に保存または、別の RAW 画像として保存することができます。

なお、3 章で説明するツールパレットの各調整内容（p.56 ～ p.68）や、ゴミ消し処理をした（p.73 ～ p.77）内容も RAW 画像に保存することができます。

メニューの［ファイル］▶ 目的の項目を選ぶ

ファイル(F)

編集画面で開く(O)	Ctrl+O
編集画面（拡大表示）で開く(N)	
上書き保存(S)	Ctrl+S
別名で保存(A)...	Ctrl+Shift+S
画像にサムネイルを付加して保存(T)	Ctrl+Shift+T
変換して保存(V)...	Ctrl+D
一括保存(B)...	Ctrl+B
新規フォルダの作成(N)...	
印刷(P)...	Ctrl+P
詳細指定印刷(E)...	Ctrl+Alt+P
コンタクトシート印刷(C)...	Ctrl+Shift+P
プラグイン印刷(L)	▶
コレクションに追加	Ctrl+G
コレクションからはずす(R)	Ctrl+Shift+G
コレクションをクリア	
削除(D)	Del
画像情報(I)	Ctrl+I
終了(X)	Alt+F4

➜ 調整した内容が画像に保存されます。

はじめに
やりたいこと目次
1 基本操作
2 応用操作
3 高度な機能
4 大量の画像を扱う機能
5 JPEG/TIFF 画像編集
資　料
索　引

JPEG 画像、TIFF 画像で保存する

DPP 以外のソフトウェアで RAW 画像を見たり、編集、印刷などをしたいときは、汎用性の高い JPEG 画像または、TIFF 画像に変換して保存します。
なお、別画像として保存するため、RAW 画像はそのまま残ります。

1 変換する画像を選ぶ

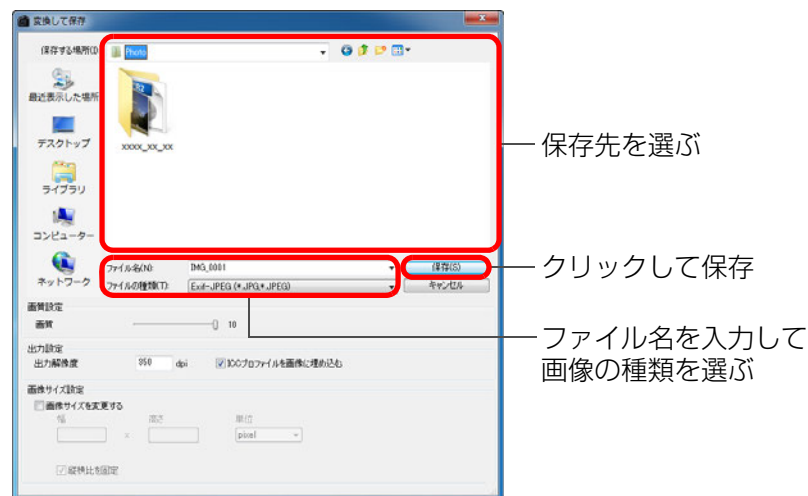
2 メニューの［ファイル］▶［変換して保存］を選ぶ

ファイル(F)

編集画面で開く(O)	Ctrl+O
編集画面（拡大表示）で開く(N)	
上書き保存(S)	Ctrl+S
別名で保存(A)...	Ctrl+Shift+S
画像にサムネイルを付加して保存(T)	Ctrl+Shift+T
変換して保存(V)...	Ctrl+D
一括保存(B)...	Ctrl+B
新規フォルダの作成(N)...	
印刷(P)...	Ctrl+P
詳細指定印刷(E)...	Ctrl+Alt+P
コンタクトシート印刷(C)...	Ctrl+Shift+P
プラグイン印刷(L)	▸
コレクションに追加	Ctrl+G
コレクションからはずす(R)	Ctrl+Shift+G
コレクションをクリア	
削除(D)	Del
画像情報(I)	Ctrl+I
終了(X)	Alt+F4

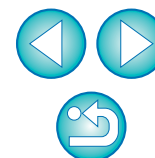
➜［変換して保存］画面が表示されます。

3 必要な設定を行い［保存］ボタンを押す

- 初期設定では、画像サイズを変えずに、最も高画質な状態で JPEG 画像に変換して保存します。必要に応じて設定を変えてください。

➜ RAW 画像を変換した JPEG 画像または TIFF 画像が、指定した保存先に新しい画像として保存されます。

現在使用しているバージョンの現像／編集結果を保存するには

DPP の RAW 画像現像処理技術は、より適切な最新の画像現像処理を行うことができるよう、改良・改善が続けられています。
そのため、バージョンが異なる DPP 間では、同じ RAW 画像データであっても、現像結果が微妙に異なったり、大幅に編集を行ったレシピ付 RAW 画像データの編集効果が異なることがあります。
現在使用しているバージョンの現像／編集結果を、そのまま保存したいときは、JPEG 画像、TIFF 画像に変換して保存することをおすすめします。

- 切り抜いた画像（p.38）や、3 章で説明するゴミ消しした画像（p.73 ～ p.77）を本ページの操作で保存すると、実際に切り抜かれた画像、ゴミ消しした画像になります。
- JPEG 画像に変換して保存した画像に発生する、JPEG 画像特有のノイズを緩和することができます。（p.89、p.90）
- 複数の画像を一括して変換／保存することもできます。（p.99）
- この画面の機能一覧は、p.134 を参照してください。

編集をやり直す

ツールパレットで調整（p.25 ～ p.33）した画像は、画像処理条件を変えているだけなので、「オリジナル画像データそのもの」はまったく変わりません。

また、切り抜いた画像（p.38）も切り抜いた範囲の情報が画像に保存されているだけです。

そのため、画像に保存（p.41）した調整内容や切り抜き範囲をすべて取り消して、最後に保存した状態または、撮影時の状態にいつでも戻すことができます。

1 編集をやり直す画像を選ぶ

2 メニューの［調整］▶ 目的の項目を選ぶ

➜ 選んだ項目の状態に画像が戻ります。

印刷する

キヤノン製印刷用ソフトウェアの Easy-PhotoPrint EX（イージーフォトプリントイーエックス）または、Easy-PhotoPrint（イージーフォトプリント）に対応したキヤノン製インクジェットプリンターで、簡単に高品質な写真印刷を行う方法と、その他のプリンターで写真印刷を行う方法について説明します。

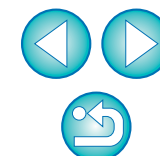
お使いになるプリンターのページへ進んでください。

- Easy-PhotoPrint EX に対応したキヤノン製インクジェットプリンターでの写真印刷（本ページ）
- Easy-PhotoPrint に対応したキヤノン製インクジェットプリンターでの写真印刷（p.46）
- キヤノン製インクジェットプリンター以外での写真印刷（p.49）

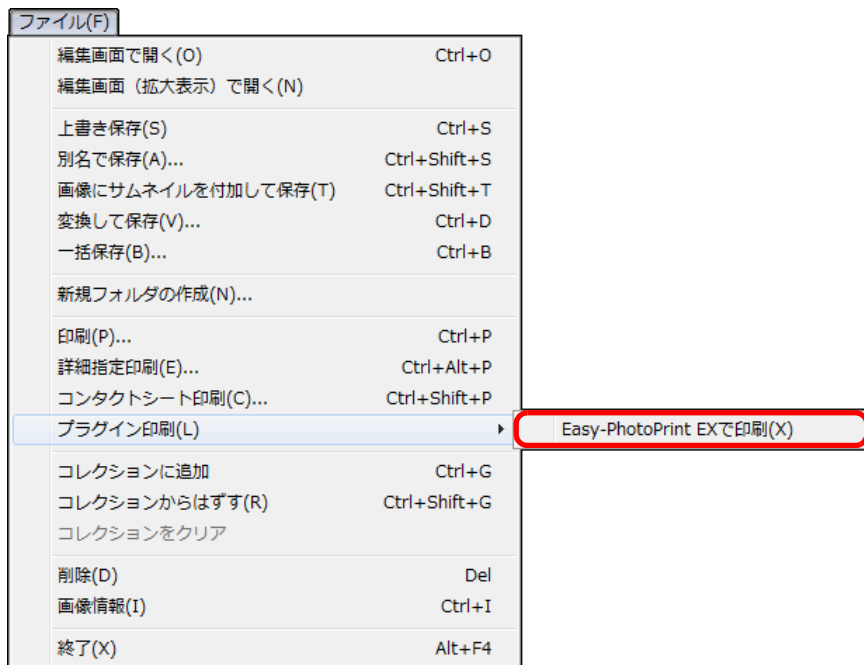
Easy-PhotoPrint EX に対応したキヤノン製インクジェットプリンターでの写真印刷

Easy-PhotoPrint EX（以降 EPP EX と表記）に対応したキヤノン製インクジェットプリンターでは、下記の写真印刷を行うことができます。

- RAW 画像の簡単印刷
- 忠実な色味による印刷

なお、この印刷を行うためには、事前にバージョン 1.1 以降の EPP EX をパソコンにインストールする必要があります。

1 印刷する画像を選ぶ

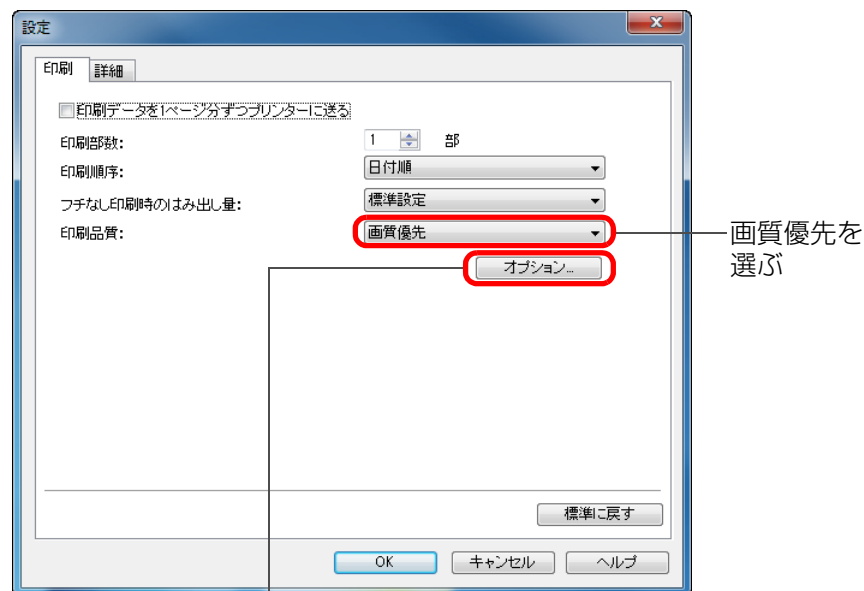
2 EPP EX を立ち上げる

● メニューの［ファイル］▶［プラグイン印刷］▶［Easy-PhotoPrint EX で印刷］を選びます。

➜ EPP EX が立ち上がります。

3 EPP EX の画面で、メニューの［ファイル］▶［設定］を選ぶ

➜［設定］画面が表示されます。

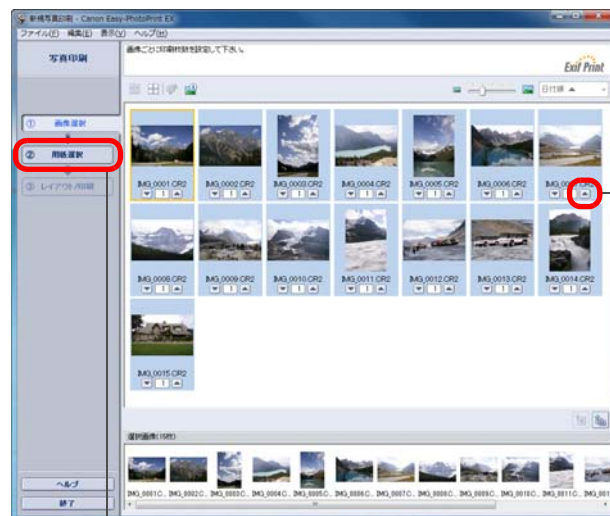
4 ［印刷品質］を［画質優先］に設定し、［オプション］ボタンを押して表示される画面で、［最高品位で印刷する］をチェックする

画質優先を選ぶ

ボタンを押して、［最高品位で印刷する］をチェック

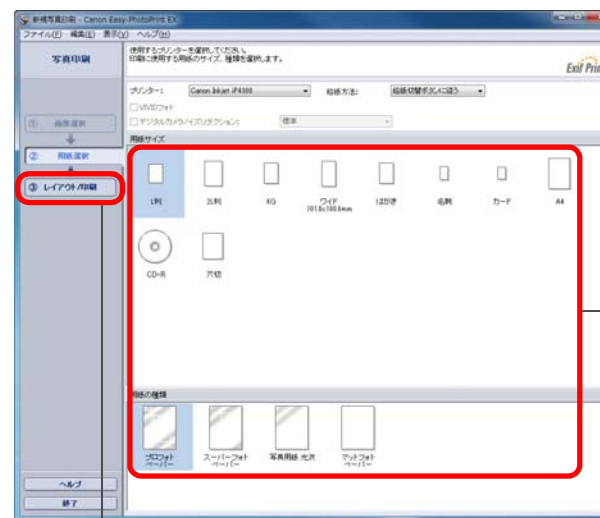
5 ［詳細］タブを選び、［ICC プロファイルを使う］をチェックして、［OK］ボタンを押す

➜［設定］画面が閉じます。

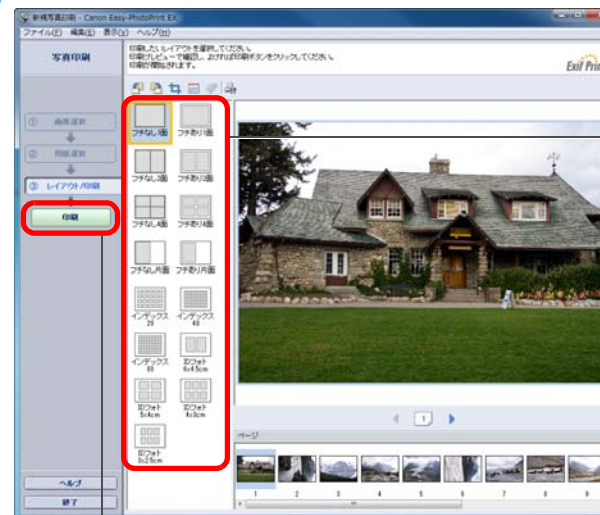
6 印刷枚数を指定して［用紙選択］をクリックする

EPP EX

クリックして印刷枚数を増やす

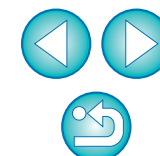
クリック

7 用紙を指定して［レイアウト／印刷］をクリックする

用紙のサイズと種類を選ぶ

クリック

8 レイアウトを指定して［印刷］をクリックする

レイアウトを選ぶ

クリックして印刷

➜印刷がはじまります。

? こんなときは

● 1 度に印刷できるのは 1000 枚の画像まで

1 度に印刷できるのは、DPP で選んだ 1000 枚までの画像です。1000 枚の画像を越えるときは、複数回に分けて印刷操作を行ってください。

● 印刷した写真が好みの色味にならない

EPP EX の画面で、メニューの［ファイル］▶［設定］を選び、表示される［設定］画面で［詳細］タブを選んで［詳細］タブ画面を表示します。［詳細］タブ画面の［印刷時の色補正］で［ICC プロファイルを使う］を選び、［知覚的］（p.144）に設定して、印刷をお試しください。

EPP EX を使用した印刷の特長

● 忠実な色味による印刷

色空間（p.144）を sRGB または Adobe RGB に設定（p.77、p.93）したときは、設定した色空間が自動的に DPP から EPP EX に伝達されるため、忠実な色味で印刷することができます。
なお、色空間を Apple RGB、ColorMatch RGB に設定したときは sRGB の色空間、Wide Gamut RGB に設定したときは、Adobe RGB の色空間で印刷されます。

● 広域な色再現による印刷

色空間設定（p.77、p.93）を Adobe RGB にしてキヤノン製インクジェットプリンターで印刷すると、色再現領域が広くなり、特に緑色と青色が鮮やかに再現されるようになります。

DPP は、Easy-PhotoPrint Pro と連携した印刷にも対応しています。（p.87）

Easy-PhotoPrint に対応したキヤノン製インクジェットプリンターでの写真印刷

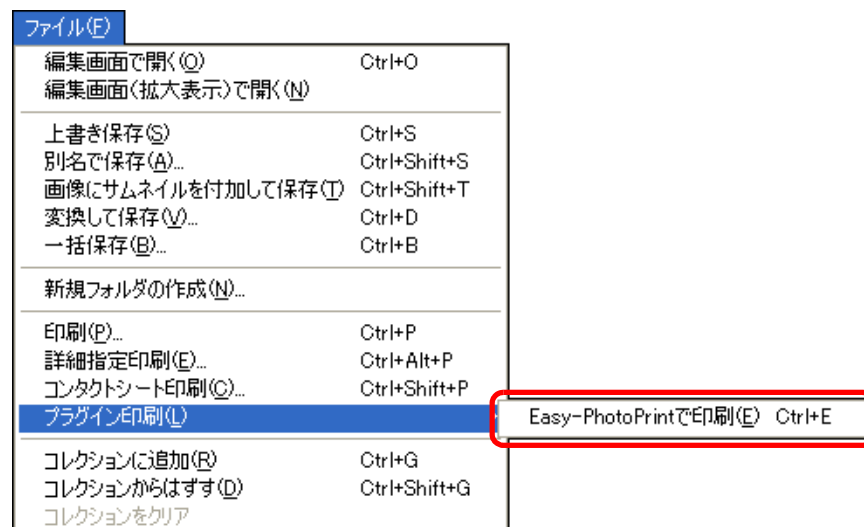
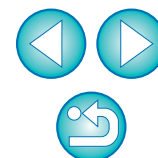
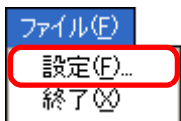
Easy-PhotoPrint（以降 EPP と表記）に対応したキヤノン製インクジェットプリンターでは、下記の写真印刷を行うことができます。

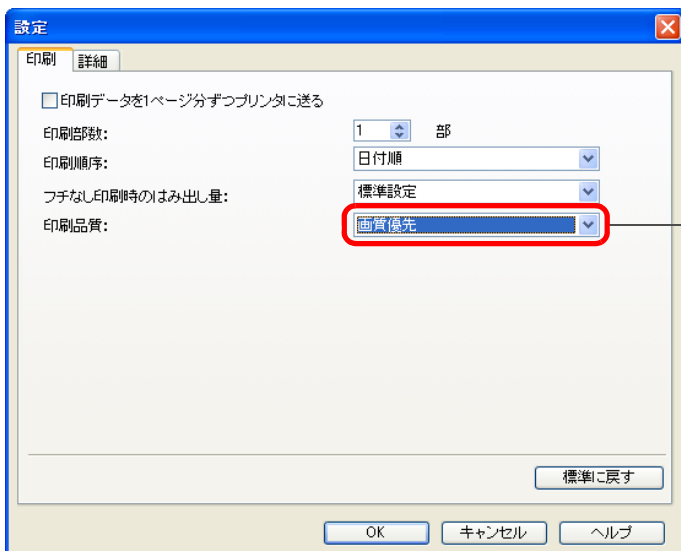
- RAW 画像の簡単印刷
- Adobe RGB とキヤノン製インクジェットプリンターの色再現領域を活用した高画質印刷

この印刷を行うためには、事前にバージョン 3.5 以降の EPP をパソコンにインストールする必要があります。なお、Easy-PhotoPrint EX 対応のインクジェットプリンターをお使いのときは、Easy-PhotoPrint EX で印刷（p.43）することをおすすめします。

1 印刷する画像を選ぶ

2 EPP を立ち上げる

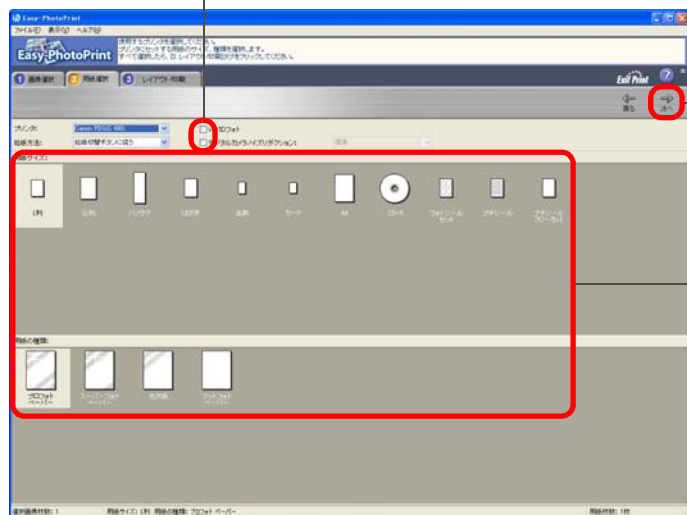
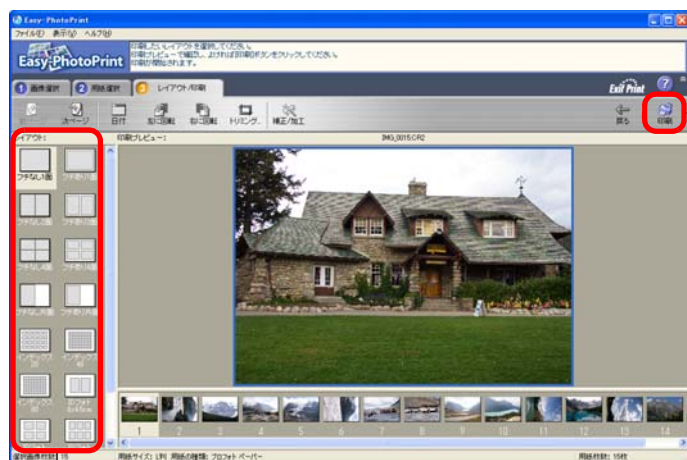
● メニューの［ファイル］▶［プラグイン印刷］▶［Easy-PhotoPrint で印刷］を選びます。

➜ EPP が立ち上がります。

3 EPP の画面で、メニューの［ファイル］▶［設定］を選ぶ

→［設定］画面が表示されます。

4 ［印刷品質］を［画質優先］に設定する

5 ［詳細］タブを選び、EPP の画像補正機能が解除されていることを確認する

● 解除されていないと、EPP の画像補正機能が働くため、忠実な色味に印刷されないことがあります。

6 印刷枚数を指定して［次へ］をクリックする

7 画像補正機能が解除されていることを確認し、用紙を指定して［次へ］をクリックする

チェックされていたらクリックしてチェックを外す

8 レイアウトを指定して［印刷］をクリックする

レイアウトを選ぶ

➜ 印刷がはじまります。

? こんなときは

● **1 度に印刷できるのは 1000 枚の画像まで**

1 度に印刷できるのは、DPP で選んだ 1000 枚までの画像です。1000 枚の画像を越えるときは、複数回に分けて印刷操作を行ってください。

● **印刷した写真が好みの色味にならない**

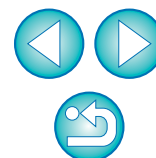
［Easy-PhotoPrint で印刷する時のマッチング方法］を［知覚的］（p.144）に変更（p.93）して印刷してください。

広域な色再現による印刷

色空間設定（p.77、p.93）を Adobe RGB にしてキヤノン製インクジェットプリンターで印刷すると、色再現領域が広くなり、特に緑色と青色が鮮やかに再現されるようになります。
なお、色空間を Apple RGB、ColorMatch RGB に設定したときは sRGB の色空間、Wide Gamut RGB に設定したときは、Adobe RGB の色空間で印刷されます。

DPP は、Easy-PhotoPrint Pro と連携した印刷にも対応しています。（p.87）

はじめに
やりたいこと目次
1 基本操作

2 応用操作
3 高度な機能
4 大量の画像を扱う機能
5 JPEG/TIFF 画像編集
資　料
索　引

キヤノン製インクジェットプリンター以外での写真印刷

1 枚の用紙に 1 つの画像を印刷することができます。

1 印刷する画像を選ぶ

2 メニューの［ファイル］▶［印刷］を選ぶ

ファイル(F)	
編集画面で開く(O)	Ctrl+O
編集画面（拡大表示）で開く(N)	
上書き保存(S)	Ctrl+S
別名で保存(A)...	Ctrl+Shift+S
画像にサムネイルを付加して保存(T)	Ctrl+Shift+T
変換して保存(V)...	Ctrl+D
一括保存(B)...	Ctrl+B
新規フォルダの作成(N)...	
印刷(P)...	Ctrl+P
詳細指定印刷(E)...	Ctrl+Alt+P
コンタクトシート印刷(C)...	Ctrl+Shift+P
プラグイン印刷(L)	▸
コレクションに追加	Ctrl+G
コレクションからはずす(R)	Ctrl+Shift+G
コレクションをクリア	
削除(D)	Del
画像情報(I)	Ctrl+I
終了(X)	Alt+F4

➜ プリンターの印刷設定画面が表示されます。

3 写真印刷に設定して印刷する

● 表示されたプリンターの印刷設定画面で、写真印刷に最適な設定にして［OK］ボタンを押します。

➜ 印刷が開始されます。

画像を整理する

不要な画像の削除、画像を保存するためのフォルダ作成、画像の移動やコピーなど、画像の整理方法を説明します。

不要な画像を削除する

削除した画像は復元できませんので、十分注意してください。

1 メイン画面で不要な画像を選ぶ

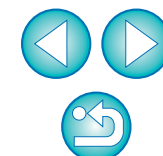
2 メニューの［ファイル］▶［削除］を選ぶ

ファイル(F)	
編集画面で開く(O)	Ctrl+O
編集画面（拡大表示）で開く(N)	
上書き保存(S)	Ctrl+S
別名で保存(A)...	Ctrl+Shift+S
画像にサムネイルを付加して保存(T)	Ctrl+Shift+T
変換して保存(V)...	Ctrl+D
一括保存(B)...	Ctrl+B
新規フォルダの作成(N)...	
印刷(P)...	Ctrl+P
詳細指定印刷(E)...	Ctrl+Alt+P
コンタクトシート印刷(C)...	Ctrl+Shift+P
プラグイン印刷(L)	▸
コレクションに追加	Ctrl+G
コレクションからはずす(R)	Ctrl+Shift+G
コレクションをクリア	
削除(D)	Del
画像情報(I)	Ctrl+I
終了(X)	Alt+F4

➜［ファイルの削除の確認］画面が表示されます。

3 ［はい］ボタンを押す

➜ 画像が［ごみ箱］へ移動し、DPP 上から削除されます。

● デスクトップの［ごみ箱］で［ごみ箱を空にする］操作を行うと、画像がパソコン上から完全に削除されます。

画像を保存するフォルダを作る

画像を分類するためのフォルダを作ることができます。

1 フォルダを作成する場所をフォルダエリアで選ぶ

2 メニューの［ファイル］▶［新規フォルダの作成］を選ぶ

➜［新規フォルダの作成］画面が表示されます。

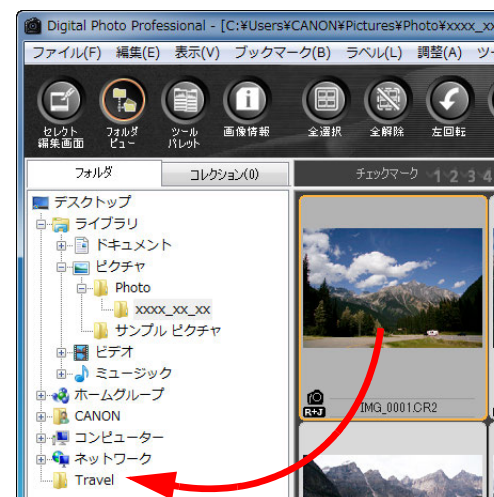
3 フォルダ名を入力して［OK］ボタンを押す

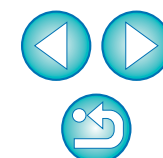
➜ 手順 1 で選んだフォルダ内に、新しいフォルダが作成されます。

画像を移す

画像を別のフォルダに移動またはコピーして、撮影日やテーマごとに画像を分類することができます。

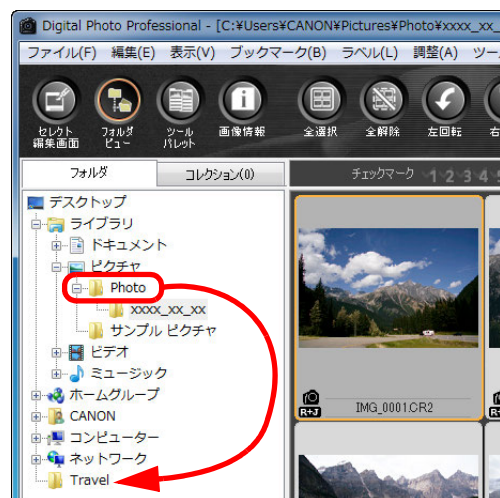
移動またはコピーする画像をドラッグする

- **移動**： 画像をドラッグして、移動先のフォルダで放します。
- **コピー**：〈Ctrl〉キーを押したまま画像をドラッグして、コピー先のフォルダで放します。

➜ 移動先のフォルダに画像が移動またはコピーされます。

はじめに
やりたいこと目次
基本操作
応用操作
高度な機能
大量の画像を扱う機能
JPEG/TIFF画像編集
資 料
索 引

画像をフォルダ単位で移す

画像の入ったフォルダを移動またはコピーして、フォルダ単位で画像を分類することができます。

移動またはコピーするフォルダをドラッグする

- **移動：** フォルダをドラッグして、移動先のフォルダで放します。
- **コピー：**〈Ctrl〉キーを押したままフォルダをドラッグして、コピー先のフォルダで放します。

→ 移動先にフォルダが移動またはコピーされます。

よく使うフォルダを登録する（ブックマーク登録）

よく使うフォルダをブックマークに登録することができます。

登録したフォルダは、メニューの［**ブックマーク**］をクリックすると表示されます。

1 ブックマークに登録するフォルダを選ぶ

2 メニューの［ブックマーク］▶［追加］を選ぶ

→ 手順 1 で選んだフォルダが、メニューの［**ブックマーク**］に登録されます。

- 登録したフォルダをメニューの［**ブックマーク**］から選ぶと、選んだフォルダ内の画像がメイン画面に表示されます。

ブックマークを整理する

［**ブックマーク**］に登録されたフォルダ名を変更したり、削除することができます。

メニューの［ブックマーク］▶［整理］を選ぶ

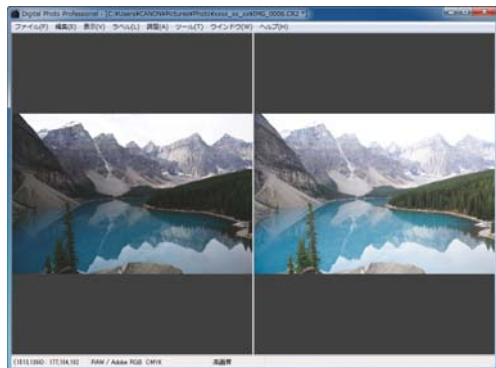
→［**ブックマークの整理**］画面が表示され、フォルダ名の変更や削除を行うことができます。

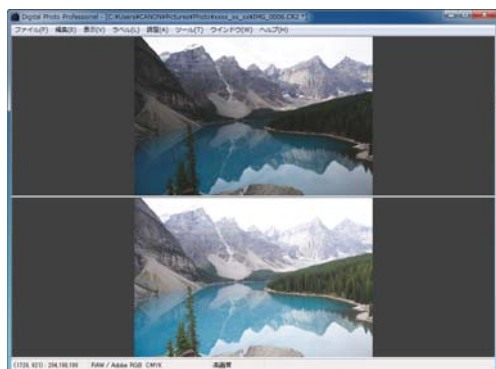
3 高度な画像編集と印刷

市販の画像編集用ソフトウェアの扱いに精通された方を前提に、作品として仕上げるための高度な画像調整や自動ゴミ消し処理、作品を印刷するための各種印刷機能、カラーマネージメントをはじめとするさまざまな環境設定について説明します。

元画像と見比べながら調整する

調整前と調整後の画像を同一画面に表示して、調整結果を確認しながら画像を調整することができます。

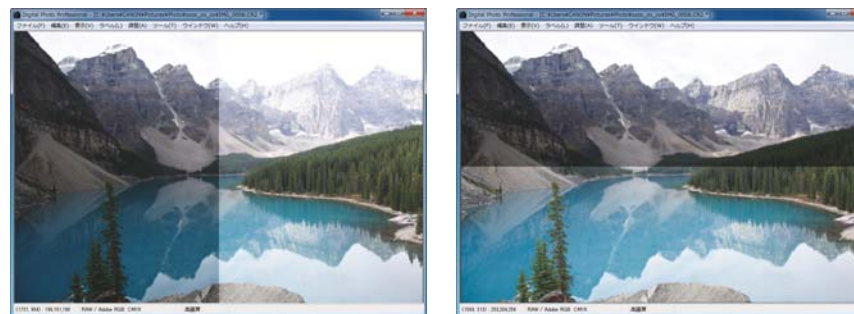
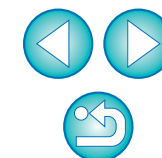
1 **編集画面でメニューの［表示］▶［編集前後比較］を選ぶ**

➜ 画像が左右 2 画面に分かれます。
- 右側が調整後の画像です。

2 **表示のしかたを変える**
- メニューの［表示］▶［上下 / 左右切替］▶［上下］を選びます。

➜ 画像の並び方が上下 2 画面に変わります。
- 下側が調整後の画像です。

セレクト編集画面でも同様の操作で表示することができます。

分割のしかたを変える

1 つの画像を 2 分割にした表示に変えることができます。

編集画面でメニューの［表示］▶［表示モード］▶［1 つの画像を 2 分割］を選ぶ

➜ 1 つの画像を左右または上下に分割した表示になります。
- 上下／左右の切り換えは、左記ページの手順 2 と同じ操作で行います。

複数の画像を比較しながら調整する

複数の編集画面の表示位置を同期させ、比較しながら調整することができます。

1 比較したい複数の画像を編集画面で表示する

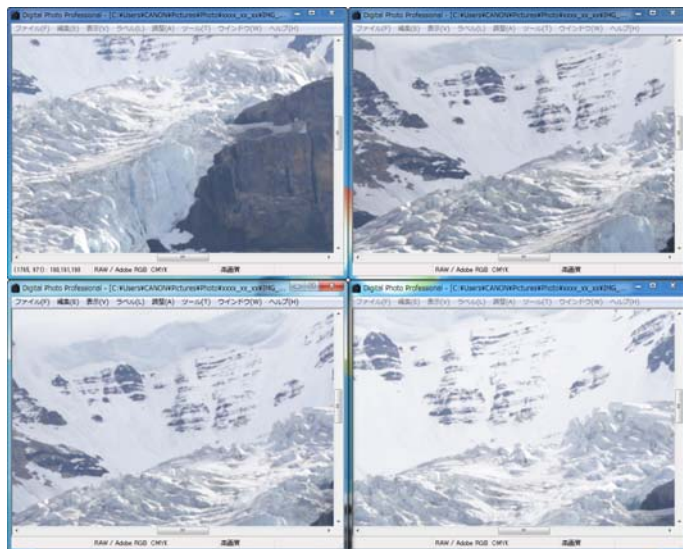
2 画像を整列する

- メニューの［**ウィンドウ**］▶［**上下に並べて表示**］または、［**左右に並べて表示**］を選びます。

➜ 編集画面が整列します。

3 メニューの［ウィンドウ］▶［同期］を選ぶ

4 画像を拡大する

- いずれかの編集画面を拡大表示にします。

➜ 他の編集画面も同じ表示位置／拡大率になります。

5 表示位置を移動する

➜ いずれかの編集画面で拡大表示位置を移動すると、他の編集画面もすべて連動して拡大表示位置が移動します。

- 同期を解除するには、再度メニューの［**ウィンドウ**］▶［**同期**］を選びます。

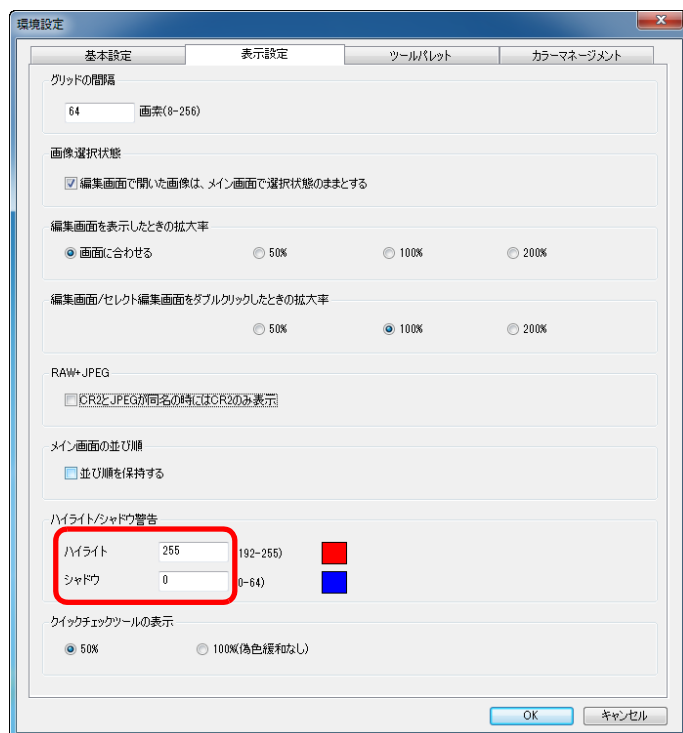
同期するのは拡大表示位置と拡大率のみで、画像への調整内容は同期しません。

設定範囲を超えた領域を警告表示する（ハイライト／シャドウ警告）

画像の白とびや黒つぶれの確認、過度な調整防止に有効な警告表示を、ハイライト部、シャドウ部でそれぞれ設定し、この設定範囲を超えた画像上の領域を、ハイライト部は赤色に、シャドウ部は青色に表示させることができます。

1 **メニューの［ツール］▶［環境設定］を選ぶ**

2 **［表示設定］タブを選ぶ**

3 **［ハイライト］、［シャドウ］に警告する値を入力する**

4 **［OK］ボタンを押して画面を閉じる**

5 **編集画面を表示する**

6 **メニューの［表示］▶［ハイライト］を選び、同様に［シャドウ］を選ぶ**

➜ 開いた画像上に、手順 3 で入力した値を超える領域があるときは、その領域がハイライト部は赤く、シャドウ部は青く表示されます。

セレクト編集画面でも、同様の操作で表示することができます。

高度な編集をする

編集画面のツールパレットにある、高度な調整機能の操作方法を説明します。

ここでは、[RAW]、[RGB] ツールパレットの高度な機能を使った調整と、[NR/ALO]、[LENS] ツールパレットの機能について説明します。

ホワイトバランスを色温度で調整する

色温度の数値を設定することで、ホワイトバランスを調整することができます。

1 [ホワイトバランス調整] のリストボックスから [色温度] を選ぶ

2 色温度を設定する

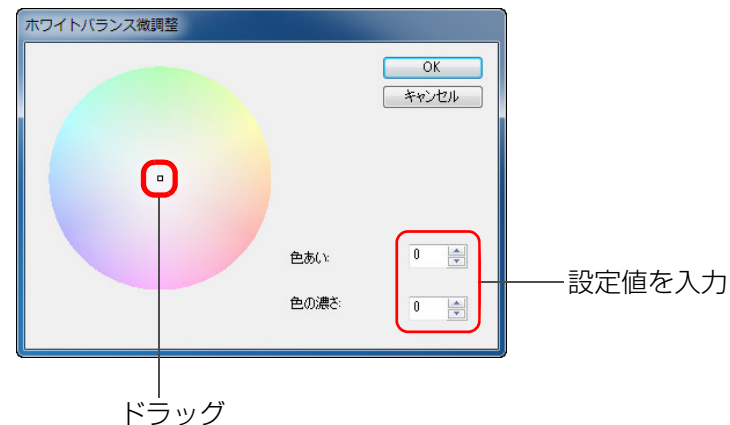
調整範囲は、2500 ～ 10000K（100K 単位）です。

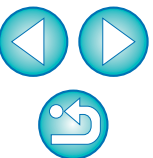
ホワイトバランスをカラーホイールで微調整する

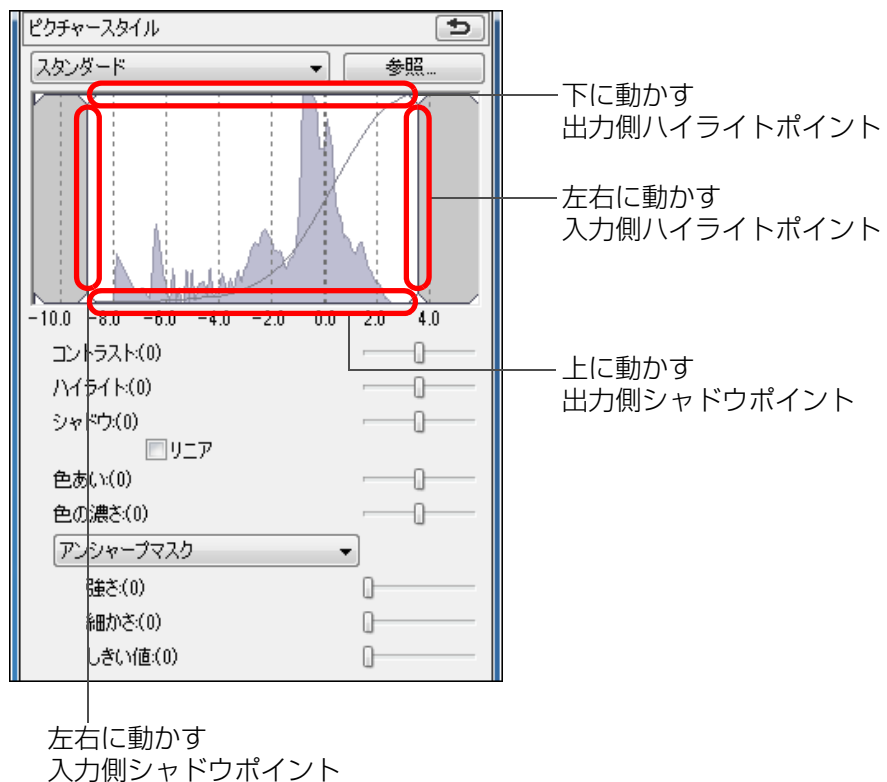
カラーホイールで示している色の方向にポイントを移動して、ホワイトバランスを微調整することができます。

1 [RAW] ツールパレットの [微調整] ボタンを押す

2 ポイントをドラッグして微調整する

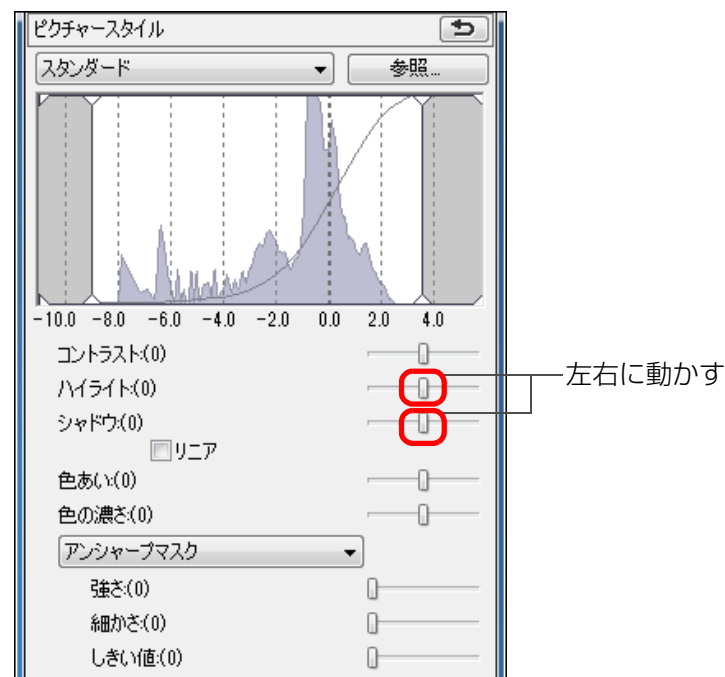
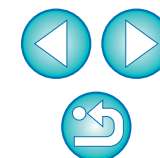
- 設定値を入力して微調整を行うこともできます。

- 調整結果をカスタムホワイトバランス (p.98) として登録するときは、[ホワイトバランス調整] リストボックスで [撮影時設定] 以外を選んでから、カラーホイールで微調整してください。リストボックスで [撮影時設定] を選んで微調整したときは、調整結果をカスタムホワイトバランスとして登録することはできません。
- カメラ本体で生成した多重露出 RAW 画像では、ホワイトバランスを変更、調整することはできません。

色あいの調整範囲は、0 ～ 359（数値入力では 1 単位）、色の濃さの調整範囲は、0 ～ 255（数値入力では 1 単位）です。

ダイナミックレンジ（階調表現幅）を調整する

暗部から明部にかけてのダイナミックレンジ（階調表現幅）を調整することができます。

- 横軸は入力レベル、縦軸は出力レベルを示しています。

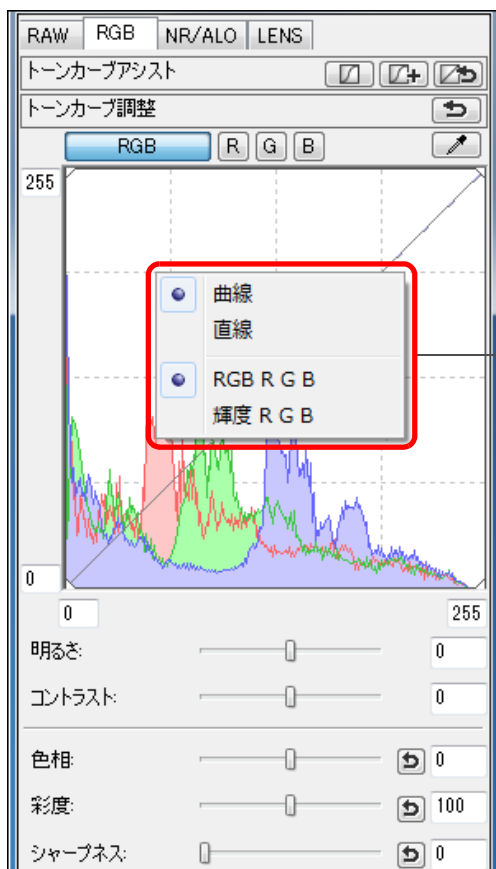
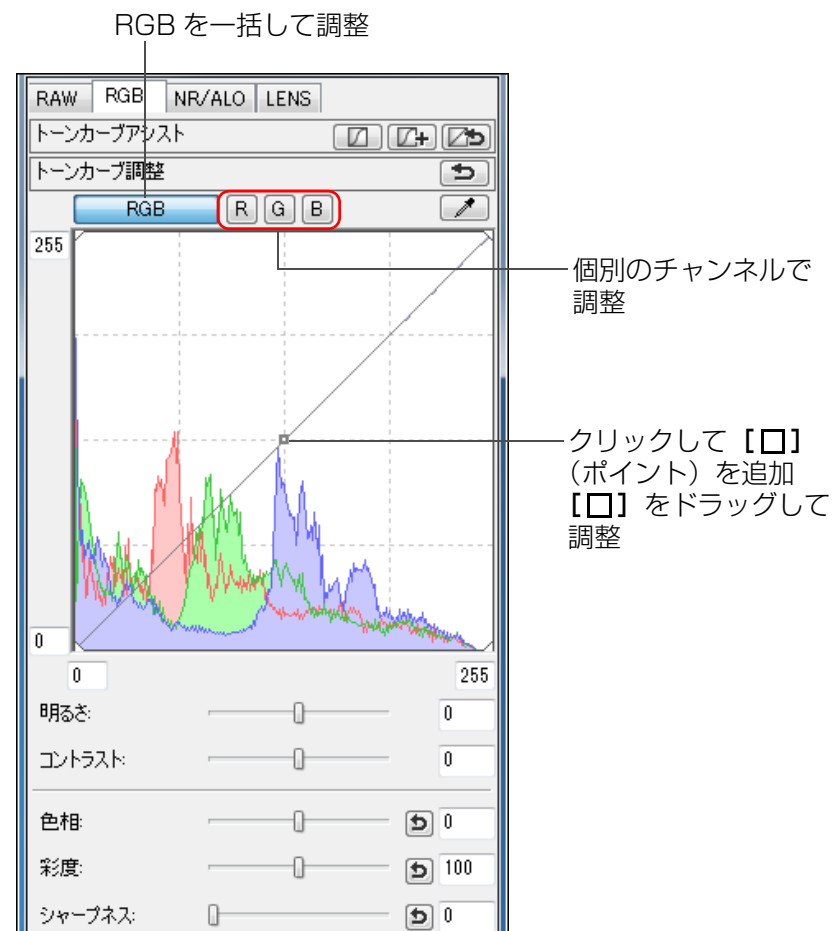
シャドウ部分／ハイライト部分の明るさを調整する

画像のシャドウ部分、ハイライト部分の明るさ調整を行うことができます。

画像のシャドウ部分やハイライト部分に限定した明るさ調整を行うことで、シャドウ部分の黒つぶれや、ハイライト部分の白とびを緩和することができます。

はじめに
やりたいこと目次
1 基本操作
2 応用操作
3 高度な機能
4 大量の画像を扱う機能
5 JPEG/TIFF画像編集
資　料
索　引

トーンカーブ調整

トーンカーブ（p.143）を変えることで、特定領域の明るさ、コントラスト、色を調整することができます。

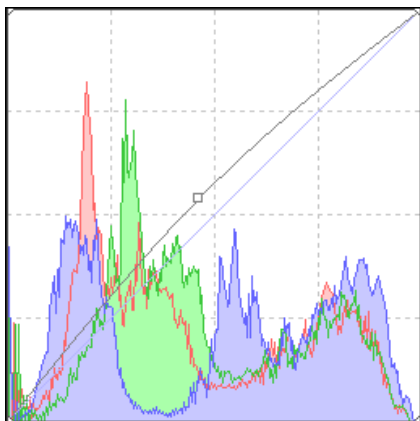
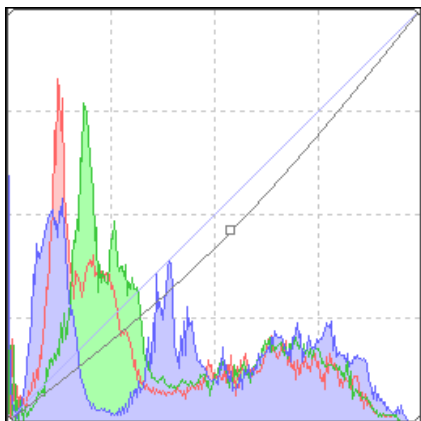
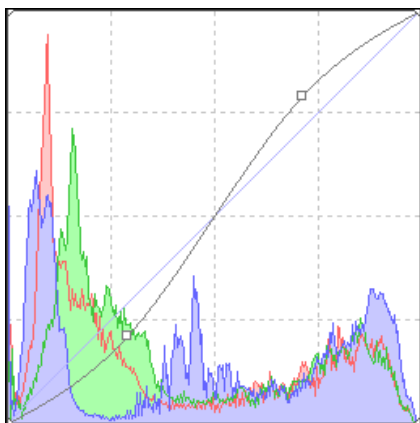
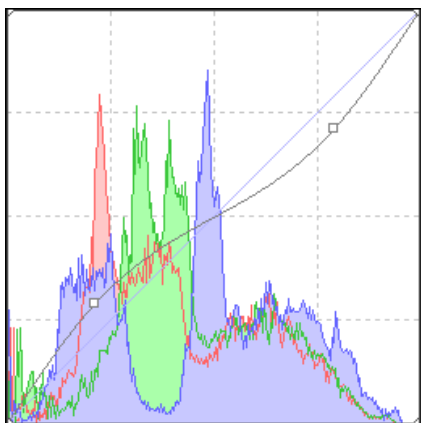
1 ツールパレットの［RGB］タブを選ぶ

2 トーンカーブの種類と結び方を選ぶ

3 調整する

- 横軸は入力レベル、縦軸は出力レベルを示しています。
- ［□］の数は最大 8 個です。
- ［□］を消すときは〈Del〉キーを押すか、ダブルクリックします。

- ヒストグラム表示は調整に応じて変わりますが、調整前のヒストグラム表示に固定することもできます。（p.92）
- トーンカーブの種類、トーンカーブの結びかたは、**［環境設定］**で変えることもできます。（p.92）

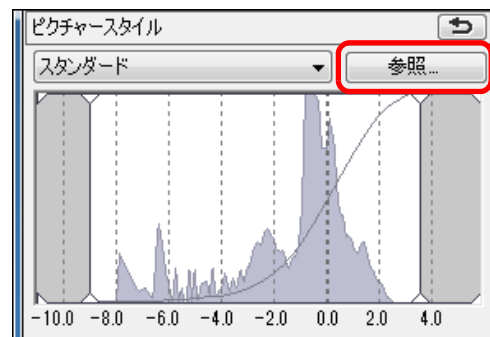
トーンカーブの操作例

中間調を明るくする

中間調を暗くする

硬調にする

軟調にする

ピクチャースタイルファイルを使う

ピクチャースタイルファイルとは、ピクチャースタイルの拡張機能ファイルです。

DPP では、キヤノンホームページよりダウンロードした目的別のピクチャースタイルファイルや、「Picture Style Editor」で作成したピクチャースタイルファイルを、RAW 画像に適用することができます。なお、ピクチャースタイルファイルは、事前にパソコンへ保存しておきます。

1 **ピクチャースタイルファイルを適用する画像を編集画面に表示する** （p.11）

2 **ツールパレットの［RAW］タブを選び、［参照］ボタンを押す**

➜［ファイルを開く］画面が表示されます。

3 **パソコン上に保存してあるピクチャースタイルファイルを選び、［開く］ボタンを押す**

➜ 選んだピクチャースタイルファイルが画像に適用されます。

- 別のピクチャースタイルファイルを適用するときは、手順 2 からの操作を再度行ってください。

画像に適用できるピクチャースタイルファイルは、拡張子が「.PF2」のファイルです。なお、拡張子が「.PSE」のピクチャースタイルファイルを画像に適用することはできませんが、カメラに登録して撮影された画像は正しく表示されます。

RGB ツールパレットについて

ツールパレットは、編集目的に応じて［RAW］、［RGB］、［NR/ALO］、［LENS］のタブ画面を切り換えて画像を調整することができます。

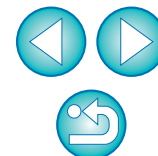
［RGB］ツールパレットの機能は、ここで説明したトーンカーブ調整のような一般的な画像編集用ソフトウェアと同じような機能で RAW 画像を調整することができます。

ただし、［RGB］ツールパレットの調整機能は、［RAW］ツールパレットよりも調整幅が広いため、過度に調整すると、画像の色が飽和したり、画質が低下することがあります。そのため、トーンカーブ調整 （p.58）と自動調整（p.33）以外の機能は、［RAW］ツールパレットにある同様の機能を使って調整することをおすすめします。

なお、［RGB］ツールパレットのトーンカーブ調整以外の機能は、5 章で説明します。

ツールパレットの使い分け

RAW 画像の調整は、基本的に［RAW］ツールパレットで行うことをおすすめします。ただし、［RAW］ツールパレットでは調整幅が足りないときや、［RGB］ツールパレット固有の機能を使いたいときは、［RAW］ツールパレットで基本的な調整を終えたあと、［RGB］ツールパレットで必要最小限の調整をするという使いかたをおすすめします。

なお、［NR/ALO］、［LENS］ツールパレット（p.129）の調整機能は、［RAW］、［RGB］ツールパレットで必要な調整をしたあと、オートライティングオプティマイザ（p.61）やノイズの緩和（p.62）、レンズの収差補正（p.63）を行うときに使ってください。

オートライティングオプティマイザを使用する

撮影結果が暗いときや、コントラストが低いときは、オートライティングオプティマイザを使用することで、明るさやコントラストを自動補正して好ましい画像にすることができます。

また、カメラのオートライティングオプティマイザ機能を使用して撮影した画像の設定を、変更することもできます。

なお、当機能は EOS-1D X、EOS-1D Mark IV、EOS 5D Mark III、EOS 5D Mark II、EOS 7D、EOS 60D、EOS 50D、EOS Kiss X6i、EOS Kiss X5、EOS Kiss X4、EOS Kiss X3、EOS Kiss X50 で撮影した RAW 画像にのみ対応しています。

※ ALO とは、Auto Lighting Optimizer（オート ライティング オプティマイザ）の略です。

1 編集画面または、セレクト編集画面のツールパレットで、［NR/ALO］タブを選ぶ

2 チェックボックスをチェックする

● カメラのオートライティングオプティマイザ機能を使用して撮影した画像は、あらかじめ、チェックボックスがチェックされています。

3 好みに応じて設定を変更する

→ 設定に応じた自動補正が、画像に行われます。

● カメラのオートライティングオプティマイザ機能を使用して撮影した画像は、撮影時の設定が初期値として反映されています。

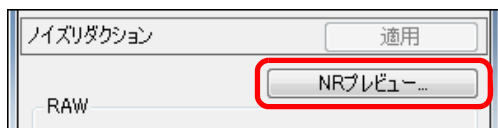
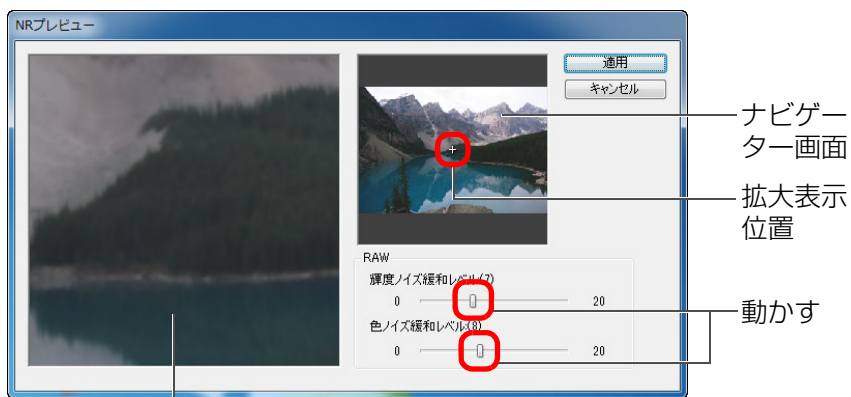
● オートライティングオプティマイザを解除するときは、チェックボックスのチェックを外します。

● EOS-1D X、EOS 5D Mark III、EOS 7D、EOS 60D、EOS Kiss X6i、EOS Kiss X5、EOS Kiss X4、EOS Kiss X50 で、「高輝度側・階調優先」を「する」に設定したときは、オートライティングオプティマイザを使用することはできません。

● カメラ本体で生成した多重露出 RAW 画像では、オートライティングオプティマイザを使用することはできません。

ノイズを緩和する

夜景や高 ISO 感度で撮影した RAW 画像に発生する、ノイズを緩和することができます。
NR とは、Noise Reduction（ノイズ緩和）の略です。

1 編集画面または、セレクト編集画面のツールパレットで［NR/ALO］タブを選ぶ

2 ［NR プレビュー］ボタンを押す

➜［NR プレビュー］画面が表示されます。

3 調整する

- ノイズ緩和レベルを 0 ～ 20 の設定範囲から選ぶことができます。数字が大きいほど、ノイズ緩和効果が大きくなります。
- ノイズ緩和レベルの効果は、画像が 100%表示された NR 確認画面で確認することができます。
- ナビゲーター画面で拡大表示位置をドラッグすると、NR 確認画面の表示位置を変えることができます。

4 ［適用］ボタンを押す

➜ 画像にノイズ緩和が適用されて、画像が再表示されます。

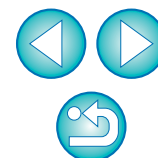
? ノイズ緩和機能が操作できない

［環境設定］画面の［RAW 画像の表示と保存］（p.89）が［高速］に設定されていると、ノイズの緩和はできません。ノイズを緩和するときは、［高画質］を選んでください。

複数枚の画像に同じノイズ緩和レベルを設定するときは

メイン画面で複数枚の画像を選んだあと、［NR プレビュー］画面を表示せずに、［NR/ALO］ツールパレット（p.129）で、［輝度ノイズ緩和レベル］スライダー、［色ノイズ緩和レベル］スライダーを操作してノイズ緩和レベルを調整し、［適用］ボタンを押すと、複数枚の画像に同じノイズ緩和レベルを設定することができます。

- ［環境設定］の［ツールパレット］タブ画面（p.92）の［ノイズ緩和の初期値設定］で、ノイズ緩和レベルの初期値をあらかじめ設定することができます。
  - ・［カメラの設定を反映する］を選ぶと、カメラ設定に応じたノイズ緩和レベルを、あらかじめ初期値として設定することができます。
  - ・［初期値を設定する］を選ぶと、ノイズ緩和レベルの初期値を、あらかじめ任意に設定することができます。高 ISO 感度画像のノイズ緩和一括処理など、フォルダ内の全画像に一律のノイズ緩和を行いたいときに便利です。

  ただし、レシピが付加された画像については、レシピに記録されたノイズレベルが適応されます。
- ［輝度ノイズ緩和レベル］を設定したときは、ノイズの緩和にともなって、解像度が低下することがあります。
- ［色ノイズ緩和レベル］を設定したときは、ノイズの緩和にともなって、色にじみがおきることがあります。
- ［NR プレビュー］画面の機能一覧は、p.131 を参照してください。

はじめに
やりたいこと目次
1 基本操作
2 応用操作
3 高度な機能
4 大量の画像を扱う機能
5 JPEG/TIFF画像編集
資　料
索　引

レンズの収差を補正する

　レンズの物理特性や、わずかな残存収差の影響で生じる、周辺光量の低下や画像の歪み、色にじみなどを簡単に補正することができます。
　なお、収差補正ができる画像は、次の「対象カメラ」と「対象レンズ」で撮影された RAW 画像のみです。JPEG 画像および TIFF 画像の補正はできません。

対象カメラ

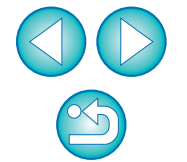
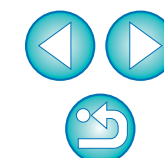
EOS-1D X	EOS-1D Mark IV	EOS-1Ds Mark III
EOS-1D Mark III	EOS-1D Mark II N	EOS-1Ds Mark II
EOS-1D Mark II	EOS-1Ds	EOS-1D
EOS 5D Mark III	EOS 5D Mark II	EOS 5D*[1]
EOS 7D	EOS 60D	EOS 50D
EOS 40D	EOS 30D*[2]	EOS Kiss X6i
EOS Kiss X5	EOS Kiss X4	EOS Kiss X3
EOS Kiss X2	EOS Kiss Digital X	EOS Kiss X50
EOS Kiss F	—	—

*[1] ファームウェアバージョン 1.1.1
*[2] ファームウェアバージョン 1.0.6

対象レンズ

魚眼・超広角・広角レンズ	
EF 14mm F2.8L USM	EF 14mm F2.8L II USM*[3]
EF 8-15mm F4L USM Fisheye*[3]	EF 15mm F2.8 Fisheye*[3]
EF 20mm F2.8 USM	EF 24mm F1.4L USM
EF 24mm F1.4L II USM*[3]	EF 24mm F2.8
EF 24mm F2.8 IS USM*[3]	EF 28mm F1.8 USM
EF 28mm F2.8	EF 28mm F2.8 IS USM*[3]
EF 35mm F1.4L USM	EF 35mm F2

標準・中望遠レンズ	
EF 50mm F1.2L USM*[4]	EF 50mm F1.4 USM
EF 50mm F1.8	EF 50mm F1.8 II
EF 85mm F1.2L USM	EF 85mm F1.2L II USM*[5]
EF 85mm F1.8 USM	EF 100mm F2 USM

望遠レンズ	
EF 135mm F2L USM	EF 135mm F2.8 （ソフトフォーカス機構付き）
EF 200mm F2L IS USM*[3]	EF 200mm F2.8L USM
EF 200mm F2.8L II USM	EF 300mm F2.8L IS II USM*[3]
EF 300mm F2.8L IS USM	EF 300mm F4L IS USM
EF 400mm F2.8L IS USM	EF 400mm F2.8L IS II USM*[3]
EF 400mm F5.6L USM	EF 400mm F4 DO IS USM
EF 500mm F4L IS USM	EF 500mm F4L IS II USM*[3]
EF 600mm F4L IS USM	EF 600mm F4L IS II USM*[3]
EF 800mm F5.6L IS USM*[3]	—

ズームレンズ	
EF 16-35mm F2.8L USM	EF 16-35mm F2.8L II USM*3
EF 17-35mm F2.8L USM	EF 17-40mm F4L USM
EF 20-35mm F3.5-4.5 USM	EF 24-70mm F2.8L USM
EF 24-70mm F2.8L II USM*3	EF 24-85mm F3.5-4.5 USM
EF 24-105mm F4L IS USM	EF 28-70mm F2.8L USM
EF 28-90mm F4-5.6 USM	EF 28-90mm F4-5.6 II USM
EF 28-90mm F4-5.6	EF 28-90mm F4-5.6 II
EF 28-90mm F4-5.6 III	EF 28-105mm F3.5-4.5 USM
EF 28-105mm F3.5-4.5 II USM	EF 28-105mm F4-5.6 USM
EF 28-105mm F4-5.6	EF 28-135mm F3.5-5.6 IS USM
EF 28-200mm F3.5-5.6	EF 28-200mm F3.5-5.6 USM
EF 28-300mm F3.5-5.6L IS USM	EF 55-200mm F4.5-5.6 II USM
EF 55-200mm F4-5.6 USM	EF 70-200mm F2.8L USM
EF 70-200mm F2.8L IS USM	EF 70-200mm F2.8L IS II USM*3
EF 70-200mm F4L USM	EF 70-200mm F4L IS USM*4
EF 70-300mm F4-5.6L IS USM*3	EF 70-300mm F4-5.6 IS USM
EF 70-300mm F4.5-5.6DO IS USM	EF 75-300mm F4-5.6 II*3
EF 75-300mm F4-5.6 III*3	EF 75-300mm F4-5.6 USM
EF 75-300mm F4-5.6 II USM	EF 75-300mm F4-5.6 III USM
EF 90-300mm F4.5-5.6	EF 90-300mm F4.5-5.6 USM
EF 100-300mm F4.5-5.6 USM	EF 100-400mm F4.5-5.6L IS USM

マクロレンズ	
EF 50mm F2.5 コンパクトマクロ *3	EF 100mm F2.8 マクロ USM
EF 100mm F2.8L マクロ IS USM*3	EF 180mm F3.5L マクロ USM
MP-E 65mm F2.8 1-5x マクロフォト *3	—

EF-S レンズ	
EF-S 60mm F2.8 マクロ USM	EF-S 10-22mm F3.5-4.5 USM
EF-S 15-85mm F3.5-5.6 IS USM*3	EF-S 17-55mm F2.8 IS USM
EF-S 17-85mm F4-5.6 IS USM	EF-S 18-55mm F3.5-5.6
EF-S 18-55mm F3.5-5.6 II	EF-S 18-55mm F3.5-5.6 III*3
EF-S 18-55mm F3.5-5.6 USM	EF-S 18-55mm F3.5-5.6 II USM
EF-S 18-55mm F3.5-5.6 IS*3	EF-S 18-55mm F3.5-5.6 IS II*3
EF-S 18-135mm F3.5-5.6 IS*3	EF-S 18-135mm F3.5-5.6 IS STM*3
EF-S 18-200mm F3.5-5.6 IS*3	EF-S 55-250mm F4-5.6 IS*3
EF-S 55-250mm F4-5.6 IS II*3	—

*3 *4 *5 のレンズと、下記ファームウェアバージョンの EOS 5D、EOS 30D との組合わせで撮影した画像は、レンズ収差補正の対象外となります。
※ EOS 5D には、EF-S レンズは装着できません。

*3 ファームウェアバージョンが 1.1.0 以前の EOS 5D、1.0.5 以前の EOS 30D
*4 ファームウェアバージョンが 1.1.0 以前の EOS 5D、1.0.4 以前の EOS 30D
*5 ファームウェアバージョンが 1.0.5 以前の EOS 5D、1.0.4 以前の EOS 30D

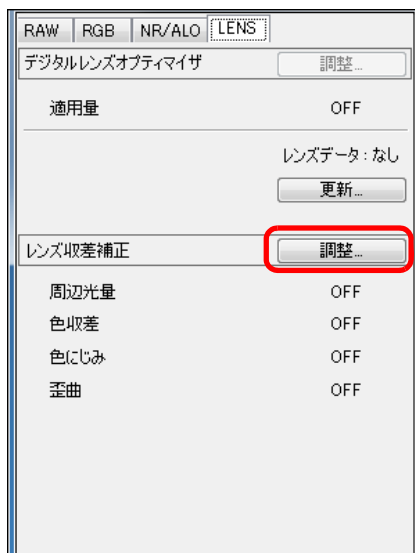
- 対象レンズにエクステンダーを装着して撮影した RAW 画像も、補正することができます。
- EF 50mm F2.5 コンパクトマクロに、ライフサイズコンバーター EF を装着して撮影した RAW 画像も、補正することができます。
- 「対象カメラ」と「対象レンズ」の組み合わせ以外で撮影された画像は、収差補正機能の対象外となるため、非表示となり使用できません。
- カメラ本体内で生成した多重露出 RAW 画像は色収差補正機能の対象外となります。

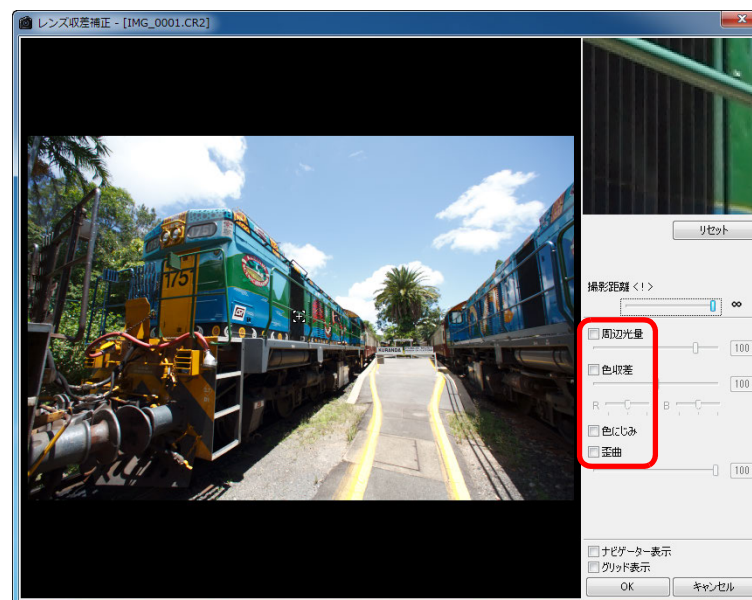
補正する

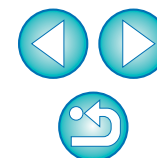
次の 4 種の要素について、単独あるいは複数同時に補正することができます。

- 周辺光量
- 色収差（画像周辺部に発生する色ズレ）
- 色にじみ（画像の高輝度部のエッジに発生することがある青色や赤色のにじみ）
- 歪曲

1 ツールパレットの［LENS］タブを選ぶ

2 ［調整］ボタンを押す

➜［レンズ収差補正］画面が表示されます。

3 補正する項目をチェックする

➜ 画像が補正されて再表示されます。

- 周辺光量、歪曲の補正結果は、全画面表示で確認します。
- 色収差、色にじみの補正結果は、画像上の確認したい個所をクリックし、右上の 200% 表示された拡大表示部 （p.136）で確認します。
- 補正項目のスライダーを左に動かすと補正効果を弱めることができます。
- ［色収差］の［R］、［B］スライダーは、赤色の収差を［R］で、青色の収差を［B］で個別に補正することができます。
- 魚眼レンズ（EF 8-15mm F4L USM Fisheye、EF 15mm F2.8 Fisheye）で撮影された画像の歪曲収差補正は、［効果］のリストボックスから、通常の歪曲補正である［撮影時設定］のほかに 4 つの効果を選ぶことができます。
  また、効果の利き具合は、［歪曲］項目下の調整スライダーで調整することができます。
  なお、各効果の詳細については、「魚眼レンズの歪曲収差補正の効果について」（p.66）を参照してください。

- EF 8-15mm F4L USM Fisheye で撮影された画像では、［効果］のリストボックスから［直線を重視］を選ぶと、微調整スライダーが表示されます。
  調整スライダーで調整し、調整結果が不十分なときは、微調整スライダーで調整してください。
- エクステンダーを選ぶリストボックスが表示されたときは、リストボックスから撮影時に装着したエクステンダーを選んでください。

4 ［OK］ボタンを押す

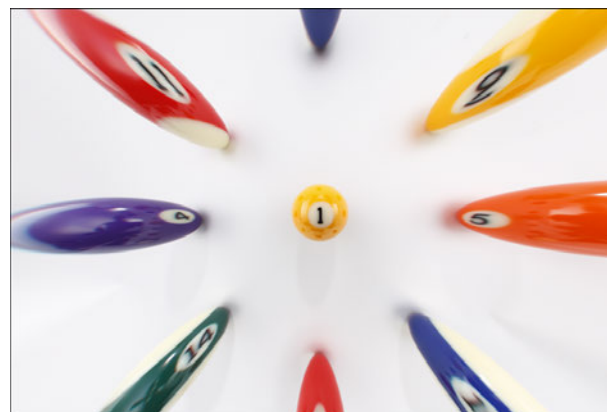
→［レンズ収差補正］画面が閉じて、補正結果が編集画面上の画像に反映され、再表示されます。
→［レンズ収差補正］画面の設定結果は、ツールパレットにも表示されます。
→メイン画面では、レンズ収差補正を示す［ ］マークが画像に表示されます。（p.126）

魚眼レンズの歪曲収差補正の効果について

- **撮影時設定**

  この項目を選ぶと、光学的な歪みを補正する歪曲収差補正のみを行います。

- **直線を重視**

  一般的なレンズの射影方式である、『中心射影』風に変換を行います。
  中心射影は、魚眼レンズとは異なり、直線を直線として写すことができます。この項目を選ぶと、視野の広いパノラマのような画像が得られますが、周辺部は引き伸ばされるため、解像感が低下します。

● **距離を重視**

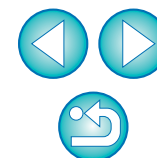
距離の関係を保存する射影方式である『等距離射影』風に変換を行います。等距離射影は、中心部と周辺部の同じ距離を、同じ距離のまま写すことができます。特に、天体のような天球を撮影するときに、水平線からの高さ（赤緯）が等間隔になるように撮影できるので、天体撮影（星図、太陽位置図など）などに利用されています。

● **周辺部を重視**

周辺部が強調される射影方式である『立体射影』風に変換を行います。立体射影は、球面上の位置関係、例えば地図上の東西南北の関係を正しく写すことができるため、世界地図や監視カメラなどに利用されています。この項目を選ぶと、周辺部は引き伸ばされるため、解像感が低下する可能性があります。

● **中心部を重視**

中心部がより強調される射影方式である『正射影』風に変換を行います。正射影は、同じ明るさの被写体を画像上の同じ面積として写すことができるので、天体輝度の分布撮影や、中心部を強調した動物撮影にも用いられます。この項目を選ぶと、中心部は引き伸ばされるため、解像感が低下する可能性があります。

[直線を重視]、[距離を重視]、[周辺部を重視]、[中心部を重視] の項目を選ぶと、選択結果はそれぞれの射影方式に類似した結果になるものの、厳密な意味での射影方式の変換にはなっていません。
したがって、学術用途などの目的には適しませんのでご注意ください。

撮影距離スライダーについて

- 下表のカメラで撮影した RAW 画像に補正を行うと、画像に撮影距離情報が保存されているときは、撮影距離情報に応じて、スライダーが自動設定されます。ただし、画像に撮影距離情報がないときは、右端の無限遠位置に自動設定されるとともに、スライダーの上部に、［〈 ! 〉］が表示されます。
撮影距離が無限遠でない画像のときは、画面を見ながらスライダーを操作して、撮影距離を微調整することができます。

EOS-1D X	EOS-1D Mark IV	EOS-1Ds Mark III
EOS-1D Mark III	EOS 5D Mark III	EOS 5D Mark II
EOS 7D	EOS 60D	EOS 50D
EOS 40D	EOS Kiss X6i	EOS Kiss X5
EOS Kiss X4	EOS Kiss X3	EOS Kiss X2
EOS Kiss X50	EOS Kiss F	—

- 下表のカメラで撮影した RAW 画像を補正したときは、右端の無限遠位置に自動設定されます。撮影距離が無限遠でない画像のときは、画面を見ながらスライダーを操作して微調整することができます。

EOS-1D Mark II N	EOS-1Ds Mark II	EOS-1D Mark II
EOS-1Ds	EOS-1D	EOS 5D
EOS 30D	EOS Kiss Digital X	—

- MP-E 65mm F2.8 1-5x マクロフォト、EF 50mm F2.5 コンパクトマクロ＋ライフイズコンバーター EF で撮影した RAW 画像は、スライダーの指標が **［撮影倍率］** に変わります。
- **［撮影距離］** スライダーは、チェックされた補正項目すべてに適用されます。

複数画像の一括補正

メイン画面で補正する複数の画像を選び、ツールバーの **［ツールパレット］** ボタン（p.124）を押すと、ツールパレットが表示されます。この状態で補正操作（p.65）を行うと、メイン画面で選んだすべての画像に、同じ内容の補正を一括適用することができます。
また、補正した画像のレシピをコピーし、適用したい複数の画像に貼り付けることで、補正内容を一括適用することもできます。（p.41）

? こんなときは

- **［周辺光量］補正を行ったら画像周辺部にノイズが発生した**
ノイズ緩和機能（p.62）で輝度ノイズ緩和、色ノイズ緩和を行うと、発生したノイズを緩和することができます。ただし、夜景や高 ISO で撮影した画像に、**［周辺光量］** 補正の補正量を多く設定すると、ノイズを緩和できないことがあります。
- **［歪曲］補正を行ったら画像の解像感が下がった**
鮮鋭度調整（p.31）でシャープネスを強めると、補正前の画像に近づけることができます。
- **［色にじみ］補正を行ったら画像の彩度が下がった**
色の濃さ調整（p.29）や彩度調整（p.107）で彩度を上げると、補正前の画像に近づけることができます。
- **［色にじみ］補正を行っても効果がわからない**
［色にじみ］ 補正は、画像の高輝度部のエッジに発生する、青色や赤色のにじみの補正に有効です。条件にあわないときは補正効果はありません。

［歪曲］ 補正を行うと、画像の周辺部が一部削除されることがあります。

［レンズ収差補正］ 画面の機能一覧は、p.136 を参照してください。

デジタルレンズオプティマイザを使用する

［レンズ収差補正］（p.63）では補正できない、結像性能に関わる残存収差や物理現象である回折現象による解像劣化を、それぞれのレンズの設計値を用いて除去して、画像の解像感を上げる機能です。対象となる画像は、次の「対象カメラ」と「対象レンズ」で撮影された RAW 画像です。JPEG 画像、TIFF 画像、S-RAW 画像、M-RAW 画像の補正はできません。また、当機能を使用するためには、あらかじめ、画像を撮影したレンズの **［レンズデータ］** をパソコンにダウンロードしておく必要があります。なお、デジタルレンズオプティマイザを使用する前は、画像の **［シャープネス］**、または **［アンシャープマスク］** の **［強さ］** を 0 に設定することをおすすめします。

対象カメラ

EOS-1D X	EOS-1D Mark IV	EOS-1Ds Mark III
EOS-1D Mark III	EOS-1D Mark II N	EOS-1Ds Mark II
EOS-1D Mark II	EOS-1Ds	EOS-1D
EOS 5D Mark III	EOS 5D Mark II	EOS 5D*1
EOS 7D	EOS 60D	EOS 50D
EOS 40D	EOS 30D*2	EOS Kiss X6i
EOS Kiss X5	EOS Kiss X4	EOS Kiss X3
EOS Kiss X2	EOS Kiss Digital X	EOS Kiss X50
EOS Kiss F	—	—

*1 ファームウェアバージョン 1.1.1
*2 ファームウェアバージョン 1.0.6

対象レンズ

広角レンズ	
EF 14mm F2.8L II USM	EF 24mm F1.4L II USM
EF 35mm F1.4L USM	—

標準・中望遠レンズ	
EF 50mm F1.4 USM	EF 50mm F1.2L USM
EF 85mm F1.2L II USM	—

望遠レンズ	
EF 300mm F2.8L IS II USM	EF 400mm F2.8L IS II USM
EF 500mm F4L IS II USM	EF 600mm F4L IS II USM

ズームレンズ	
EF 16-35mm F2.8L USM	EF 16-35mm F2.8L II USM
EF 17-40mm F4L USM	EF 24-70mm F2.8L USM
EF 24-70mm F2.8L II USM	EF 24-105mm F4L IS USM
EF 28-300mm F3.5-5.6L IS USM	EF 70-200mm F2.8L IS USM
EF 70-200mm F2.8L IS II USM	EF 70-200mm F4L USM
EF 70-200mm F4L IS USM	EF 70-300mm F4-5.6L IS USM
EF 100-400mm F4.5-5.6L IS USM	—

EF-S レンズ	
EF-S 10-22mm F3.5-4.5 USM	EF-S 15-85mm F3.5-5.6 IS USM
EF-S 17-55mm F2.8 IS USM	EF-S 17-85mm F4-5.6 IS USM
EF-S 18-135mm F3.5-5.6 IS	EF-S 18-135mm F3.5-5.6 IS STM
EF-S 18-200mm F3.5-5.6 IS	—

- 対象レンズにエクステンダーを装着して撮影した画像は、デジタルレンズオプティマイザを使用することはできません。
- カメラ本体内で生成した多重露出 RAW 画像は、デジタルレンズオプティマイザを使用することはできません。

デジタルレンズオプティマイザを使用する

1 **ツールパレットの［LENS］タブを選び、［デジタルレンズオプティマイザ］の［レンズデータ］の状態を確認する**

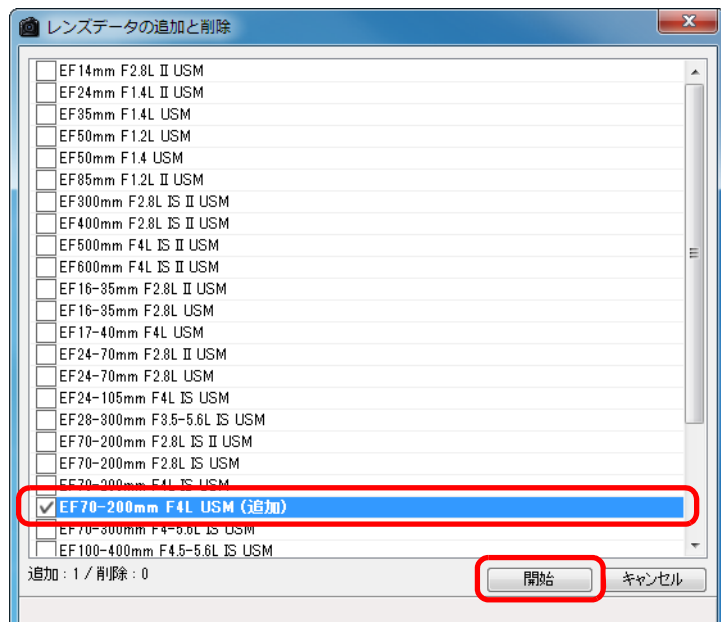
- **［非対応］**が表示されている場合は、対象外のカメラやレンズで撮影された画像、または JPEG 画像、TIFF 画像、S-RAW 画像、M-RAW 画像などの非対応画像です。当機能を使用することはできません。
- **［なし］**が表示されている場合は、**2** に進んでください。当機能を使用するためには、画像を撮影したレンズの**［レンズデータ］**をパソコンにダウンロードする必要があります。あらかじめ、画像の撮影レンズを確認しておくことをおすすめします。撮影レンズは、メイン画面のツールバーの**［画像情報］**ボタン （p.23）で確認することができます。また、画像上でマウスの右ボタンをクリックすると表示されるメニューでも確認することができます。
- **［あり］**が表示されている場合は、**4** に進んでください。

手順 2 で**［更新］**ボタンを押すまでは、非対応画像も**［非対応］**と表示されずに、レンズデータ**［なし］**と表示される場合があります。

2 **［更新］ボタンを押す**

➜ **［レンズデータの追加と削除］**画面が表示されます。

- この機能をお使いいただくためには、インターネットに接続できる環境（プロバイダとの契約やブラウザソフトのインストール、各種回線接続が完了済み）が必要です。
- この操作には、管理者権限が必要です。

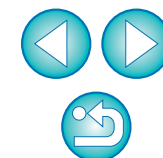
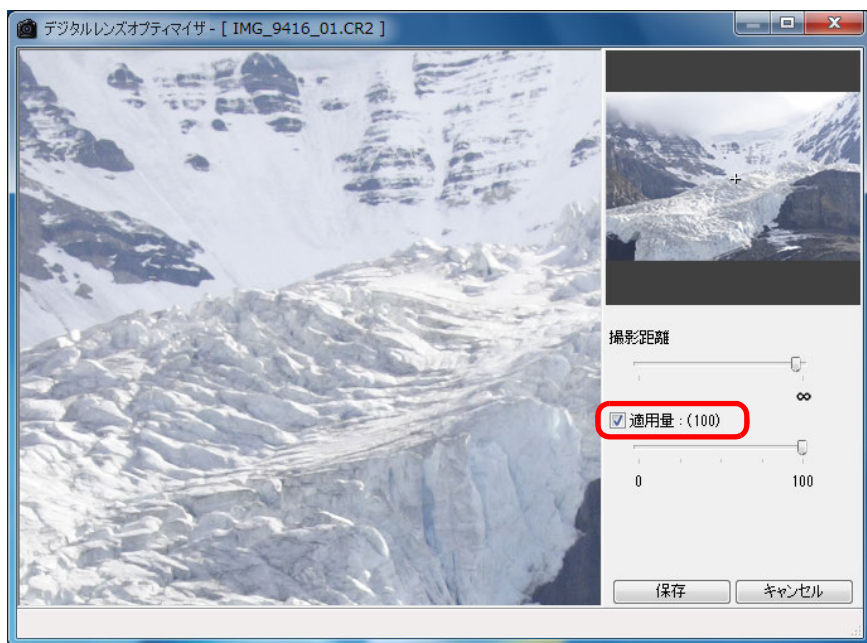
3 画像を撮影したレンズのチェックボックスにチェックして、［開始］ボタンを押す

➜［レンズデータ］がパソコンにダウンロードされます。

➜［レンズデータ］のダウンロードが完了すると、［レンズデータ］の表示が［あり］に変わります。

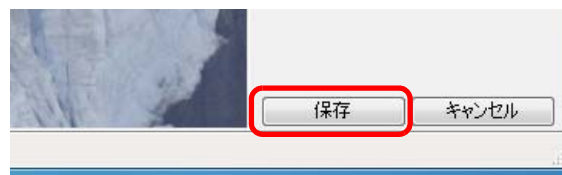
- 複数の［レンズデータ］を同時にダウンロードすることもできます。
- ダウンロード済のレンズ名のチェックを外して［開始］ボタンを押すと、［レンズデータ］がパソコンから削除されます。

4 ［調整］ボタンを押す

➜［デジタルレンズオプティマイザ］画面が表示されます。

お使いのパソコンで動作しているソフトウェアの種類、動作状況などにより、［レンズデータ］のダウンロードに失敗することがあります。その場合は、しばらく時間をおいてから、ダウンロードを再度行ってください。

5 ［適用量］チェックボックスにチェックを入れて調整を行う

- デジタルレンズオプティマイザが適用されている画像は、はじめからチェックされています。チェックを外して［保存］ボタンを押すと、デジタルレンズオプティマイザが解除されます。
- ［デジタルレンズオプティマイザ］画面は、画像にシャープネスまたはアンシャープマスクが適用された状態で表示されます。
- デジタルレンズオプティマイザを適用すると、シャープネスまたはアンシャープマスクが強くかかり過ぎることがあります。あらかじめ、画像のシャープネスまたはアンシャープマスクの強さを 0 にしてから、デジタルレンズオプティマイザを使用することをおすすめします。
シャープネスまたはアンシャープマスクの調整は、画像にデジタルレンズオプティマイザを適用した後にあらためて行ってください。

- デジタルレンズオプティマイザの効果は、［適用量］スライダーで調整します。
- 適用量表示に［MAX］が表示されたときは、スライダーをさらに右側にスライドさせても、効果は変わりません。
- ナビゲーター画面で拡大表示位置をドラッグすると、確認画面の表示位置を変えることができます。
- 当画面でレンズの撮影距離を設定しても、［レンズ収差補正］画面の撮影距離表示の値は連動しません。
- 画像に撮影距離情報がないときは、右端の無限遠位置に自動設定されるとともに、撮影距離スライダーの上部に、［〈！〉］が表示されます。
- デジタルレンズオプティマイザを適用した画像は、［レンズ収差補正］で［色収差］の補正を行うことができません。

6 ［保存］ボタンを押す

→［デジタルレンズオプティマイザ］画面が閉じて、補正結果が編集画面上の画像に反映されます。

→［デジタルレンズオプティマイザ］画面の適用結果は、ツールパレットにも表示されます。

→メイン画面では、デジタルレンズオプティマイザが適用されていることを示すマーク［ ］が画像に表示されます。(p.126)

- ［保存］ボタンを押してから、補正が完了するまで、時間がかかることがあります。
- デジタルレンズオプティマイザの適用を行うと、ファイルサイズが大きくなります。

自動ゴミ消し処理をする

ゴミ消し情報（ダストデリートデータ）が付けられるカメラで、撮影した画像にダストデリートデータが付いているときは、そのデータを使ってゴミやホコリを自動的に消すことができます。

対象カメラ

EOS-1D X	EOS-1D Mark IV	EOS-1Ds Mark III
EOS-1D Mark III	EOS 5D Mark III	EOS 5D Mark II
EOS 7D	EOS 60D	EOS 50D
EOS 40D	EOS Kiss X6i	EOS Kiss X5
EOS Kiss X4	EOS Kiss X3	EOS Kiss X2
EOS Kiss Digital X	EOS Kiss X50	EOS Kiss F

1 メイン画面でダストデリートデータの付いた画像を選ぶ

2 ［スタンプ］ボタンを押す

➜ コピースタンプ画面が表示されます。

3 画像が鮮明な表示になったら、［ダストデリートデータ適用］ボタンを押す

➜ ゴミやホコリが一括して消されます。

4 ［OK］ボタンを押してメイン画面に戻る

➜ ゴミを消した画像には、［ ］マーク （p.126）が表示されます。

こんなときは

ゴミ消し画像はいつでも元に戻せる

ゴミ消しした画像は、ゴミ消しした画像として表示され、印刷することもできます。ただし、実際に画像上のゴミを消してはいないため、コピースタンプ画面で［元に戻す］ボタンを押すか、「編集をやり直す」（p.43）の操作を行うと、いつでもゴミ消し前の状態に戻すことができます。

ゴミ消し具合はコピースタンプ画面で確認する

ゴミ消し具合は、コピースタンプ画面で確認してください。他の画面ではゴミ消し前の画像が表示され、ゴミ消し具合を確認することができません。

ゴミ消し画像の印刷

ゴミ消しした画像を DPP で印刷すると、ゴミが消された画像として印刷されます。

［ダストデリートデータ適用］ボタンが押せない

カメラでダストデリートデータを付けた画像でも、画像上に DPP で消せるゴミがないときは、［ダストデリートデータ適用］ボタンは非表示となり、押すことはできません。

自動ゴミ消し処理では消えないゴミを消すには

自動ゴミ消し処理は、ダストデリートデータに保存されているゴミやホコリに関する情報を元にゴミが消されます。そのため、画像に写り込んだゴミやホコリの種類によっては消せないことがあります。そのときは、リペア機能（p.75）やコピースタンプ機能（p.77）を使ってゴミやホコリを個別に消してください。

変換して保存するとゴミ消しした画像になる

ゴミ消しした RAW 画像を、JPEG 画像または TIFF 画像に変換して保存（p.42）すると、実際にゴミが消された画像になります。

コピースタンプ画面の便利な機能

ゴミ消しした箇所を確認する

手順 3 の後に〈Shift〉＋〈F〉キーを押すと、ゴミ消し箇所が 1 箇所ずつ表示され、ゴミ消しした箇所を詳細に確認することができます。（〈Shift〉＋〈B〉キーを押すと 1 つ前の箇所に戻ります）

指定したゴミ消し箇所だけをキャンセルする

手順 3 の後に〈Shift〉＋〈F〉キーまたは、〈Shift〉＋〈B〉キーを押してゴミ消し箇所を表示し〈Shift〉＋〈Del〉キーを押すと、表示しているゴミ消し箇所だけをゴミ消し前の状態に戻すことができます。

全画面表示／通常画面表示をショートカットキーで切り換える

〈Alt〉＋〈Enter〉キーを押して、全画面表示／通常画面表示を切り換えることもできます。

ゴミ消し結果を別の画像にも適用する

［コピー］ボタンを押してゴミ消し結果をコピーし、適用したい別の画像を表示して［ペースト］ボタンを押すと、別の画像の同じ位置のゴミを消すことができます。

コピースタンプ画面の機能一覧は、p.140 を参照してください。

メイン画面での自動ゴミ消し処理

ダストデリートデータが付いた複数の画像の自動ゴミ消しを、メイン画面で行うことができます。

ダストデリートデータの付いた複数の画像を選んで、メニューの［調整］▶［ダストデリートデータ適用］を選ぶ

➜ 選んだすべての画像のゴミやホコリが一括して消されます。

手動でゴミ消し処理をする（リペア機能）

画像に写り込んだ点状のゴミやホコリを、1 箇所ずつ選んで消すことができます。

1 メイン画面でゴミを消したい画像を選ぶ

2 ［スタンプ］ボタンを押す

➜ コピースタンプ画面が表示されます。

3 画像が鮮明な表示になったらゴミ消ししたい箇所をダブルクリックする

➜ 100%表示になります。
- ドラッグすると表示位置を変えることができます。

4 消したいゴミにあったボタンを押す

- 黒っぽいゴミのときは［ ］ボタンを、白っぽいゴミのときは［ ］ボタンを押します。
- 画像上にカーソルを移動すると、ゴミ消しする範囲が［○］で表示されます。

5 消したいゴミを［○］の中に入れてクリックする

➜［○］内のゴミが消されます。
- 表示されている別の箇所をクリックすると、続けてゴミ消しすることができます。
- 別の箇所のゴミを消すときは、マウスの右ボタンをクリックするか、手順 4 で押したボタンを再度押してゴミ消し処理を一旦解除し、手順 3 からの操作を再度行ってください。
- ゴミ消しできないときは、［⃠］が表示されます。

6 ［OK］ボタンを押してメイン画面に戻る

➜ ゴミを消した画像には、［ ］マーク（p.126）が表示されます。

こんなときは

きれいに消えないときは、何度かクリックする

手順 5 の操作を 1 度行ってもきれいにゴミが消えないときは、何度かクリックするときれいに消えることがあります。

リペア機能で消せるのは、主に点状のゴミやホコリ

リペア機能でゴミ消しできるのは、点状のゴミやホコリです。線状のゴミやホコリは消せないことがありますので、そのときはコピースタンプ機能（p.77）で消してください。

ゴミ消し画像はいつでも元に戻せる

ゴミ消しした画像は、ゴミ消しした画像として表示され、印刷することもできます。ただし、実際に画像上のゴミを消してはいないため、コピースタンプ画面で［元に戻す］ボタンを押すか、「編集をやり直す」（p.43）の操作を行うと、いつでもゴミ消し前の状態に戻すことができます。

ゴミ消し具合はコピースタンプ画面で確認する

ゴミ消し具合は、コピースタンプ画面で確認してください。他の画面ではゴミ消し前の画像が表示され、ゴミ消し具合を確認することができません。

ゴミ消し画像の印刷

ゴミ消しした画像を DPP で印刷すると、ゴミが消された画像として印刷されます。

変換して保存するとゴミ消しした画像になる

ゴミ消しした RAW 画像を、JPEG 画像または TIFF 画像に変換して保存（p.42）すると、実際にゴミが消された画像になります。

コピースタンプ画面の便利な機能

ゴミ消しした箇所を確認する

手順 5 の後に〈Shift〉＋〈F〉キーを押すと、ゴミ消し箇所が 1 箇所ずつ表示され、ゴミ消しした箇所を詳細に確認することができます。（〈Shift〉＋〈B〉キーを押すと 1 つ前の箇所に戻ります）

指定したゴミ消し箇所だけをキャンセルする

手順 5 の後に〈Shift〉＋〈F〉キー、または〈Shift〉＋〈B〉キーを押してゴミ消し箇所を表示し、〈Shift〉＋〈Del〉キーを押すと、表示しているゴミ消し箇所だけをゴミ消し前の状態に戻すことができます。

全画面表示／通常画面表示をショートカットキーで切り換える

〈Alt〉＋〈Enter〉キーを押して、全画面表示／通常画面表示を切り換えることもできます。

ゴミ消し結果を別の画像にも適用する

［コピー］ボタンを押してゴミ消し結果をコピーし、適用したい別の画像を表示して［ペースト］ボタンを押すと、別の画像の同じ位置のゴミを消すことができます。

なお、同じ位置のゴミ消しを複数の別画像に適用したいときは、メイン画面で〈Ctrl〉キーを押したまま画像をクリックするか、最初の画像をクリックし、〈Shift〉キーを押したまま最後の画像をクリックして複数の画像を選んでからコピースタンプ画面を表示すると、効率よくゴミ消しを行うことができます。

ISO 感度拡張を設定して撮影した画像は、ノイズが目立ち、コピースタンプ画面でのゴミやホコリの確認が難しいので、当機能の使用はおすすめしません。

コピースタンプ画面の機能一覧は、p.140 を参照してください。

画像の不要な箇所を消す（コピースタンプ機能）

画像上の不要な箇所に、別の部分からコピーした画像を貼り付けて修正することができます。

1 「手動でゴミ消し処理をする（リペア機能）」(p.75) の手順 3 までの操作をする

2 コピーする箇所を指定する

- 画像上のコピー元となる箇所を〈Alt〉キーを押したままクリックします。
- コピー元となる箇所を変更するときは、再度上記の操作を行ってください。
- コピー元の位置を固定したいときは、**［コピー元の位置を固定する］**をチェックします。

3 画像を修正する

- 画像上の修正したい箇所をクリックまたはドラッグします。画面上の［+］がコピー元、［○］がコピー先になります。

→ コピー元の画像がドラッグした位置に貼り付けられます。

- **［スタンプの種類］**は、**［ブラシ］**（境界線がブラシ上にぼかされて処理されます）と**［鉛筆］**（境界線がはっきりと処理されます）から選ぶことができます。

4 ［OK］ボタンを押してメイン画面に戻る

→ 修正した画像には、［ ］マーク (p.126) が表示されます。

Photoshop に RAW 画像を転送する

RAW 画像を TIFF 画像（16bit）に変換して、Photoshop に転送することができます。

メニューの［ツール］▶［Photoshop へ転送］を選ぶ

→ Photoshop が立ち上がり、転送された画像が表示されます。

? 1 度に転送できるのは 1 枚の画像

1 度に転送できる画像は 1 枚です。複数の画像を同時に転送するときは p.100 を参照してください。

- 対応する Photoshop のバージョンは 7.0 以降です。
- 転送した画像は、自動的に TIFF 画像（16bit）に変換され、ICC プロファイル (p.143) が付加されます。ICC プロファイルには、**［環境設定］**(p.93) または、下記の画像ごとに設定した作業用色空間の情報が記載され、適切な色情報が Photoshop に伝達されます。
- Photoshop を終了すると、オリジナルの RAW 画像のみが残り、転送した画像は消えてしまいます。転送した画像は Photoshop 上で、新たに別の画像として保存することをおすすめします。
- Photoshop の CS4 以降のバージョンでは、32bit 版がインストールされていない場合は当機能を使用できません。

作業用色空間を設定する

初期設定 (p.93) とは別の作業用色空間 (p.144) を、画像ごとに設定することができます。

メニューの［調整］▶［作業用色空間］▶設定する色空間の項目を選ぶ

? 個別に設定した色空間は、初期設定を変えても変わらない

初期設定とは別の色空間を画像に設定すると、初期設定の色空間 (p.93) を変えても適用されず、個別に設定した色空間が保持されます。

RAW 画像の色空間は何度でも自由に変えられる

RAW 画像の色空間を変えても、画像処理条件の情報が変更されるだけなので、いつでも必要な色空間へ変えることができます。

はじめに
やりたいこと目次
基本操作
応用操作
高度な機能
大量の画像を扱う機能
JPEG/TIFF 画像編集
資　料
索　引

画像を合成する

２枚の画像を合成して１枚の画像にすることができます。また、合成した画像に、新たに別の画像を続けて合成することもできます。

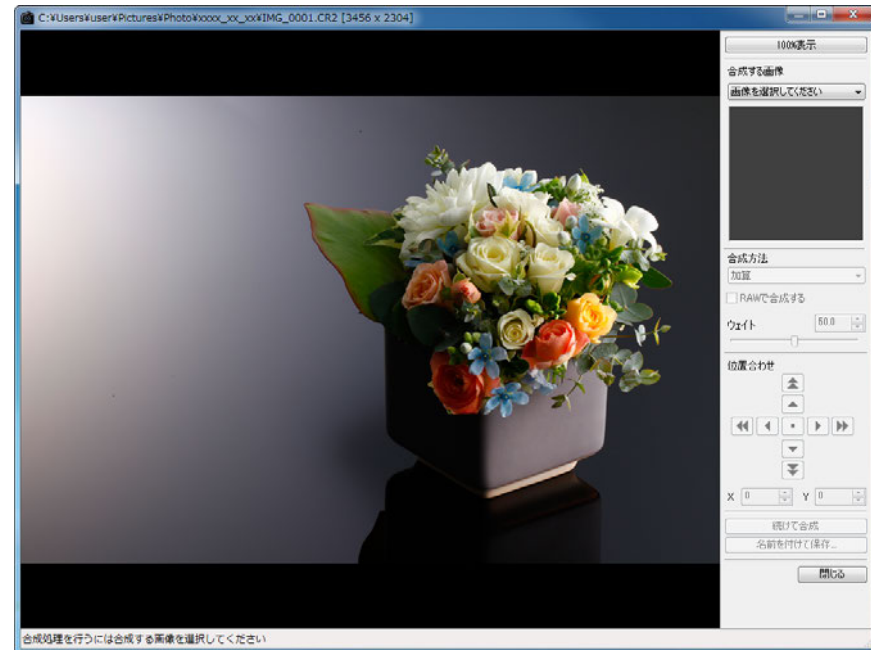
なお、合成画像は別画像として保存されるため、オリジナル画像はそのまま残ります。

- 対応画像は、DPP が対応しているすべての種類の画像 （p.3） ですが、画像サイズが 6666 × 4444 画素を超える画像は対象外となります。
- 合成した画像の色空間は、背景画像の色空間を引き継ぎます。
- 合成した画像に画像情報は付加されません。

1 メイン画面から背景画像を選ぶ

- 編集画面、セレクト編集画面、［**コレクション**］画面から背景画像を選ぶこともできます。

2 メニューの［ツール］▶［多重合成ツールを起動］を選ぶ

➜ 多重合成ツール画面が表示されます。

はじめに
やりたいこと目次
基本操作
応用操作
高度な機能
大量の画像を扱う機能
JPEG/TIFF画像編集
資　料
索　引

3 合成する画像を選ぶ

● **[合成する画像]** リストボックスから、合成する画像を選びます。

→ **[合成する画像]** のサムネイル表示に、選択した画像が表示されます。

→ 合成結果プレビュー表示に、背景画像と **[合成する画像]** が、合成された状態でプレビュー表示されます。

● 合成できる画像は、次のとおりです。
- メイン画面（**[フォルダ]** 画面）、編集画面で背景画像を選択時：背景画像と同じフォルダ内の画像
- **[コレクション]** 画面で背景画像を選択時：**[コレクション]** 画面内にある画像
- セレクト編集画面で背景画像を選択時：サムネイル表示エリアに表示されている画像

● 異なるサイズの画像を合成することができます。

4 合成方法を選ぶ

● **[合成方法]** リストボックスから、合成方法を選びます。

→ 合成結果プレビュー表示に選択された合成方法が反映されます。

● 合成方法は、加算、加算平均、加重平均、比較（明）、比較（暗）の5 種類から選択することができます。各合成方法の内容については、合成方法について （p.81）をご確認ください。

● **[加重平均]** を選択したときは、合成する画像の明るさの割合を設定することができます。明るさの割合の設定は **[合成方法]** リストボックスの下にある **[ウェイト]** スライダー、または数値の直接入力で行います。

● **[100%表示]** ボタンを押すと、100%（ピクセル等倍）の拡大表示になります。

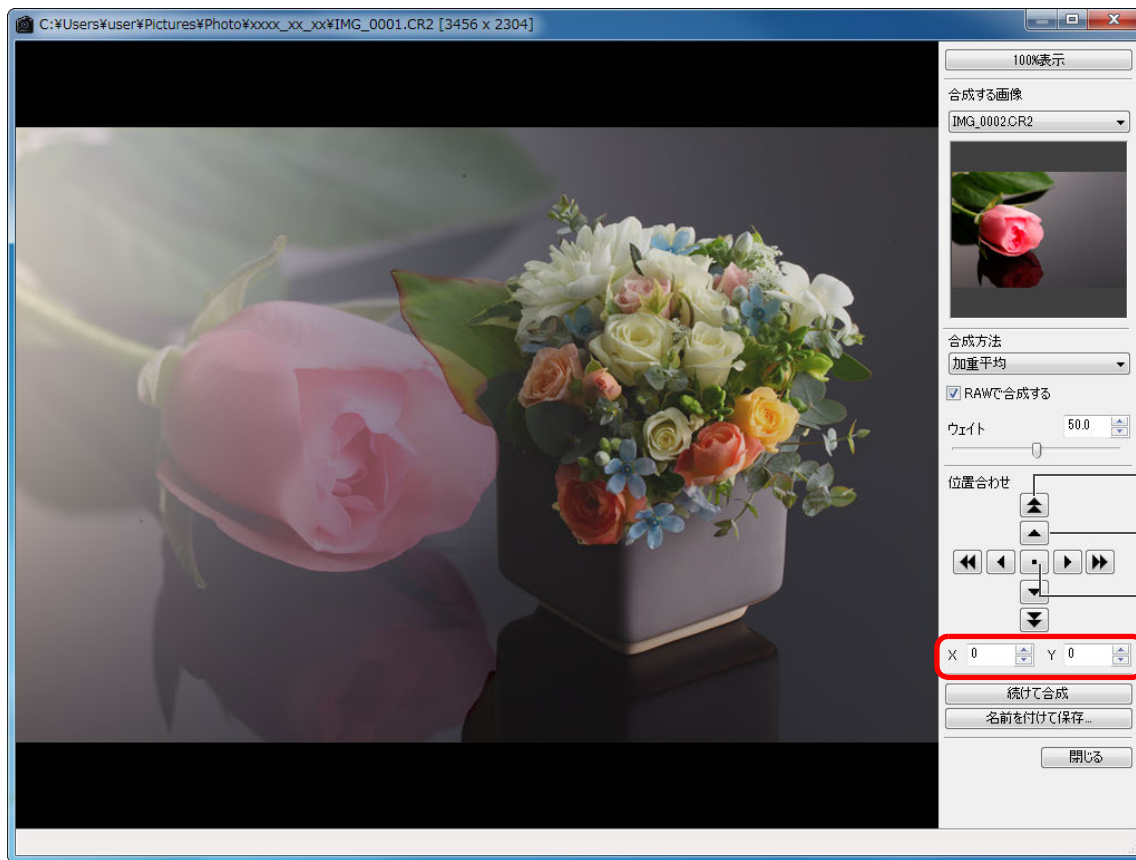
はじめに
やりたいこと目次
基本操作
応用操作
高度な機能
大量の画像を扱う機能
JPEG/TIFF画像編集
資　料
索　引

5 位置合わせを行う

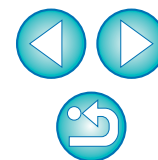
大きく（50 ピクセル）動かす

少し（1 ピクセル）動かす

画像の中心を合わせる

［合成する画像］の座標位置を直接入力することで位置合わせを行うことも可能

- 初期設定では、背景画像と **［合成する画像］** の中心合わせが行われた状態で表示されます。
- **［RAW で合成する］**
  必要に応じて、**［RAW で合成する］** チェックボックスをチェックします。

- **[RAW で合成する]** は、次の条件の時に設定することができます。背景画像と **［合成する画像］** が共に RAW 画像で、さらに下記の条件をすべて満たしているとき。
  - ・撮影機種が同じとき
  - ・撮影時の ISO 感度設定が同じとき
  - ・撮影時の高輝度階調優先の設定が同じとき
  - ・画像サイズ（元サイズ）が同じとき

- **[RAW で合成する]** に設定して合成した画像は、次の機能が使用できません。
  - ・オートライティングオプティマイザ （p.61）
  - ・ピクチャースタイルオート（自動的にスタンダードに設定されます。）（p.59）
  - ・トリミングの比率の **[円形]** を選択 （p.39）

6 ［名前を付けて保存］ボタンを押す

→［名前を付けて保存］ボタンを押すと、［変換して保存］（p.42）画面が表示されます。必要な設定を行い［保存］ボタンを押します。

- ［続けて合成］ボタンを押すと、画像が合成されて新たな背景画像となり、別画像を続けて合成することができます。
- 終了するときは［閉じる］ボタンを押します。

合成方法について

- 加算
  背景画像と［合成する画像］の明るさを加算して重ね合わせます。
- 加算平均
  自動的に明るさのマイナス補正を行いながら、画像を重ね合わせます。1枚ごとに露光量を変えたいときは［加重平均］を選びます。
- 加重平均
  ［合成する画像］に対して明るさの割合を設定する合成方法です。
- 比較（明）
  背景画像と［合成する画像］を比較して、明るい部分だけを合成します。
- 比較（暗）
  背景画像と［合成する画像］を比較して、暗い部分だけを合成します。

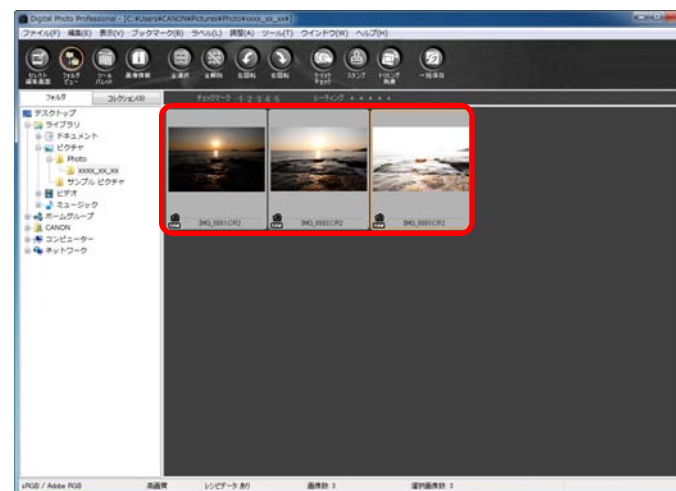
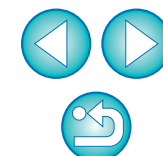
HDR（ハイダイナミックレンジ）画像を生成する

白とびや黒つぶれを緩和した広いダイナミックレンジの画像や、絵画のような画像を生成することができます。風景などの静物画像に適しています。当機能の効果を最大限に生かすためには、露出の異なる 3 枚（露出アンダー、適正露出、露出オーバー）の同一シーンの画像から生成することをおすすめしますが、2 枚の画像、または 1 枚の画像から生成することもできます。

なお、HDR 画像は別画像として保存されるため、オリジナル画像はそのまま残ります。

※ HDR は、High Dynamic Range（ハイダイナミックレンジ）の略です。

- 対応画像は、DPP が対応しているすべての種類の画像（p.3）ですが、画像サイズが 6666 × 4444 画素を超える画像は対象外となります。
- HDR 画像に画像情報は付加されません。

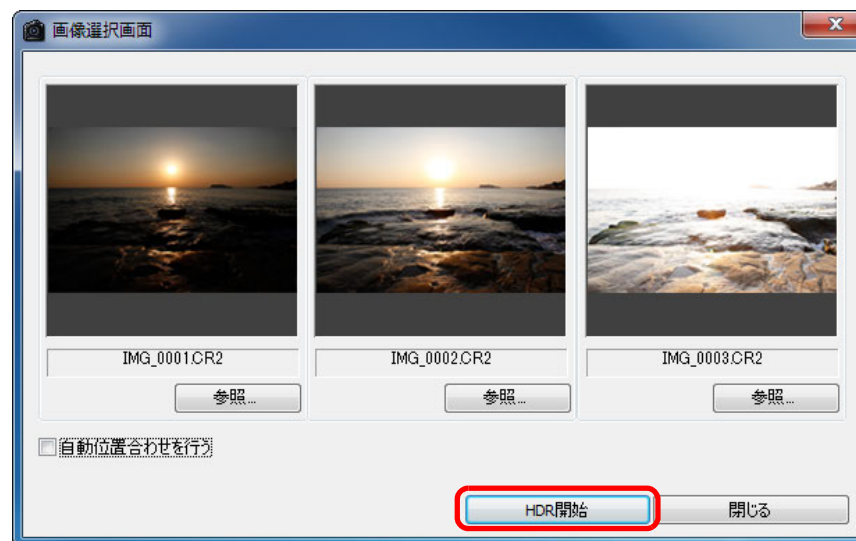
1 メイン画面で画像を選択する

2 メニューの［ツール］▶［HDR ツールを起動］を選ぶ

ツール(T)

クイックチェックツールを起動(Q)	Alt+Q
トリミング/角度調整ツールを起動(T)	Alt+C
コピースタンプツールを起動(S)	Alt+S
多重合成ツールを起動(X)	Alt+X
HDRツールを起動(Y)	Alt+Y
リネームツールを起動(R)	Alt+R
EOS Utilityを起動(U)	Alt+O
EOS Utilityとフォルダを同期(N)	
Map Utilityを起動(M)	Alt+U
Photoshopへ転送(O)	Alt+P
環境設定(P)...	Ctrl+K

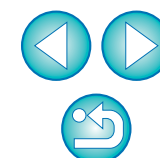
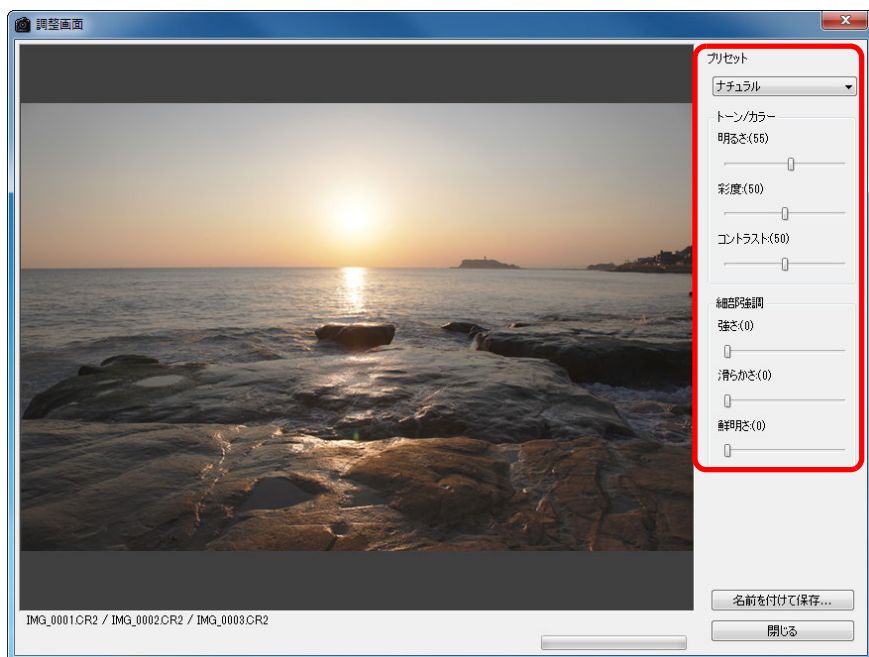
➜ **［画像選択画面］**が表示されます。

● 編集画面、セレクト編集画面から**［画像選択画面］**を表示することもできます。

3 必要な設定を行い、［HDR 開始］ボタンを押す

● 選択した画像の変更や、画像の追加を行うときは、**［参照］**ボタンを押すと表示される**［開く］**画面で画像データを選び、**［開く］**ボタンを押します。

● 同じサイズの画像を 2 枚以上選んだ場合は、**［自動位置合わせを行う］**チェックボックスにチェックすることで、自動位置合わせを行うことができます。ただし、格子模様、ストライプ模様のような繰り返しパターンや、画面全体が平坦で単調なときは、自動位置合わせが正常に行われないことがあります。

➜ **［HDR 開始］**ボタンを押すと、**［調整画面］**が表示されます。

自動位置合わせを行った場合は、画像の周辺部が一部削除されます。

4 必要な選択、調整を行う

● **[調整画面]** の各スライダーについて

[トーン / カラー]

[明るさ]：　画像全体の明るさを調整します。スライダーを右に動かすと明るくなり、左に動かすと暗くなります。

[彩度]：　画像全体の色の濃さを調整します。スライダーを右に動かすと色が濃くなり、左に動かすと色が薄くなります。

[コントラスト]：
画像全体の明暗差を調整します。スライダーを右に動かすとコントラストが強くなり、左に動かすとコントラストが弱くなります。

[細部強調]

[強さ]：　画像の全体と細部のコントラストを同時に調整します。スライダーを右に動かすと効果が強くなります。

[滑らかさ]：　画像全体の滑らかさを調整します。スライダーを右に動かすと、滑らかで自然な印象になります。

[鮮明さ]：　画像細部の鮮明さを調整します。スライダーを右に動かすと輪郭がはっきりします。

● **[プリセット]** と仕上がり効果について

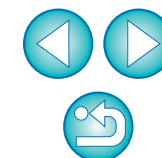
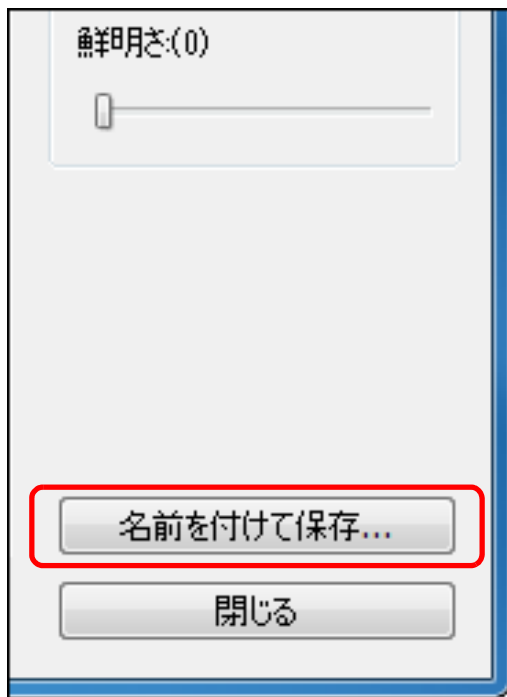
[プリセット] では、各スライダーを個別に操作する代わりに、**[プリセット]** のプルダウンメニューから、あらかじめ用意された下記の５種類の仕上がり効果を選ぶことができます（初期設定では **[ナチュラル]** が選ばれています）。仕上がり効果を選ぶと、各スライダーがその設定に応じた位置に移動します。その後、各スライダーを操作して調整することもできます。

[ナチュラル]：　明暗差の大きいシーンで、通常は白とびしてしまう部分や、黒くつぶれてしまう部分の描写が補正され、白とびや黒つぶれが緩和されたような仕上がりになります。

[絵画調標準]：　絵画のような階調で、印象的な仕上がりになります。

[グラフィック調]：
[絵画調標準] よりも、鮮やかな仕上がりになります。

[油彩調]：　**[絵画調標準]** よりも、鮮やかで、被写体の立体感を強調する仕上がりになります。

[ビンテージ調]：**[絵画調標準]** よりも鮮やかさを抑えることにより、古めかしい感じの仕上がりになります。

5 ［名前を付けて保存］ボタンを押す

➜ ［名前を付けて保存］ボタンを押すと、［変換して保存］（p.42）画面が表示されます。必要な設定を行い［保存］ボタンを押します。

Map Utility を起動する

Map Utility は、GPS 機能に対応したキヤノン製カメラで撮影した画像を、撮影場所や移動経路も含めて閲覧するためのソフトウェアです。あらかじめ、パソコンにインストールした Map Utility を DPP から起動することができます。

メニューの［ツール］▶［Map Utility を起動］を選ぶ

➜ Map Utility が起動します。
- Map Utility の使用方法については、Map Utility の使用説明書、または Map Utility のヘルプを参照してください。

DPP の画像編集と、Map Utility の操作を同時に行わないでください。画像の編集内容が、正しく保存されないことがあります。

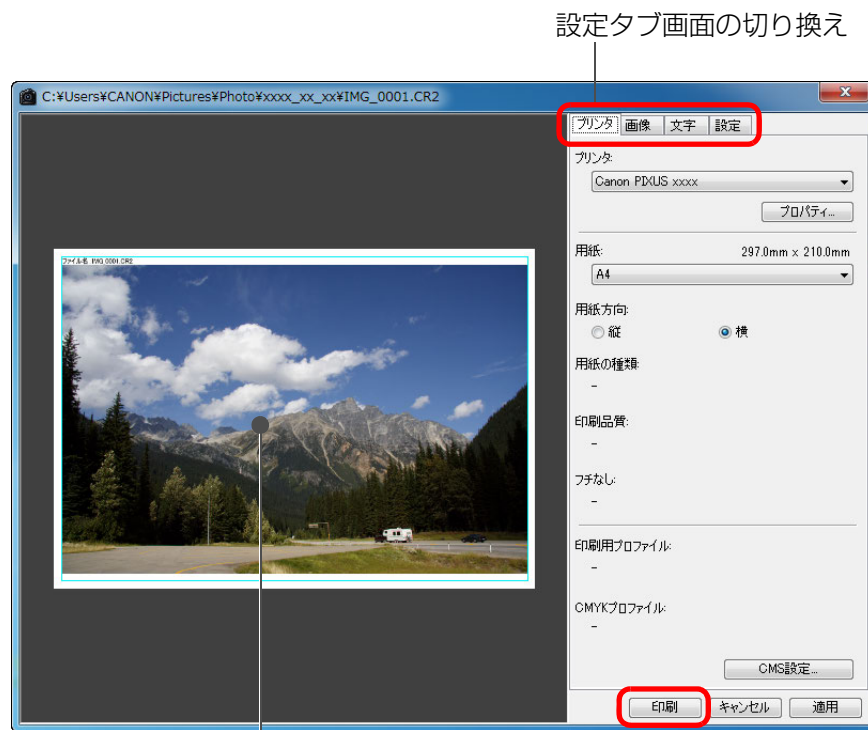
- Ver.1.1.0 以降の Map Utility が対象となります。
- Map Utility は EOS DIGITAL Solution Disk には収録されていません。
- Map Utility がパソコンにインストールされていないと、メニューの［ツール］に［Map Utility を起動］は表示されません。

撮影情報を付けて印刷する

1 枚の用紙に 1 つの画像を自由にレイアウトして、入力したタイトルや撮影情報などを一緒に印刷することができます。

1 印刷する 1 枚の画像を選ぶ

2 メニューの［ファイル］▶［詳細指定印刷］を選ぶ

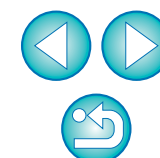
3 必要な設定を行い［印刷］ボタンを押す

設定タブ画面の切り換え

印刷イメージ

- 画像はドラッグ操作で移動することができます。
- 画像の四隅をドラッグすると、大きさを変えることができます。
- 撮影情報は、［文字］タブ画面の［ ］を押すと表示される画面で必要な項目を選びます。

設定内容を保持するには

手順 3 で設定した各タブ画面の内容は、［適用］ボタンを押すと記憶されます。（［文字］タブ画面の内容は除く）設定内容は、別の画像を印刷するときに適用することができます。

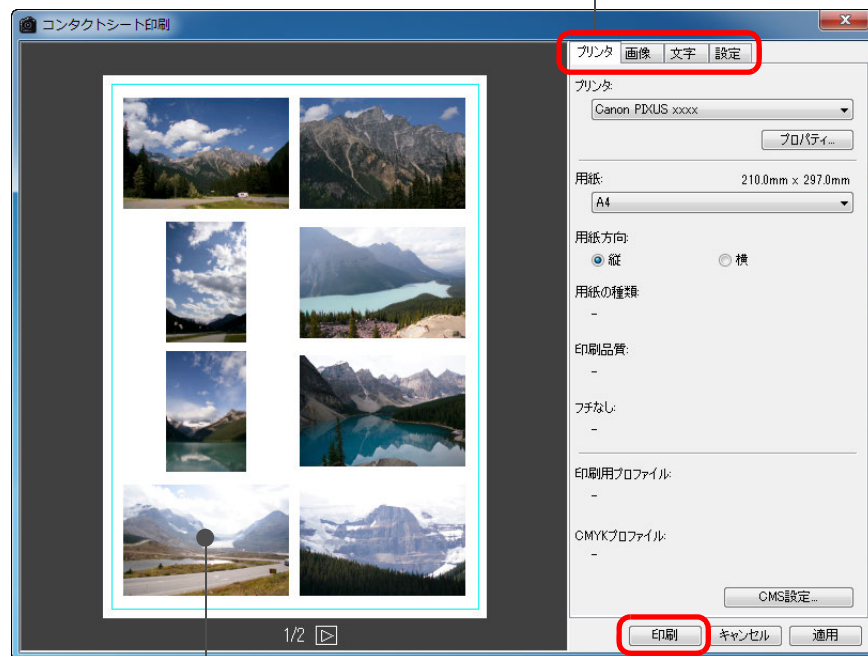
- プリンターのプロファイルを設定することができます。（p.93）
- CMYK シミュレーションを設定したときは、設定した色味で印刷されます。（p.93）

一覧印刷（コンタクトシート印刷）

1 枚の用紙に複数の画像を並べて印刷することができます。

1 一覧印刷する画像を選ぶ

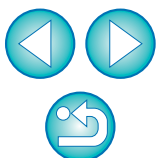
2 メニューの［ファイル］▶［コンタクトシート印刷］を選ぶ

3 必要な設定を行い［印刷］ボタンを押す

設定タブ画面の切り換え

印刷イメージ

設定内容を保持するには

手順 3 で設定した各タブ画面の内容は、［適用］ボタンを押すと記憶されます。（［文字］タブ画面の内容は除く）設定内容は、別の画像を印刷するときに適用することができます。

- プリンターのプロファイルを設定することができます。（p.93）
- CMYK シミュレーションを設定したときは、設定した色味で印刷されます。（p.93）

キヤノン製ハイエンドプリンターで RAW 画像を印刷する

キヤノン製ハイエンドインクジェットプリンターとの連携印刷

Easy-PhotoPrint Pro（印刷用ソフトウェア）に対応したキヤノン製ハイエンドインクジェットプリンターをお持ちの方は、DPP との連携による下記の特徴を備えた印刷を簡単な操作で行うことができます。

- RAW 画像の簡単印刷
- 忠実な色味による印刷
- Adobe RGB などの広域色空間とキヤノン製ハイエンドインクジェットプリンターの広域色再現領域を活用した高画質印刷

なお、連携した印刷を行うには、事前にバージョン 1.3 以降の Easy-PhotoPrint Pro をパソコンにインストールしてください。

1 メニューの［ファイル］▶［プラグイン印刷］▶［Easy-PhotoPrint Pro で印刷］を選ぶ

➜ Easy-PhotoPrint Pro が立ち上がります。

2 画面に表示される画像と印刷結果の色味をあわせる

- **［印刷品質］**で**［ユーザー設定］**を選び、**［設定］**ボタンを押すと表示される画面で、スライダーを右端の**［1］**まで移動し、**［OK］**ボタンを押して画面を閉じます。
  次に、**［色調整］**ボタンを押して**［色調整］**画面を表示し、**［カラーマネージメント］**タブ画面を表示します。**［カラーモード］**を**［ICC プロファイルを使う］**、**［プリンタプロファイル］**を**［自動］**に設定し、**［OK］**ボタンを押して**［色調整］**画面を閉じます。

3 その他、印刷に必要な設定をして印刷する

? こんなときは

● 1 度に印刷できるのは 1000 枚の画像まで

1 度に印刷できるのは、DPP で選んだ 1000 枚までの画像です。1000 枚の画像を越えるときは、複数回に分けて印刷操作を行ってください。

● DPP で設定しても印刷には反映されない機能

設定した CMYK シミュレーション（p.93）は適用されません。

● 印刷した写真が好みの色味にならない

Easy-PhotoPrint Pro の画面で、**［色調整］**ボタンを押して**［カラーマネージメント］**タブを開き、**［マッチング方法］**を**［知覚的］**（p.144）に設定して、印刷をお試しください。

Easy-PhotoPrint Pro との連携印刷の特長

● 忠実な色味による印刷

色空間を設定（p.77、p.93）したときは、設定した色空間が自動的に DPP から Easy-PhotoPrint Pro に伝達されるため、忠実な色味で印刷することができます。

● 広域な色再現による印刷

色空間設定（p.77、p.93）を Adobe RGB など sRGB よりも広域な色空間に設定して印刷すると、sRGB の色空間に設定された画像よりも色域が広くなり、特に緑色と青色が鮮やかに再現されるようになります。

キヤノン製大判プリンターとの連携印刷

imagePROGRAF Print Plug-In for Digital Photo Professional に対応した、キヤノン製大判プリンター imagePROGRAF をお持ちの方は、DPP と連携した印刷を行うことができます。なお、連携した印刷を行うには、事前に imagePROGRAF Print Plug-In for Digital Photo Professional をパソコンにインストールしてください。

1 **メニューの［ファイル］▶［プラグイン印刷］▶ 印刷するプリンターの Plug-In を選ぶ**

➜ Plug-In が立ち上がります。

2 **写真印刷に必要な設定をして印刷する**

? こんなときは

● 1 度に印刷できるのは 1 枚の画像

1 度に印刷できるのは、DPP で選んだ 1 枚の画像です。複数枚の画像を印刷するときは、1 枚ずつ印刷操作を行ってください。

● DPP で設定しても印刷には反映されない機能

設定した出力解像度（p.89）、CMYK シミュレーション（p.93）は適用されません。

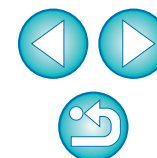
imagePROGRAF Print Plug-In との連携印刷の特長

● 忠実な色味による印刷

色空間を設定（p.77、p.93）したときは、設定した色空間が自動的に DPP から Plug-In に伝達されるため、忠実な色味で印刷することができます。

● 広域な色再現による印刷

色空間設定（p.77、p.93）を Adobe RGB など sRGB よりも広域な色空間に設定して印刷すると、imagePROGRAF の色再現領域が十分に活用されて、sRGB の色空間に設定された画像よりも色域が広くなり、特に緑色と青色が鮮やかに再現されるようになります。

はじめに
やりたいこと目次
基本操作
応用操作
高度な機能
大量の画像を扱う機能
JPEG/TIFF 画像編集
資　料
索　引

環境設定

DPP の各種機能を［環境設定］画面で変えることができます。各画面の表示内容を確認して設定してください。

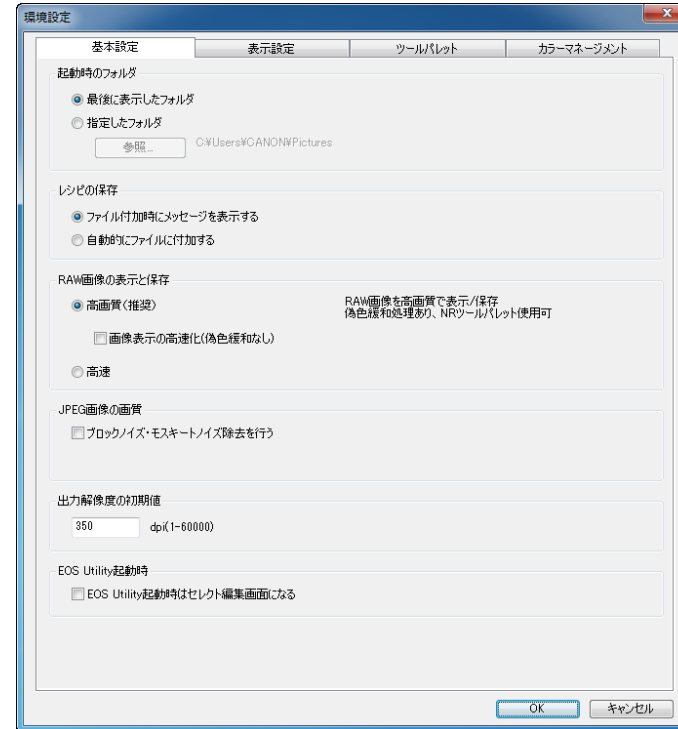
また、項目によっては詳細な説明を記載していますので、画面とあわせて参照してください。

1 メニューの［ツール］▶［環境設定］を選ぶ

→［環境設定］画面が表示されます。

2 設定するタブを選び、各項目を設定して［OK］ボタンを押す

基本設定

DPP を立ち上げたときに開くフォルダの指定、RAW 画像の表示と保存したときの画質などの設定を行うことができます。

RAW 画像の表示と保存

RAW 画像を表示／保存するときの画質を、偽色緩和処理とノイズ緩和機能（p.62）を使って高画質にするか、偽色緩和処理とノイズ緩和機能を使わずに速度を向上させるかの、2 種類から選ぶことができます。

［高画質］

- 偽色緩和処理が自動的に適用され、偽色が緩和された高画質な画像として表示／保存することができます。また、ノイズ緩和機能（p.62）を使って、輝度ノイズ、色ノイズを緩和することもできます。
- 偽色緩和処理とノイズ緩和機能の効果は、編集画面やセレクト編集画面の**［50%表示］**、**［画面に合わせる］**表示では効果が確認しづらいため、**［100%表示］**または**［200%表示］**で確認してください。
- 通常は画質と表示速度のバランスがとれた**［高画質］**にしておくことをおすすめします。

［高画質］の［画像表示の高速化（偽色緩和なし）］

- **［画像表示の高速化（偽色緩和なし）］**をチェックしたときは、編集画面、セレクト編集画面で画像を表示したときに、偽色緩和処理が適用されません。ただし、ノイズ緩和機能を使うことはできます。
- 画像の表示以外は**［高画質］**と同じになるため、画像の保存時には偽色緩和処理が適用されます。

［高速］

- 偽色緩和処理が適用されないため、編集画面やセレクト編集画面で画像を表示したときは、RAW 画像の表示速度と保存にかかる時間を、**［高画質］**よりも短くすることができます。
- ノイズ緩和機能（p.62）は使えません。
- 画像によっては、偽色やノイズが目立つ画像として表示／保存されることがあります。

ISO 感度拡張を設定して撮影した画像は、**［高速］**と**［高画質］**との画質差が著しくなります。
そのため、ISO 感度拡張を行った画像の画質の確認は、**［高画質］**に設定の上、編集画面、またはセレクト編集画面で行ってください。

JPEG 画像の画質

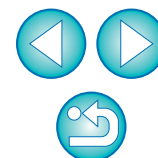
［ブロックノイズ・モスキートノイズ除去を行う］

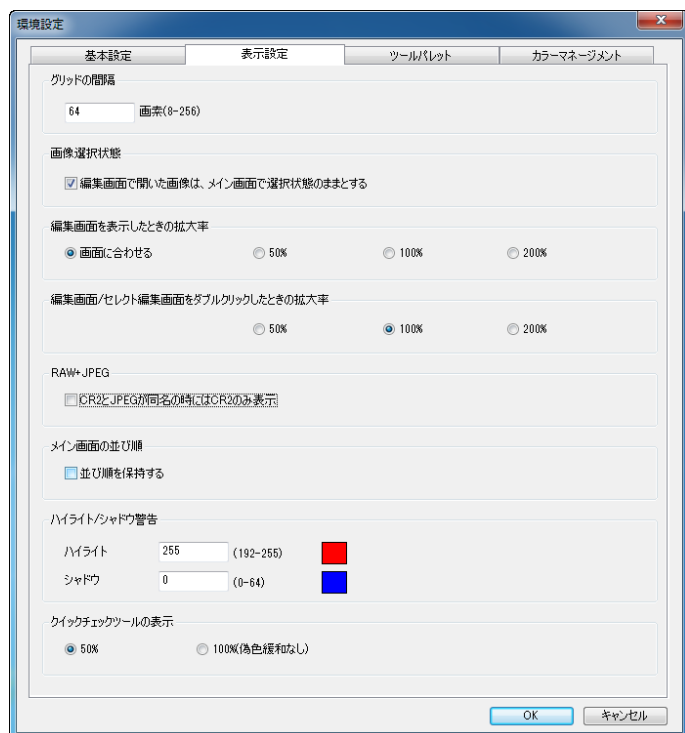
- JPEG 画像特有のノイズを緩和し、JPEG 画像の画質を向上させることができます。
  RAW 画像を JPEG 画像に変換して保存（p.42、p.99）するときや、JPEG 画像を別名で保存したときにも効果があります。

? ノイズ緩和の効果が向上する度合い

JPEG 画像の圧縮率を高くするほど向上します。圧縮率が低いときは、ノイズ緩和の効果がわかりにくいことがあります。

出力解像度の初期値

RAW 画像を JPEG 画像、TIFF 画像に変換して保存（p.42、p.99）するときの解像度を設定することができます。

表示設定

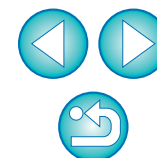
表示に関する設定を行うことができます。

●メイン画面の並び順

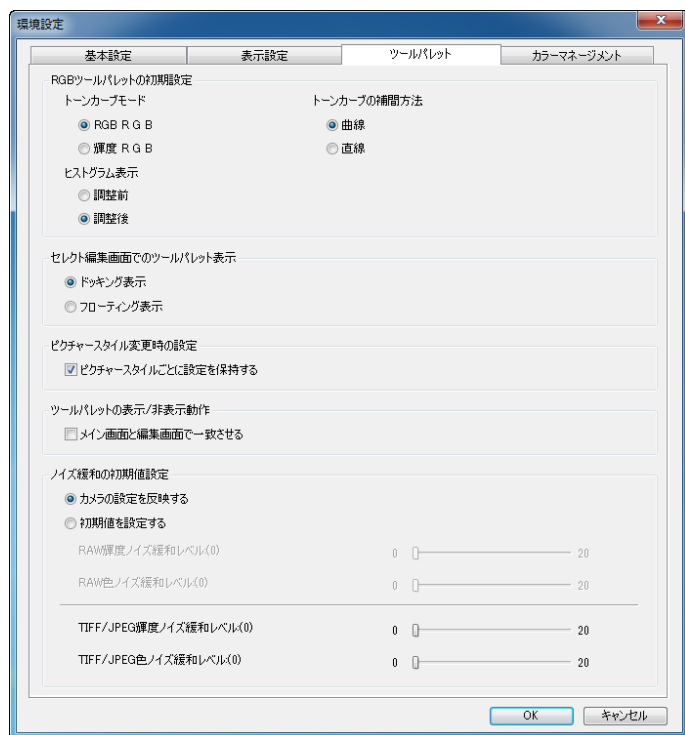
メイン画面で並べ替えた画像の並び順を、保持するか／しないかを設定することができます。（p.21）

チェックしたときは、DPP を終了したり、フォルダエリアで別のフォルダを選んでも、並べ替えた画像の並び順が保持されます。

チェックを外したときは、DPP を終了したり、フォルダエリアで別のフォルダを選ぶと、並べ替えた画像の並び順は保持されず、並べ替える前の状態に戻ります。

●ハイライト／シャドウ警告

設定範囲を超えたハイライト部／シャドウ部の領域を、警告表示として画像上に表示することができます。（p.55）

ツールパレット

ツールパレットに関する設定を行うことができます。

RGB ツールパレットの初期設定

設定を変更したときは、フォルダを開き直すと設定内容が適用されます。

? 編集した画像には反映されない

編集（ツールパレットでの調整、切り抜き（トリミング）、ゴミ消し）した画像には、変更した初期設定は反映されません。個別に変更してください。

ピクチャースタイル変更時の設定

ピクチャースタイルを変えたときに、「色あい」、「色の濃さ」、「コントラスト」、「アンシャープマスク」、「シャープネス」の値が、連動して変わるようにするか／変わらないようにするか設定することができます。

- チェックしたときは、ピクチャースタイルを変えると、「色あい」、「色の濃さ」、「コントラスト」、「シャープネス」が、連動してカメラのプリセット値に変わります。
- チェックを外したときは、ピクチャースタイルを変えても、「色あい」、「色の濃さ」、「コントラスト」、「シャープネス」の値は、連動して変わらなくなります。

ノイズ緩和の初期値設定

ノイズ緩和レベルの初期値をあらかじめ設定することができます。

RAW 画像

・［カメラの設定を反映する］を選ぶと、カメラ設定に応じたノイズ緩和レベルを、あらかじめ初期値として設定することができます。

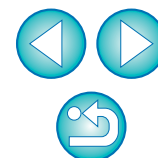
・［初期値を設定する］を選ぶと、ノイズ緩和レベルの初期値をあらかじめ任意に設定することができます。

JPEG ／ TIFF 画像

・ノイズ緩和レベルの初期値をあらかじめ任意に設定することができます。

レシピが付加されていない画像については、ここで設定されたノイズ緩和レベルの初期値が適用されます。ただし、現在開いているフォルダの画像に設定を適用させたいときは、ここで設定したあとフォルダを開き直す必要があります。また、レシピが付加された画像については、レシピに記録されたノイズレベルのままとなり、ここで設定したノイズ緩和レベルの初期値は適用されません。

ノイズ緩和レベルの初期値を任意設定するメリット

高 ISO 感度で撮影した画像など、複数の画像に同レベルのノイズが発生しているときは、適正なノイズ緩和レベルを初期値に設定することで、DPP に表示されるすべての画像（レシピ付加画像除く）にノイズ緩和の初期値が一括して適用されるため、個々の画像に対してノイズ緩和の操作を行う必要がなくなります。また、いつも同じ条件で撮影するので、撮影画像はすべて同じノイズ緩和レベルの設定にしたいというときにも便利です。

カラーマネージメント

作業用色空間の設定やカラーマッチングの条件など、カラーマネージメントに関する設定を行うことができます。

●作業用色空間の初期設定

RAW 画像に初期設定として適用する色空間（p.144）を 5 種類の中から選ぶことができます。設定した色空間は、RAW 画像を変換して保存（p.42、p.99）するときや印刷（p.43、p.46、p.49、p.85 ～ p.88）するときの色空間として適用されます。

- 設定を変更したときは、DPP を再起動すると、初期設定の色空間として画像に適用されます。
- 画像に設定されている色空間は、メイン画面（p.124、p.125）、編集画面（p.127）、セレクト編集画面（p.133）で確認することができます。

? 編集した画像には反映されない

編集（ツールパレットでの調整、切り抜き（トリミング）、ゴミ消し）した画像には、変更した初期設定は反映されません。個別に変更してください。

初期設定とは別の色空間を、画像ごとに設定することができます。（p.77）

●表示用の設定（モニターの色味設定）

使用するディスプレイ（モニター）にプロファイル（p.143）が付いているときは、プロファイルを設定することで、より忠実な色味で画像を表示することができます。

- ［OS の設定に従う］を選ぶと、Windows で設定したカラープロファイルを DPP にも適用します。
  なお、マルチモニターでは、プライマリーモニターのプロファイルのみが DPP に適用されます。
- ［モニタプロファイル］を選び、［参照］ボタンを押すと表示される画面で、モニターのプロファイルを選びます。

市販の測色機で高精度な色合わせを行う

市販のモニター測色機を使って作成したプロファイルを使うと、より高精度な色味で画像を表示することができます。

はじめに
やりたいこと目次
1 基本操作
2 応用操作
3 高度な機能
4 大量の画像を扱う機能
5 JPEG/TIFF 画像編集
資　料
索　引

●印刷用プロファイルの設定（プリンターの色味設定）

印刷するプリンターにプロファイル（p.143）が付いているときは、プロファイルを設定することで、画面表示の色味に近づけて画像を印刷することができます。設定したプロファイルは、キヤノン製インクジェットプリンターを使用した印刷（p.43、p.46）、連携印刷（p.87、p.88）を除くすべての印刷（p.49、p.85、p.86）で適用されます。

? プリンタードライバの調整機能は使わない

プリンターのプロファイルを設定しても、プリンタードライバの色を調整する機能を使うと、画面上の画像の色味と、印刷した写真の色味が近づかなくなることがあります。

EPP EX、EPP、連携印刷時は自動設定

キヤノン製インクジェットプリンターを使用した印刷（p.43、p.46）や、連携印刷（p.87、p.88）では、**［印刷用プロファイル］**の設定を行わなくても、プロファイル設定が自動的に行われるため、簡単に忠実な色味で印刷することができます。

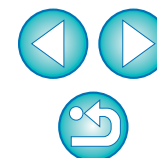
●CMYK シミュレーション用プロファイルの設定

印刷機などの CMYK 環境で印刷したときの色味を 4 種類のプロファイル（p.144）から選び、画面上でシミュレーションすることができます。

- CMYK シミュレーションを設定したときは、メイン画面、編集画面、セレクト編集画面の各画面の下に［CMYK］が表示（p.124、p.125、p.127、p.133）されて、色味を確認することができます。
- CMYK シミュレーションを一時的に解除するときは、〈Ctrl〉＋〈Y〉キーを押します。

●Easy-PhotoPrint で印刷する時のマッチング方法

Easy-PhotoPrint を使用して印刷（p.46）するときのマッチング方法（p.144）を設定することができます。

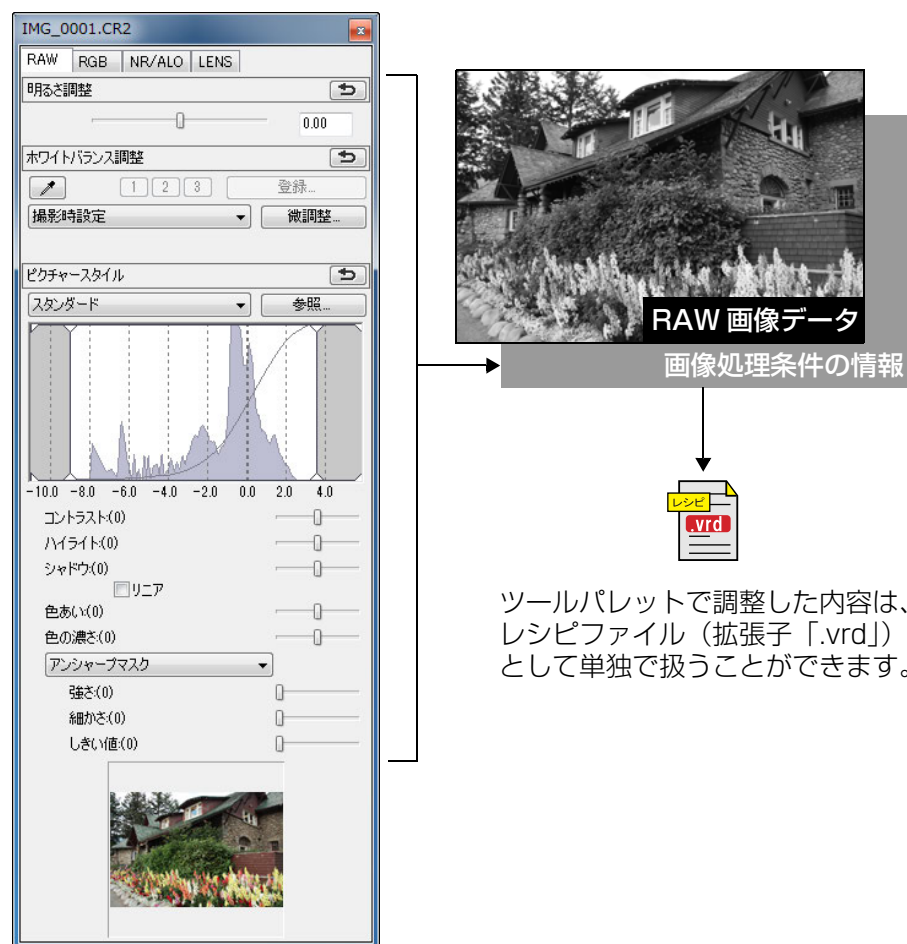
- 通常は**［相対的な色域を維持］**に設定しておきます。
- **［相対的な色域を維持］**で印刷した写真が好みの色味にならないときは、**［知覚的］**に設定します。

4 大量の RAW 画像処理に役立つ機能

大量に RAW 画像を撮影される方を前提に、大量の RAW 画像を一括処理する便利な機能について説明します。

調整した内容（レシピ）を活用する

ツールパレットで調整したすべての調整内容（レシピ）は、画像とは別のレシピファイル（拡張子「.vrd」）として保存し、読み込んで別の画像に適用することができます。

同一環境で撮影した画像の中から 1 枚の画像を選んで調整し、この調整結果を大量の画像に一括適用することで、効率的な画像編集を行うことができます。

ツールパレットで調整した内容は、レシピファイル（拡張子「.vrd」）として単独で扱うことができます。

RAW 画像と同様に、JPEG 画像、または TIFF 画像に行った調整内容（p.103）も、レシピファイル（拡張子「.vrd」）として活用することができます。

こんなときは

● レシピに含まれるのはツールパレットの内容

レシピに含まれるのは、ツールパレット（**[RAW]**、**[RGB]**、**[NR/ALO]**、**[LENS]**）で調整した内容です。そのため、切り抜き（トリミング）やゴミ消し（コピースタンプ）など、ツールパレット以外の編集内容はレシピに含まれません。

● [RAW] ツールパレットで調整したレシピは RAW 画像にのみ適用

RAW 画像でしか調整できない **[RAW]** ツールパレットの調整内容を JPEG 画像や TIFF 画像に貼り付けても反映されません。

レシピをファイルとして保存する

1 **編集した画像を選び、メニューの［編集］▶［レシピをファイルに保存］を選ぶ**

➜［名前を付けて保存］画面が表示されます。

2 **保存先を選び、ファイル名を入力して［保存］ボタンを押す**

? レシピファイルの内容は、画像に貼り付けて確認する

レシピファイルの内容がわからないときは、画像に貼り付けてツールパレットで確認します。また、調整内容が少ないときは、内容がわかるようなファイル名や調整内容をテキスト情報として別途記録しておくことをおすすめします。

レシピを読み込んで貼り付ける

1 **レシピを適用する画像を選び、メニューの［編集］▶［レシピをファイルから読み込んで貼り付け］を選ぶ**

➜［ファイルを開く］画面が表示されます。

2 **レシピを選んで［開く］ボタンを押す**

➜ レシピが画像に適用されます。

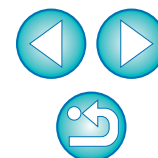
レシピをコピーして別の画像に適用する

編集した画像のレシピをコピーして、別の画像に適用することができます。

1 **レシピをコピーする画像を選び、メニューの［編集］▶［レシピをクリップボードにコピー］を選ぶ**

➜ レシピがコピーされます。

2 **レシピを適用する画像を選び、メニューの［編集］▶［レシピを選択画像に貼り付け］を選ぶ**

➜ レシピが画像に適用されます。

一括してホワイトバランスを適用する（カスタムホワイトバランス）

特定環境で撮影した RAW 画像のホワイトバランス調整結果を、カスタムホワイトバランスとして登録することができます。このカスタムホワイトバランスを、同一の特定環境で撮影した大量の RAW 画像に適用すれば、効率的なホワイトバランス調整を行うことができます。

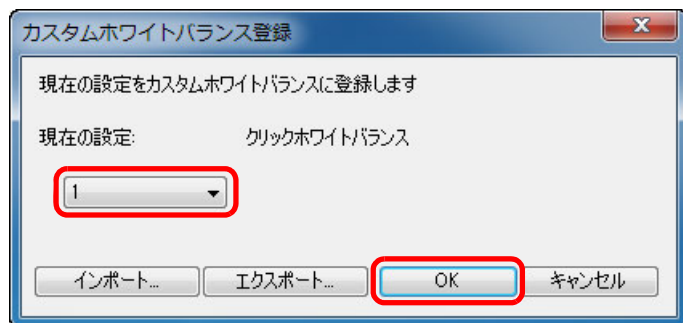
登録する

1 ホワイトバランスを調整する （p.27、p.28、p.56）

- ホワイトバランスを調整するときは、**［ホワイトバランス調整］**リストボックス（p.27）で**［撮影時設定］**以外を選んでください。**［撮影時設定］**を選ぶと、登録ができなくなります。

2 ［RAW］ツールパレットの［登録］ボタンを押す

➜ **［カスタムホワイトバランス登録］**画面が表示されます。

3 リストから登録するボタン番号を選び、［OK］ボタンを押す

? 登録したカスタムホワイトバランスを別のパソコンで使うには

1 手順３で**［エクスポート］**ボタンを押し、ファイルとして書き出す
2 ファイルを別のパソコンにコピーする
3 別のパソコン上の DPP で、手順３の画面を表示する
4 **［インポート］**ボタンを押し、表示される画面でコピーしたファイルを選ぶ

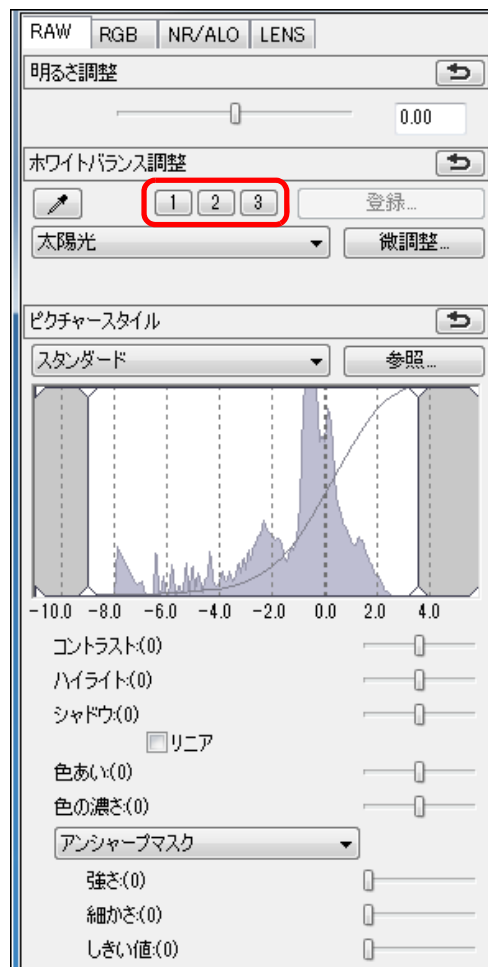
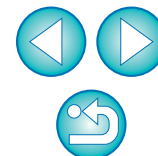
カメラ本体で生成した多重露出 RAW 画像では、ホワイトバランスを変更、調整することはできません。

適用する

1 メイン画面で適用する画像を選ぶ

2 ツールバーの［ツールパレット］ボタンを押す

➜ ツールパレットが表示されます。

3 適用するカスタムホワイトバランスの番号ボタンを押す

➜ 選んだすべての画像にカスタムホワイトバランスが適用されます。

一括して JPEG 画像、TIFF 画像で保存する（バッチ処理）

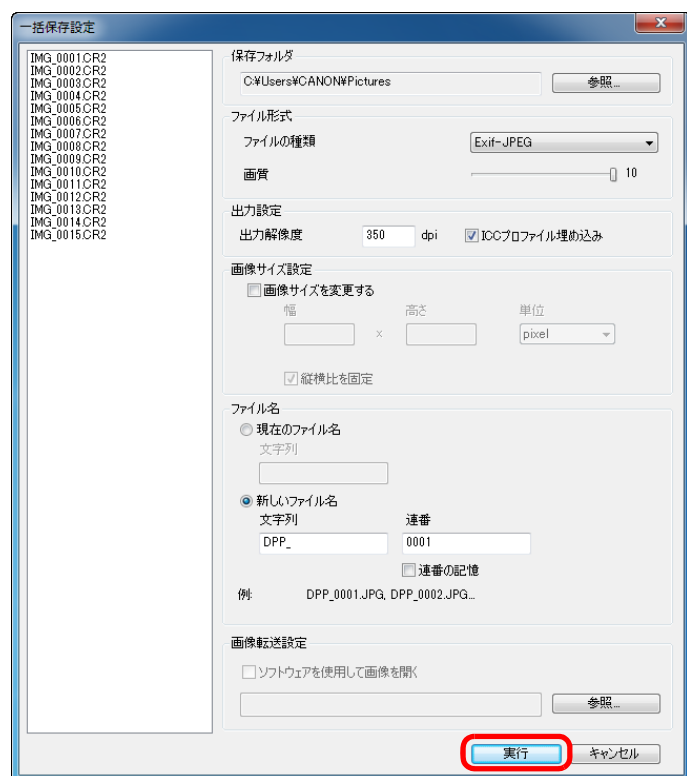
編集した RAW 画像を、汎用性の高い JPEG 画像や TIFF 画像に一括変換して保存することができます。

別画像として保存するため、RAW 画像はそのまま残ります。

1 変換する複数の画像をメイン画面で選ぶ

2 ツールバーの［一括保存］ボタンを押す （p.124）

➜［一括保存設定］画面が表示されます。

3 必要な設定を行い［実行］ボタンを押す

➜ 処理画面が表示され、保存が開始されます。

➜ すべての画像が保存されると、処理画面に［終了］ボタンが表示されます。

4 処理画面の［終了］ボタンを押す

? レシピを付けて保存はできない

［一括保存設定］画面では、編集した RAW 画像を［上書き保存］や［別名で保存］（p.41、p.119）することはできません。

現在使用しているバージョンの現像／編集結果を保存するには

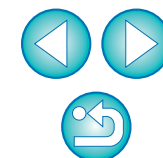
DPP の RAW 画像現像処理技術は、より適切な最新の画像現像処理を行うことができるよう、改良・改善が続けられています。
そのため、バージョンが異なる DPP 間では、同じ RAW 画像データであっても、現像結果が微妙に異なったり、大幅に編集を行ったレシピ付 RAW 画像データの編集効果が異なることがあります。
現在使用しているバージョンの現像／編集結果を、そのまま保存したいときは、JPEG 画像、TIFF 画像に変換して保存することをおすすめします。

上手な一括保存方法

- **保存しているときは、別の画面が操作できる**
  保存機能は単独で動作するため、保存中はメイン画面や編集画面など、他の画面での操作を並行して行うことができます。
- **すべての画像を変換して保存するときは、メイン画面で画像を選ばない**
  手順 1 の操作を行わず、メイン画面で 1 枚の画像も選んでいない状態で手順 2 の操作を行うと、メイン画面に表示されたすべての画像を変換して保存する対象にすることができます。

! ［メモリ不足です］というメッセージが表示されたときは、選んだ画像の枚数が多すぎます。画像数を減らしてください。

- ［ファイル名］で［新しいファイル名］を選んだときは、［連番］を設定します。
- 切り抜いた画像 （p.38、p.111）、ゴミ消しした画像 （p.73 ～ p.77、p.114 ～ p.118）を本ページの操作で保存すると、実際に切り抜かれた画像、ゴミ消しした画像になります。
- この画面の機能一覧は、p.141 を参照してください。

はじめに
やりたいこと目次
1 基本操作
2 応用操作
3 高度な機能
4 大量の画像を扱う機能
5 JPEG/TIFF 画像編集
資　料
索　引

一括して別の画像編集用ソフトウェアに転送する

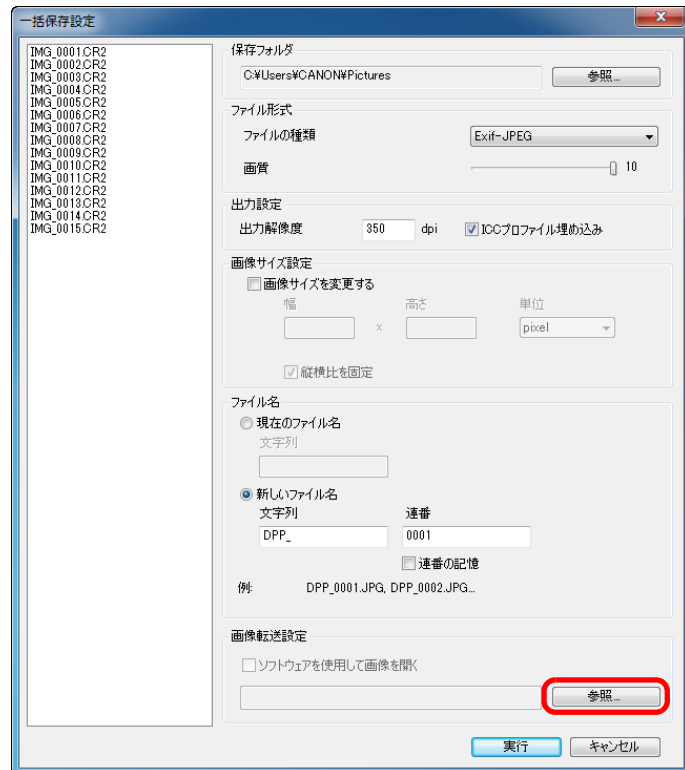
複数の画像を画像編集用ソフトウェアに転送することができます。「Photoshop に RAW 画像を転送する」（p.77）と異なり、別画像として変換保存した上で転送するため、転送先のソフトウェアを終了しても、転送した画像は消えません。ここでは、Adobe Photoshop CS を例にしています。

1 転送する複数の画像をメイン画面で選ぶ

2 ツールバーの［一括保存］ボタンを押す （p.124）

➜［一括保存設定］画面が表示されます。

3 ファイル形式など転送に必要な設定を行う

4 ［参照］ボタンを押す

➜［ファイルを開く］画面が表示されます。

5 Photoshop CS を選ぶ

● ［開く］画面で Photoshop CS の実行ファイル、またはショートカットを選び、［開く］ボタンを押します。

➜［開く］画面が終了し、［一括保存設定］画面の［画像転送設定］に Photoshop CS が設定されます。

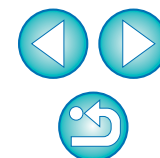
6 ［ソフトウェアを使用して画像を開く］をチェックする

7 ［実行］ボタンを押す

➜ 処理画面が表示され、一括転送が開始されます。

➜ 1 枚目の画像が転送されると Photoshop CS が立ち上がり、転送した順に画像が表示されます。

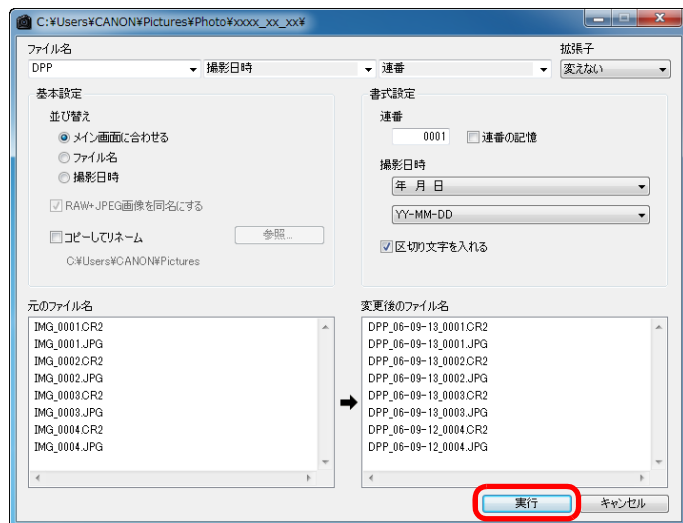
［メモリ不足です］というメッセージが表示されたときは、選んだ画像の枚数が多すぎます。画像数を減らしてください。

はじめに
やりたいこと目次
1 基本操作
2 応用操作
3 高度な機能
4 大量の画像を扱う機能
5 JPEG/TIFF 画像編集
資　料
索　引

一括して画像のファイル名を変える

1 メイン画面でファイル名を変更する複数の画像を選ぶ

2 メニューの［ツール］▶［リネームツールを起動］を選ぶ

➜ リネーム画面が表示されます。

3 必要な設定を行い (p.142)［実行］ボタンを押す

➜ 処理が開始され、ファイル名が変更されます。

? **ファイル名が重複するときは変更できない**

［変更後のファイル名］に赤字のファイル名が表示されたときは、ファイル名が重複しています。1 つでもファイル名が重複していると変更はできません。重複しないよう、各種の設定を変えてください。

DPP 上で、動画ファイルのファイル名を変更することはできません。

- ［コレクション］画面 (p.36、p.125) では、リネームツールを起動させることはできません。
- リネーム画面の機能一覧は、p.142 を参照してください。

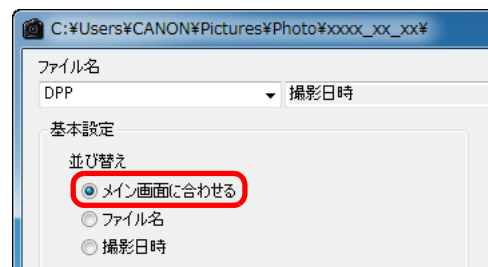
メイン画面の並び順で画像のファイル名を変える

メイン画面の画像の並び順を変えたときは、並べ替えた順序で、画像のファイル名を一括して変えることができます。

1 メイン画面の画像を並べ替える (p.21)

2 メイン画面でファイル名を変更する複数の画像を選ぶ

3 メニューの［ツール］▶［リネームツールを起動］を選ぶ

4 ［メイン画面に合わせる］を選ぶ

5 必要な設定を行う (p.142)

- 画像をコピーするときは、［コピーしてリネーム］をチェックします。

6 ［実行］ボタンを押す

➜ メイン画面の並び順を保持したまま、ファイル名が変更されます。

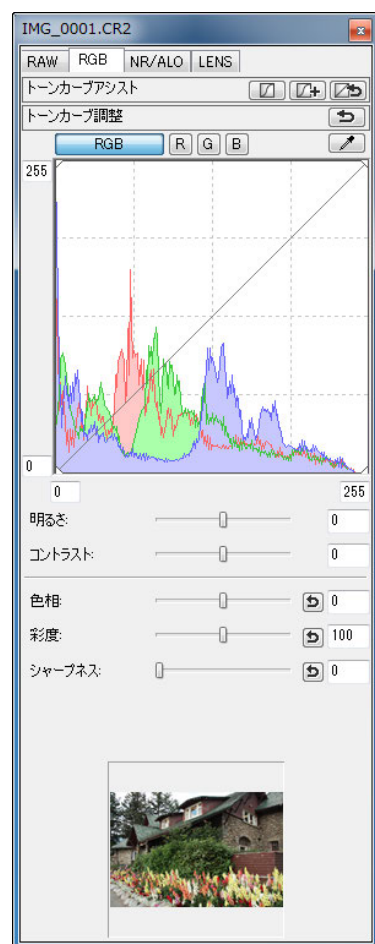
［メモリ不足です］というメッセージが表示されたときは、選んだ画像の枚数が多すぎます。画像数を減らしてください。

5 JPEG 画像、TIFF 画像を編集する

DPP は、高度な RAW 画像編集を主目的に開発されたソフトウェアですが、JPEG 画像や TIFF 画像の編集機能も備えています。ここからは、主に JPEG 画像と TIFF 画像の編集と保存についてまとめて説明します。

JPEG 画像、TIFF 画像を編集する

DPP では、JPEG 画像や TIFF 画像も、RAW 画像と同じように［RGB］、［NR/ALO］ツールパレットで調整することができます。

ツールパレットで調整した内容（レシピ）は、画像処理条件を変えているだけなので、「オリジナル画像データそのもの」はまったく変わりません。そのため、編集にともなう画像劣化を一切気にすることなく、何度でも調整をやり直すことができます。

ツールパレットで調整した内容は、レシピファイル（拡張子「.vrd」）として単独で扱うことができます。（p.96、p.119）

また、ツールパレットで調整したすべての内容（画像処理条件の情報）は、DPP では、「レシピ」というデータとして画像に保存したり（p.119）、画像とは別のレシピファイル（拡張子「.vrd」）として保存し、読み込んで別の画像に適用することができます。（p.96、p.119）

RGB ツールパレットについて

［RGB］ツールパレットの機能は、一般的な画像編集用ソフトウェアと同じような機能で JPEG 画像、TIFF 画像を調整することができます。

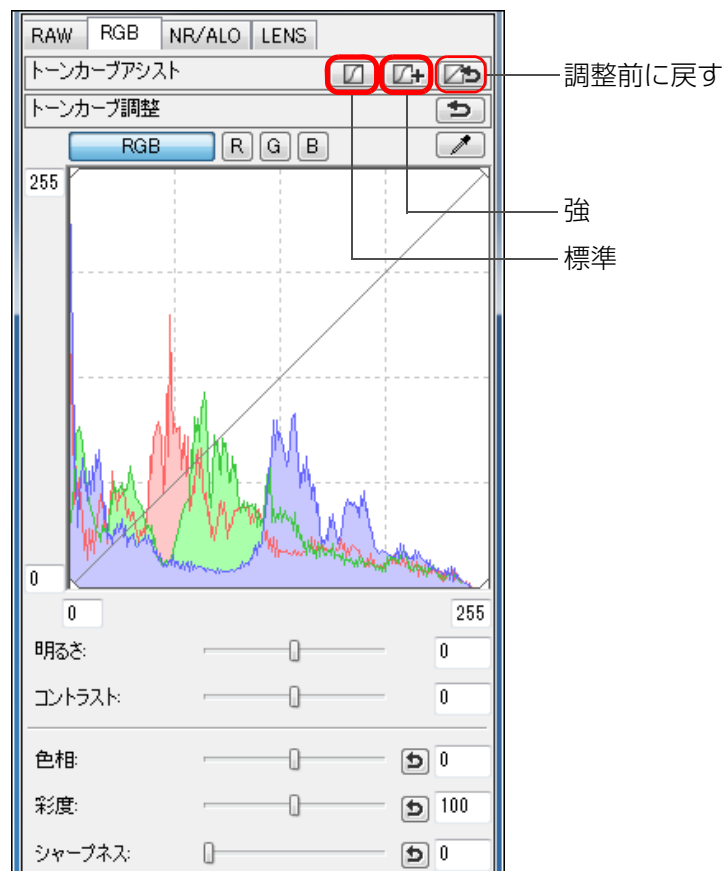
ただし、［RGB］ツールパレットの調整機能は調整幅が広いため、過度に調整すると、画像の色が飽和したり、画質が低下することがあります。調整のしすぎには注意してください。

なお、RAW 画像も、［RGB］ツールパレットの機能で調整することができます。ただし、トーンカーブ調整（p.108）と自動調整（p.104）以外の機能は、［RAW］ツールパレットにある同様の機能を使って調整することをおすすめします。

明るさと色を自動的に調整する（トーンカーブアシスト）

好ましいと感じる標準的な画像になるよう、画像のトーンカーブ（p.143）を自動調整します。自動調整の度合いは、「標準」と「強」から選ぶことができます。

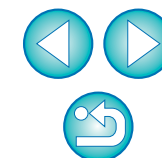
目的の自動調整ボタンを押す

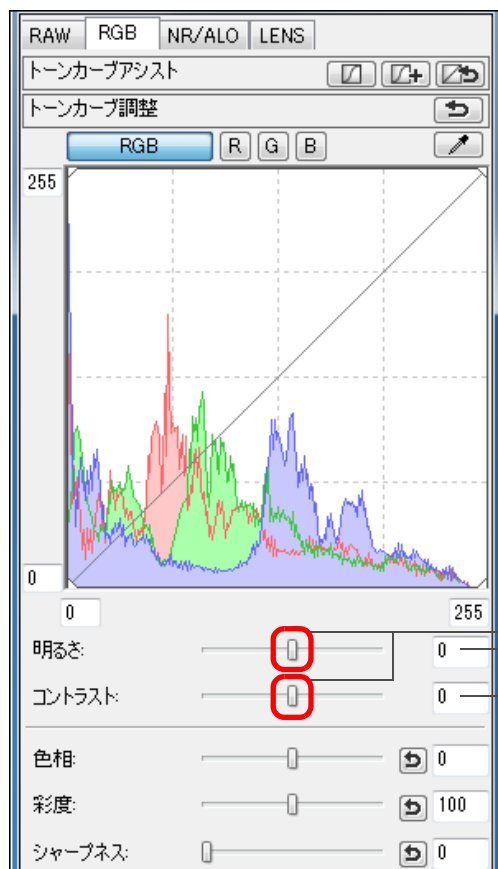
- **標準：** 標準の自動調整です。ほとんどの画像に対応できます。
- **強：** 標準の自動調整では効果が弱いときに使用します。

➜ 調整すると、トーンカーブが変わります。

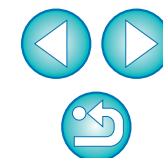
自動調整（トーンカーブアシスト）の苦手な画像

自動調整（トーンカーブアシスト）は、以下の画像では期待した調整結果にならないことがあります。

- 適正な露出で撮影された画像
- 明るさが偏っている画像
- 暗すぎる画像
- 極端な逆光画像

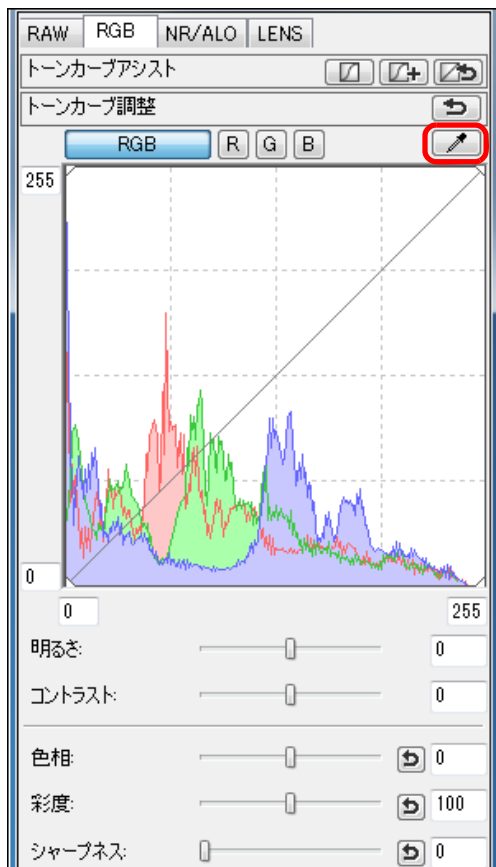
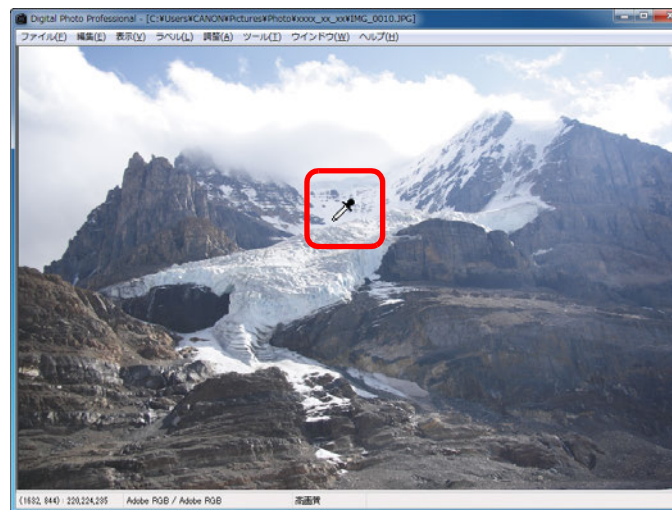
[ ] ボタンを押すと、トーンカーブの他に、**［色相］**、**［彩度］**が初期値に戻ります。個別に**［色相］**、**［彩度］**を調整（p.107）したときは注意してください。

明るさ、コントラスト（明暗差）を調整する

画像の明るさとコントラスト（明暗差）を調整することができます。

●**明るさ：** スライダーを右に動かすと画像が明るくなり、左に動かすと暗くなります。

●**コントラスト：**色のメリハリや明暗差の強弱（コントラスト）を調整するときに使います。スライダーを右に動かすとコントラストが強くなり、左に動かすと弱くなります。

調整範囲は、－ 100 ～＋ 100（数値入力では 1 単位）です。

クリックホワイトバランスで色あいを調整する

選んだ箇所を白の基準としてホワイトバランスを調整し、自然な色あいにすることができます。光源の影響で、白の色あいが変わっている部分にクリックホワイトバランスを行うと効果的です。

1 [ ] ボタンを押す

2 白の基準とする箇所をクリックする

カーソルの座標位置と RGB 値（8bit 換算）

➜ 選んだ箇所を白の基準として画像の色が調整されます。

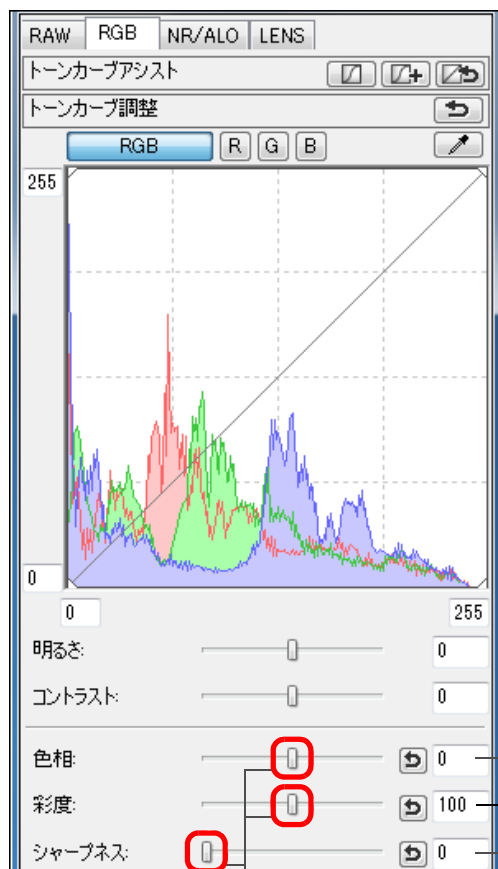
- 続けて別の箇所をクリックすると、再度、調整されます。
- 終了するときは、マウスの右ボタンをクリックするか、[ ] ボタンを再度押します。

? 画像に白い箇所がないときは

画像上に白い箇所がないときは、画像上の灰色の箇所を手順 2 の操作でクリックしても、白い部分を選んだときと同じように、ホワイトバランスを調整することができます。

- クリックした箇所から 5 × 5 ピクセルの値を基準に画像が調整されます。
- ヒストグラム表示は、調整に応じて変化しますが、調整前のヒストグラム表示に固定することもできます。（p.92）

色相、彩度、シャープネス（鮮鋭度）を調整する

色相（色あい）や彩度（色の濃さ）を調整したり、画像全体の雰囲気を硬い（シャープな）または、柔らかい（ねむい）感じにすることができます。

- 色相：　スライダーを右に動かすと色が黄色めになり、左に動かすと色が赤色めになります。
- 彩度：　スライダーを右に動かすと色が濃くなり、左に動かすと色が薄くなります。
- シャープネス：スライダーを右に動かすと硬い（シャープな）感じになり、左に動かすと柔らかい（ねむい）感じになります。

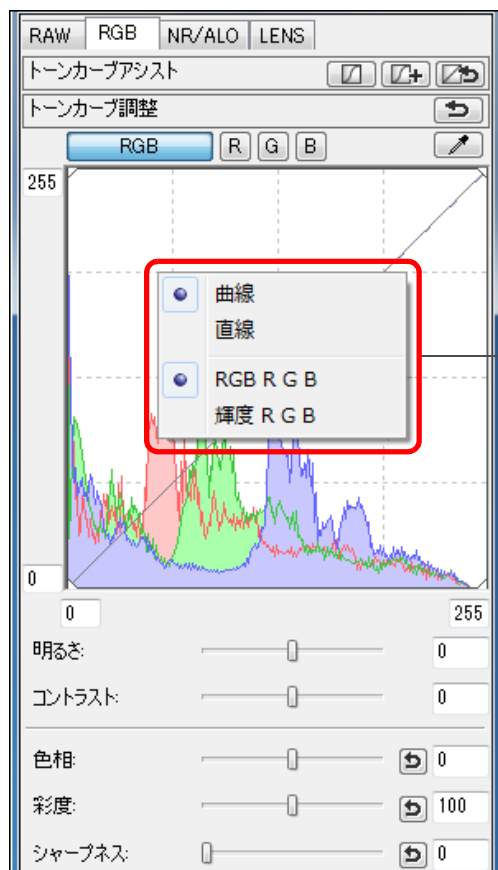
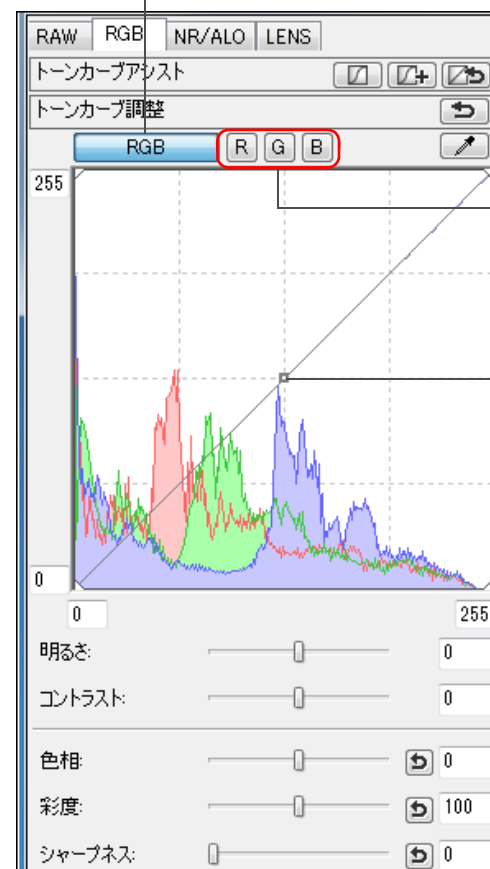
シャープネスが不自然にかかる

シャープネスを調整するときは、画面の拡大率を［100%］、［50%］、［200%］のいずれかの表示で調整してください。画面の拡大率が **［画面に合わせる］** 表示（全体表示）では、シャープネスの効果が不自然に表示されることがあります。

調整範囲は色相が－ 30 ～ 30、彩度が 0 ～ 200、シャープネスが 0 ～ 500 です。（数値入力では 1 単位）

トーンカーブ調整

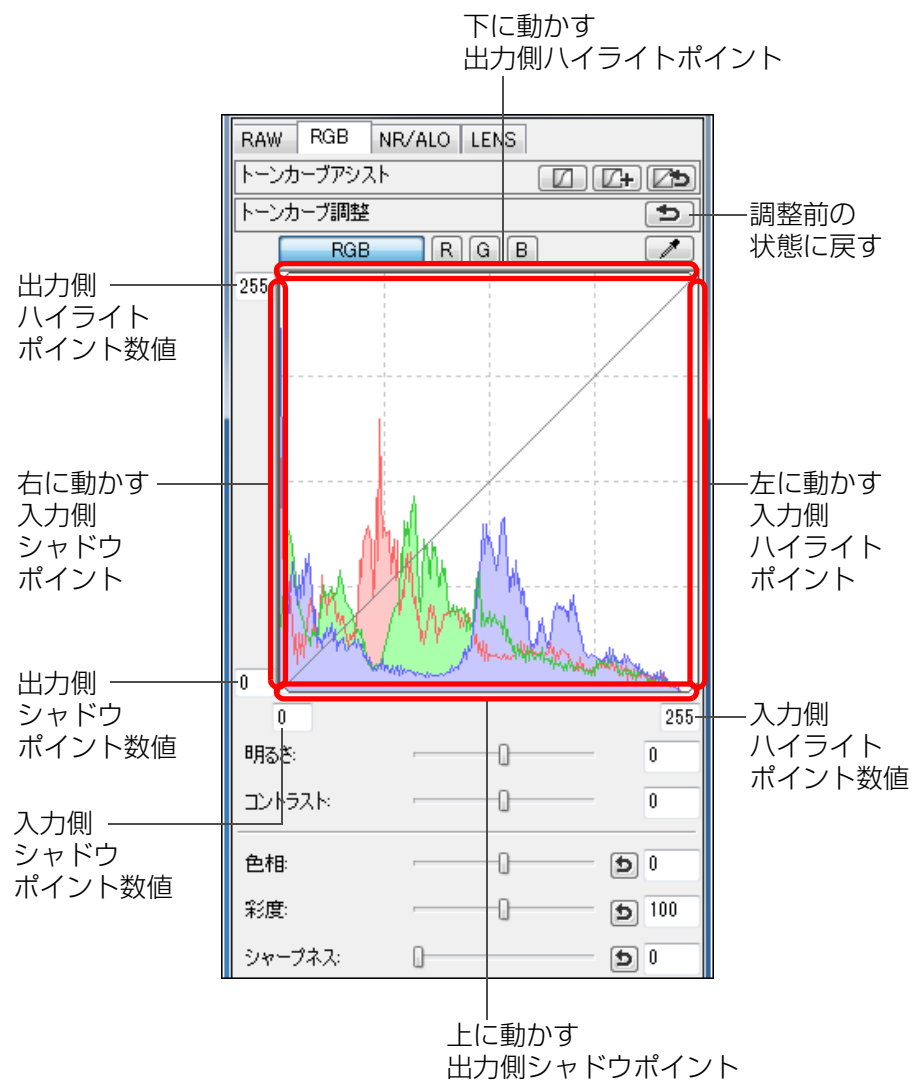
トーンカーブ（p.143）を変えることで、特定領域の明るさ、コントラスト、色を調整することができます。

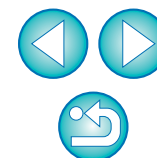
1 トーンカーブの種類と結び方を選ぶ

2 調整する

- 横軸は入力レベル、縦軸は出力レベルを示しています。
- ［□］の数は最大 8 個です。
- ［□］を消すときは〈Del〉キーを押すか、ダブルクリックします。

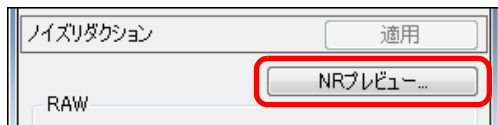
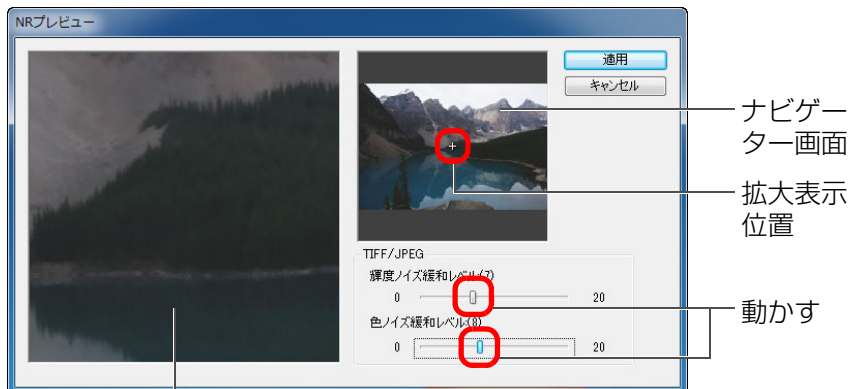
- ヒストグラム表示は調整に応じて変わりますが、調整前のヒストグラム表示に固定することもできます。（p.92）
- トーンカーブの種類、トーンカーブの結びかたは、**［環境設定］**で変えることもできます。（p.92）

ダイナミックレンジ（階調表現幅）を調整する

暗部から明部にかけてのダイナミックレンジ（階調表現幅）を調整することができます。

- 横軸は入力レベル、縦軸は出力レベルを示しています。

- シャドウポイントの設定範囲は、0 ～ 247（数値入力では 1 単位）です。
- ハイライトポイントの設定範囲は、8 ～ 255（数値入力では 1 単位）です。
- ヒストグラム表示は、調整に応じて変化しますが、調整前のヒストグラム表示に固定することもできます。（p.92）

ノイズを緩和する

夜景や高 ISO 感度で撮影した JPEG 画像、TIFF 画像に発生する、ノイズを緩和することができます。

1 編集画面または、セレクト編集画面のツールパレットで［NR/ALO］タブを選ぶ

2 ［NR プレビュー］ボタンを押す

➜［NR プレビュー］画面が表示されます。

3 調整する

- ノイズ緩和レベルを 0 〜 20 の設定範囲から選ぶことができます。数字が大きいほど、ノイズ緩和効果が大きくなります。
- ノイズ緩和レベルの効果は、画像が 100%表示された NR 確認画面で確認することができます。
- ナビゲーター画面で拡大表示位置をドラッグすると、NR 確認画面の表示位置を変えることができます。

4 ［適用］ボタンを押す

➜ 画像にノイズ緩和が適用されて、画像が再表示されます。

複数枚の画像に同じノイズ緩和レベルを設定するときは

メイン画面で複数枚の画像を選んだあと、［NR プレビュー］画面を表示せずに、［NR/ALO］ツールパレット（p.129）で、［輝度ノイズ緩和レベル］スライダー、［色ノイズ緩和レベル］スライダーを操作してノイズ緩和レベルを調整し、［適用］ボタンを押すと、複数枚の画像に同じノイズ緩和レベルを設定することができます。

- ［輝度ノイズ緩和レベル］を設定したときは、ノイズの緩和にともなって、解像度が低下することがあります。
- ［色ノイズ緩和レベル］を設定したときは、ノイズの緩和にともなって、色にじみがおきることがあります。
- ［環境設定］の［ツールパレット］タブ画面（p.92）の［ノイズ緩和の初期値設定］で、あらかじめ、ノイズ緩和の一括処理設定ができます。高 ISO 感度画像のノイズ緩和一括処理など、フォルダ内の全画像に一律にノイズ緩和を行いたいときに便利です。ただし、レシピが付加された画像については、レシピに記録されたノイズレベルが適用されます。
- ［NR プレビュー］画面の機能一覧は、p.131 を参照してください。

画像の角度調整と切り抜き（トリミング）

　必要な部分だけを切り抜いたり、横位置撮影の画像を縦位置撮影したように構図変更することができます。また、画像の切り抜きに先立って角度調整も行うことができます。なお、［比率］で［円形］を選択したときは、指定した範囲の外側を黒く塗りつぶすだけで、画像の切り抜きは行いません。

1 切り抜く画像を選ぶ

2 トリミング / 角度調整画面を表示する

● ［トリミング角度］ボタンを押します。

→ トリミング / 角度調整画面が表示されます。

→ トリミング / 角度調整画面が鮮明な表示になったら、編集が可能になります。

3 必要に応じて画像の角度調整を行う

トリミング / 角度調整画面

切り抜き可能な最大範囲

押す（左右 90 度単位で画像を回転）

動かす＊（0.01 度単位。調整可能範囲は－ 45 度～＋ 45 度）

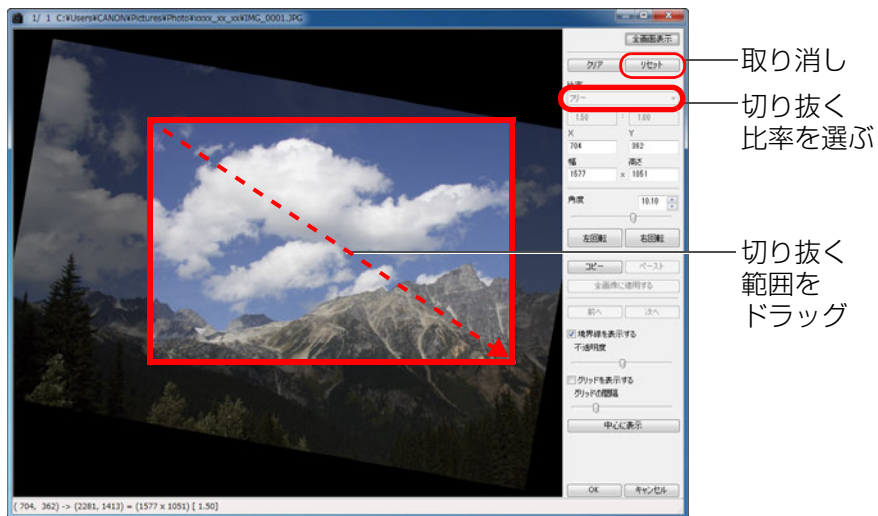
マウス操作（［▲］／［▼］を押す）で角度調整、または調整角度を直接入力＊（0.01 度単位。調整可能範囲は－ 45 度～＋ 45 度）

＊ 画像サイズが 9999 × 6666 画素を超える画像の角度調整を行うことはできません。

● ［中心に表示する］を押すと、切り抜く範囲を画面の中心に表示することができます。

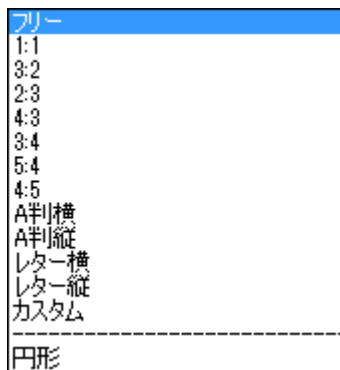
● 画像の角度調整のみを行った状態で［OK］ボタンを押すと、切り抜き可能な最大範囲で切り抜きが行われます。

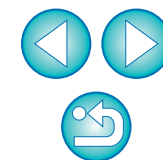
EOS-1D X、EOS-1D Mark IV、EOS-1Ds Mark III、EOS-1D Mark III、EOS 5D Mark III、EOS 7D、EOS 60D、EOS Kiss X6i、EOS Kiss X5 で撮影した画像に、アスペクト比情報が付いているときは、アスペクト比情報に基づいた切り抜き範囲が表示されます。

4 比率を選んで切り抜く範囲をドラッグする

- 切り抜き範囲は、ドラッグして移動することができます。
- 切り抜き範囲の四隅をドラッグすると、拡大／縮小することができます。（**［円形］**選択時はできません）
- 比率（横：縦）の一覧

［フリー］：　比率に関係なく自由に切り抜くことができます。
［カスタム］：指定した比率で切り抜くことができます。
［円形］：　指定した範囲の外側を黒く塗りつぶします。
画像の切り抜きは行いません。

5 ［OK］ボタンを押してメイン画面に戻る

→ 切り抜いた画像には、切り抜き範囲を示す枠線が表示されます。（p.126）

→ 切り抜いた画像を編集画面やセレクト編集画面に表示したときは、切り抜いた状態で表示されます。

はじめに
やりたいこと目次
1 基本操作
2 応用操作
3 高度な機能
4 大量の画像を扱う機能
資　料
索　引

切り抜いた画像について

●切り抜いた範囲はいつでも元に戻せる

切り抜いた画像は、切り抜かれた画像として表示され、印刷することもできます。ただし、実際に画像を切り抜いてはいないため、トリミング / 角度調整画面で［リセット］ボタンを押すか、「編集をやり直す」（p.120）の操作を行うと、いつでも元の状態に戻すことができます。

●切り抜いた画像の各画面での表示

・メイン画面：　画像に切り抜き範囲を示す枠線が表示されます。（p.126）
・編集画面：　切り抜いた状態の画像が表示されます。
・セレクト編集画面：　サムネイル画像はメイン画面の表示と同じで、拡大画像は編集画面と同じです。

●切り抜いた画像の印刷

切り抜いた画像を DPP で印刷すると、切り抜かれた画像として印刷されます。

●別画像として保存すると切り抜かれた画像になる

切り抜いた JPEG 画像または TIFF 画像を別画像として保存（p.119）すると、実際に切り抜かれた画像になります。

●アスペクト比を設定した画像は切り抜いた画像として表示される

EOS-1D X、EOS-1D Mark IV、EOS-1Ds Mark III、EOS-1D Mark III、EOS 5D Mark III、EOS 7D、EOS 60D、EOS Kiss X6i、EOS Kiss X5 で撮影した RAW 画像に、アスペクト比情報が付いているときは、アスペクト比情報に基づいた切り抜き範囲が設定された状態で表示されます。
また、画像は実際に切り抜かれていないため、切り抜き範囲を変えたり、切り抜く前の状態に戻すこともできます。
ただし、EOS 5D Mark III、EOS 60D、EOS Kiss X6i、EOS Kiss X5 で ［4：3］、［16：9］、［1：1］のアスペクト比を設定して撮影した JPEG 画像は、それぞれのアスペクト比に実際に切り抜かれているため、切り抜き範囲を変えたり、切り抜く前の状態に戻すことはできません。*
なお、撮影時のアスペクト比情報に基づいた切り抜き範囲に戻す（撮影時の状態に戻す）ときは、［リセット］ボタンを押します。また、すべての切り抜き範囲を取り消すときは、［クリア］ボタンを押します。（p.135）

* EOS 5D Mark III で、カスタム機能の［トリミング情報の付加］を設定して撮影した JPEG 画像については、アスペクト比情報が設定されるだけで、実際の画像は切り抜かれません。

トリミング / 角度調整画面の便利な機能

●キーボードの操作で画面を切り換える

〈Alt〉＋〈Enter〉キーまたは、〈F11〉キーを押して、全画面表示／通常画面表示を切り換えることもできます。

●メニューで操作する

画像上でマウスの右ボタンをクリックすると表示されるメニューでも、各種の操作を行うことができます。

●切り抜いた範囲を別の画像に適用する

［コピー］ボタンを押して切り抜いた範囲をコピーし、適用したい別の画像を表示して［ペースト］ボタンを押すと、切り抜いた範囲を別の画像に適用することができます。
また、コピーした切り抜き範囲を複数の画像にまとめて適用するときは、メイン画面で切り抜きした画像と切り抜いた範囲を適用したい複数の画像を選び、トリミング / 角度調整画面を表示します。切り抜きした画像を表示している状態で［コピー］ボタンを押したあと、［全画像に適用する］ボタンを押すと、トリミング / 角度調整画面を表示するときに選んでいたすべての画像に切り抜き範囲が適用されます。

ISO 感度拡張を設定して撮影した画像は、ノイズが目立ち、トリミング / 角度調整画面での画像細部の確認が難しいので、当機能の使用はおすすめしません。

トリミング / 角度調整画面の機能一覧は、p.135 を参照してください。

自動ゴミ消し処理をする

　ゴミ消し情報（ダストデリートデータ）が付けられるカメラで、撮影した画像にダストデリートデータが付いているときは、そのデータを使ってゴミやホコリを自動的に消すことができます。

対象カメラ

EOS-1D X	EOS-1D Mark IV	EOS-1Ds Mark III
EOS-1D Mark III	EOS 5D Mark III	EOS 5D Mark II
EOS 7D	EOS 60D	EOS 50D
EOS 40D	EOS Kiss X6i	EOS Kiss X5
EOS Kiss X4	EOS Kiss X3	EOS Kiss X2
EOS Kiss Digital X	EOS Kiss X50	EOS Kiss F

1 **メイン画面でダストデリートデータの付いた画像を選ぶ**

2 **［スタンプ］ボタンを押す**

➜ コピースタンプ画面が表示されます。

3 **画像が鮮明な表示になったら、［ダストデリートデータ適用］ボタンを押す**

➜ ゴミやホコリが一括して消されます。

4 **［OK］ボタンを押してメイン画面に戻る**

➜ ゴミを消した画像には、［ ］マーク（p.126）が表示されます。

カメラ本体での RAW 現像処理時に歪曲補正や色収差補正の設定を行った画像には、ダストデリートデータは付いていません。そのため、自動ゴミ消し処理を行うことはできません。

こんなときは

ゴミ消し画像はいつでも元に戻せる

ゴミ消しした画像は、ゴミ消しした画像として表示され、印刷することもできます。ただし、実際に画像上のゴミを消してはいないため、コピースタンプ画面で［元に戻す］ボタンを押すか、「編集をやり直す」（p.120）の操作を行うと、いつでもゴミ消し前の状態に戻すことができます。

ゴミ消し具合はコピースタンプ画面で確認する

ゴミ消し具合は、コピースタンプ画面で確認してください。他の画面ではゴミ消し前の画像が表示され、ゴミ消し具合を確認することができません。

ゴミ消し画像の印刷

ゴミ消しした画像を DPP で印刷すると、ゴミが消された画像が印刷されます。

［ダストデリートデータ適用］ボタンが押せない

カメラでダストデリートデータを付けた画像でも、画像上に DPP で消せるゴミがないときは、［ダストデリートデータ適用］ボタンは非表示となり、押すことはできません。

自動ゴミ消し処理では消えないゴミを消すには

自動ゴミ消し処理は、ダストデリートデータに保存されているゴミやホコリに関する情報を元にゴミが消されます。そのため、画像に写り込んだゴミやホコリの種類によっては消せないことがあります。そのときは、リペア機能（p.116）やコピースタンプ機能（p.118）を使ってゴミやホコリを個別に消してください。

別画像として保存するとゴミ消しした画像になる

ゴミ消しした JPEG 画像または TIFF 画像を別画像として保存（p.119）すると、実際にゴミが消された画像になります。

コピースタンプ画面の便利な機能

ゴミ消しした箇所を確認する

手順 3 の後に〈Shift〉＋〈F〉キーを押すと、ゴミ消し箇所が 1 箇所ずつ表示され、ゴミ消しした箇所を詳細に確認することができます。（〈Shift〉＋〈B〉キーを押すと 1 つ前の箇所に戻ります）

指定したゴミ消し箇所だけをキャンセルする

手順 3 の後に〈Shift〉＋〈F〉キーまたは、〈Shift〉＋〈B〉キーを押してゴミ消し箇所を表示し〈Shift〉＋〈Del〉キーを押すと、表示しているゴミ消し箇所だけをゴミ消し前の状態に戻すことができます。

全画面表示／通常画面表示をショートカットキーで切り換える

〈Alt〉＋〈Enter〉キーを押して、全画面表示／通常画面表示を切り換えることもできます。

ゴミ消し結果を別の画像にも適用する

［コピー］ボタンを押してゴミ消し結果をコピーし、適用したい別の画像を表示して［ペースト］ボタンを押すと、別の画像の同じ位置のゴミを消すことができます。

コピースタンプ画面の機能一覧は、p.140 を参照してください。

メイン画面での自動ゴミ消し処理

ダストデリートデータが付いた複数の画像の自動ゴミ消しを、メイン画面で行うことができます。

ダストデリートデータの付いた複数の画像を選んで、メニューの［調整］▶［ダストデリートデータ適用］を選ぶ

➜ 選んだすべての画像のゴミやホコリが一括して消されます。

手動でゴミ消し処理をする（リペア機能）

画像に写り込んだ点状のゴミやホコリを、1 箇所ずつ選んで消すことができます。

1 メイン画面でゴミを消したい画像を選ぶ

2 ［スタンプ］ボタンを押す

→ コピースタンプ画面が表示されます。

3 画像が鮮明な表示になったらゴミ消ししたい箇所をダブルクリックする

→ 100%表示になります。
- ドラッグすると表示位置を変えることができます。

4 消したいゴミにあったボタンを押す

- 黒っぽいゴミのときは［ ］ボタンを、白っぽいゴミのときは［ ］ボタンを押します。
- 画像上にカーソルを移動すると、ゴミ消しする範囲が［○］で表示されます。

5 消したいゴミを［○］の中に入れてクリックする

→［○］内のゴミが消されます。
- 表示されている別の箇所をクリックすると、続けてゴミ消しすることができます。
- 別の箇所のゴミを消すときは、マウスの右ボタンをクリックするか、手順 4 で押したボタンを再度押してゴミ消し処理を一旦解除し、手順 3 からの操作を再度行ってください。
- ゴミ消しできないときは、［⃠］が表示されます。

6 ［OK］ボタンを押してメイン画面に戻る

→ ゴミを消した画像には、［ ］マーク （p.126）が表示されます。

こんなときは

● きれいに消えないときは、何度かクリックする

手順 5 の操作を 1 度行ってもきれいにゴミが消えないときは、何度かクリックするときれいに消えることがあります。

● リペア機能で消せるのは、主に点状のゴミやホコリ

リペア機能でゴミ消しできるのは、点状のゴミやホコリです。線状のゴミやホコリは消せないことがありますので、そのときはコピースタンプ機能（p.118）で消してください。

● ゴミ消し画像はいつでも元に戻せる

ゴミ消しした画像は、ゴミ消しした画像として表示され、印刷することもできます。ただし、実際に画像上のゴミを消してはいないため、コピースタンプ画面で［元に戻す］ボタンを押すか、「編集をやり直す」（p.120）の操作を行うと、いつでもゴミ消し前の状態に戻すことができます。

● ゴミ消し具合はコピースタンプ画面で確認する

ゴミ消し具合は、コピースタンプ画面で確認してください。他の画面ではゴミ消し前の画像が表示され、ゴミ消し具合を確認することができません。

● ゴミ消し画像の印刷

ゴミ消しした画像を DPP で印刷すると、ゴミが消された画像が印刷されます。

● 別画像として保存するとゴミ消しした画像になる

ゴミ消しした JPEG 画像または TIFF 画像を別画像として保存（p.119）すると、実際にゴミが消された画像になります。

コピースタンプ画面の便利な機能

● ゴミ消しした箇所を確認する

手順 5 の後に〈Shift〉＋〈F〉キーを押すと、ゴミ消し箇所が 1 箇所ずつ表示され、ゴミ消しした箇所を詳細に確認することができます。（〈Shift〉＋〈B〉キーを押すと 1 つ前の箇所に戻ります）

● 指定したゴミ消し箇所だけをキャンセルする

手順 5 の後に〈Shift〉＋〈F〉キー、または〈Shift〉＋〈B〉キーを押してゴミ消し箇所を表示し、〈Shift〉＋〈Del〉キーを押すと、表示しているゴミ消し箇所だけをゴミ消し前の状態に戻すことができます。

● 全画面表示／通常画面表示をショートカットキーで切り換える

〈Alt〉＋〈Enter〉キーを押して、全画面表示／通常画面表示を切り換えることもできます。

● ゴミ消し結果を別の画像にも適用する

［コピー］ボタンを押してゴミ消し結果をコピーし、適用したい別の画像を表示して［ペースト］ボタンを押すと、別の画像の同じ位置のゴミを消すことができます。

なお、同じ位置のゴミ消しを複数の別画像に適用したいときは、メイン画面で〈Ctrl〉キーを押したまま画像をクリックするか、最初の画像をクリックし、〈Shift〉キーを押したまま最後の画像をクリックして複数の画像を選んでからコピースタンプ画面を表示すると、効率よくゴミ消しを行うことができます。

ISO 感度拡張を設定して撮影した画像は、ノイズが目立ち、コピースタンプ画面でのゴミやホコリの確認が難しいので、当機能の使用はおすすめしません。

コピースタンプ画面の機能一覧は、p.140 を参照してください。

画像の不要な箇所を消す（コピースタンプ機能）

画像上の不要な箇所に、別の部分からコピーした画像を貼り付けて修正することができます。

1 「手動でゴミ消し処理をする（リペア機能）」(p.116) の手順3までの操作をする

2 コピーする箇所を指定する

- 画像上のコピー元となる箇所を〈Alt〉キーを押したままクリックします。
- コピー元となる箇所を変更するときは、再度上記の操作を行ってください。
- コピー元の位置を固定したいときは、**［コピー元の位置を固定する］**をチェックします。

3 画像を修正する

- 画像上の修正したい箇所をクリックまたはドラッグします。画面上の［+］がコピー元、［○］がコピー先になります。

→ コピー元の画像がドラッグした位置に貼り付けられます。

- **［スタンプの種類］**は、**［ブラシ］**（境界線がブラシ上にぼかされて処理されます）と**［鉛筆］**（境界線がはっきりと処理されます）から選ぶことができます。

4 ［OK］ボタンを押してメイン画面に戻る

→ 修正した画像には、［ ］マーク (p.126) が表示されます。

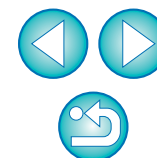
画像の合成や HDR（ハイダイナミックレンジ）調整を行う

JPEG 画像、TIFF 画像も、下記の操作で RAW 画像と同じように、画像の合成を行うことができます。

- 画像を合成する (p.78)
- HDR（ハイダイナミックレンジ）調整を行う (p.81)

Map Utility を起動する

下記の操作で Map Utility を起動することができます。

- Map Utility を起動する (p.84)

編集結果を保存する

編集内容を画像に保存する

ツールパレットで調整（p.103～p.110）したすべての内容（レシピ）や、切り抜いた（p.111）範囲の情報、ゴミ消し（p.114～p.118）した情報を JPEG 画像、TIFF 画像に保存または、別名の JPEG 画像、TIFF 画像として保存することができます。

メニューの［ファイル］▶ 目的の項目を選ぶ

➜ 調整した内容が画像に保存されます。

別画像として保存する

ツールパレットで調整（p.103～p.110）した JPEG 画像、TIFF 画像を、下記の操作で RAW 画像と同じように保存すると、実際に調整内容（レシピ）を反映した別画像として保存することができます。

また、切り抜き（トリミング）（p.111）やゴミ消し（p.114～p.118）した画像も同じように保存すると、実際に切り抜いた（トリミング）画像やゴミが消された画像になります。

- JPEG 画像、TIFF 画像で保存する（p.42）
- 一括して JPEG 画像、TIFF 画像で保存する（バッチ処理）（p.99）

なお、上記の操作で JPEG 画像、TIFF 画像を別画像として保存すると、ツールパレットで調整した内容が反映されるので、一般の画像編集用ソフトウェア同様、編集／保存にともなって画像が多少劣化します。

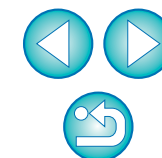
編集した内容を別の画像にも適用する

ツールパレットで調整した JPEG 画像、TIFF 画像も、下記の操作で RAW 画像と同じように、調整内容（レシピ）をコピーして別の画像に適用することができます。

- 調整した内容を別の画像にも適用する（p.41）
- 調整した内容（レシピ）を活用する（p.96）

印刷する

編集した JPEG 画像、TIFF 画像も、下記の操作で RAW 画像と同じように印刷することができます。

- 印刷する（p.43）
- 撮影情報を付けて印刷する（p.85）
- 一覧印刷（コンタクトシート印刷）（p.86）
- キヤノン製ハイエンドプリンターで RAW 画像を印刷する（p.87）

編集をやり直す

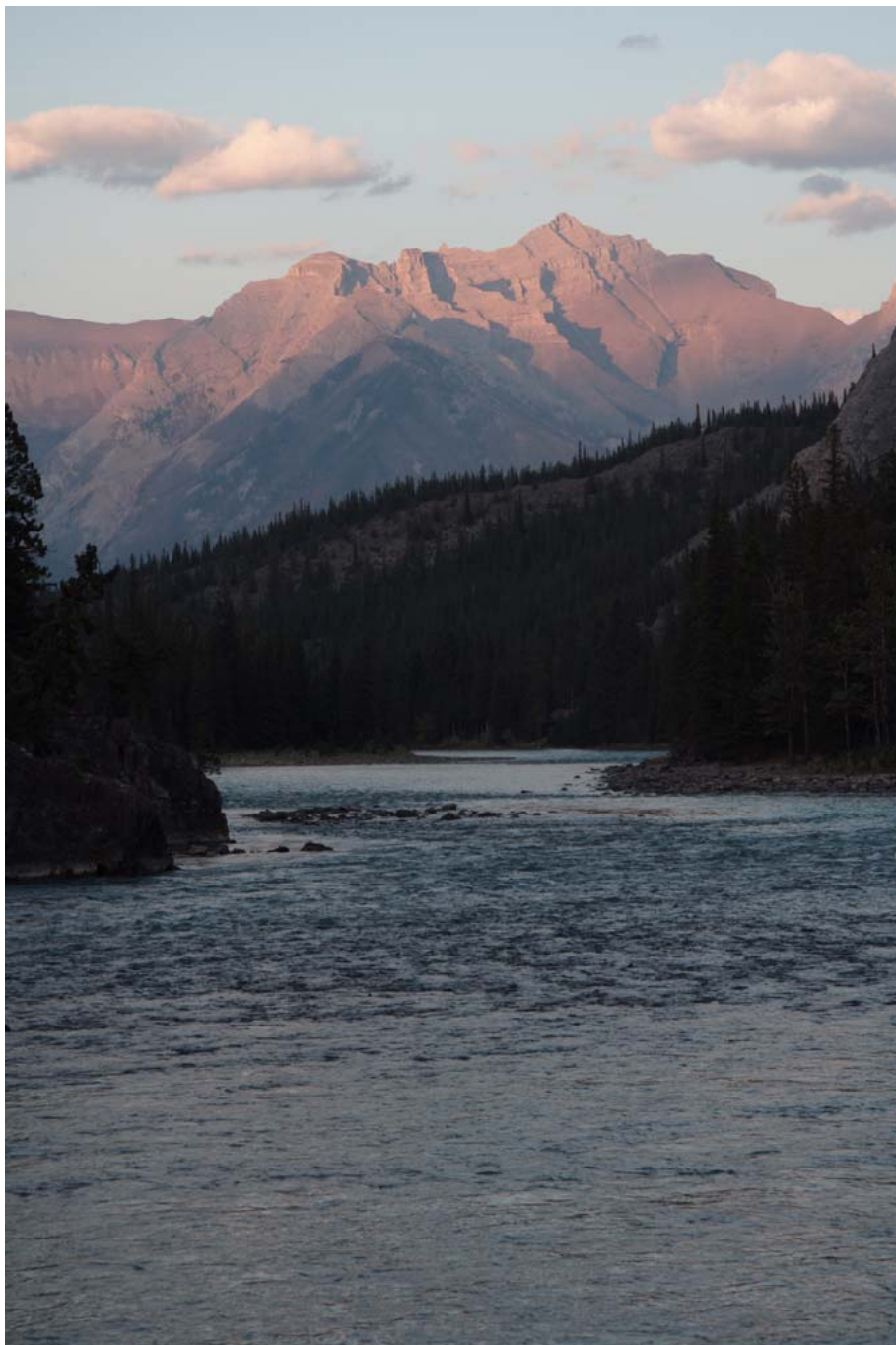
ツールパレットで調整（p.103 ～ p.110）した画像は、画像処理条件を変えているだけなので、「オリジナル画像データそのもの」はまったく変わりません。また、切り抜いた画像（p.111）やゴミ消しした画像（p.114 ～ p.118）も、切り抜いた範囲の情報やゴミ消しした情報が画像に保存されているだけです。

そのため、画像に保存（p.119）した調整内容や切り抜き範囲、ゴミ消しした情報をすべて取り消して、最後に保存した状態または、撮影時の状態にいつでも戻すことができます。

1 編集をやり直す画像を選ぶ

2 メニューの［調整］▶ 目的の項目を選ぶ

➜ 選んだ項目の状態に画像が戻ります。

資　料

DPP を快適に使っていただくため、この「資料」を設けました。
各種のトラブル解決法や DPP の削除方法の他、主要な画面の全表示内容や用語集を掲載しています。
また、章の最後には索引を設け、知りたいことを見つけやすいようにしています。

こんなときは

DPP が正しく動作しないときは、下記の例を参考にチェックしてください。

手順どおりにインストールできない

●ユーザー設定を管理者権限（**[コンピュータの管理者]**、**[管理者]**、**[Administrator]** など）に設定してください。管理者権限以外に設定していると、インストールすることができません。管理者権限の詳しい設定方法は、使用しているパソコンの使用説明書などを参照してください。

DPP が動かない

●動作環境と違ったパソコンでは、DPP は正しく動作しません。動作環境にあったパソコンを使用してください。（p.3）

●動作環境（p.3）に記載された RAM（メモリー）容量をパソコンに搭載していても、DPP と共に他のソフトウェアを立ち上げていると、RAM（メモリー）が不足することがあります。DPP 以外のソフトウェアを終了してください。

カードリーダーで、SD カードを認識できない

●お使いのカードリーダーや、パソコンの OS のバージョンによっては、SDXC カードをカードリーダーに差しても正しく認識されないことがあります。そのときは、カメラとパソコンをインターフェースケーブルで接続し、付属のソフトウェア EOS Utility を使って、画像を取り込んでください。

画像が正しく表示されない

●DPP が未対応の画像は表示されません。また、JPEG 画像、TIFF 画像には様々な種類があるため、DPP が対応する Exif 2.2、2.21、2.3 に準拠した JPEG 画像と、Exif 規格に準拠した TIFF 画像以外は、正しく表示されないことがあります。（p.3）

●ゴミ消し（p.73 ～ p.77、p.114 ～ p.118）した画像を、コピースタンプ画面以外の画面で表示すると、ゴミ消し前の画像が表示されます。ゴミ消しした画像は、コピースタンプ画面で確認してください。

画像が調整できない

●JPEG 画像、TIFF 画像は、**[RAW]** ツールパレットの画像調整機能では調整できません。**[RGB]** ツールパレットで調整してください。（p.128）

●PowerShot Pro1 の RAW 画像は、**[RAW]** ツールパレットの画像調整機能では調整できません。**[RGB]** ツールパレットで調整してください。（p.128）

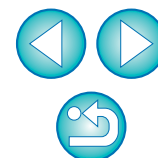
編集した内容（レシピ）が別の画像に貼り付け（適用）できない

●画像の回転（p.10、p.25、p.124、p.132、p.133）、切り抜き（トリミング）（p.38、p.111）、画像のゴミ消し（コピースタンプ）（p.73 ～ p.77、p.114 ～ p.118）は、レシピとして別の画像に貼り付ける（適用する）ことはできません。切り抜きとゴミ消しは各画面のコピー／ペースト機能を使って行い、回転は画像ごとに回転してください。

●**[RAW]** ツールパレットで調整した RAW 画像の調整内容（レシピ）は、JPEG 画像、TIFF 画像には適用できません。（p.128）

●オートライティングオプティマイザ（p.61）は、EOS-1D X、EOS-1D Mark IV、EOS 5D Mark III、EOS 5D Mark II、EOS 7D、EOS 60D、EOS 50D、EOS Kiss X6i、EOS Kiss X5、EOS Kiss X4、EOS Kiss X3、EOS Kiss X50 で撮影した RAW 画像でのみ使用できる機能です。その他のカメラで撮影した RAW 画像に、オートライティングオプティマイザの調整内容を適用することはできません。

別のソフトウェアで画像を見ると色が薄くなっている

●sRGB 以外の色空間に設定（p.77、p.93）した RAW 画像を、JPEG 画像または、TIFF 画像に変換して保存し、この画像を sRGB の色空間にしか対応していないソフトウェアで見ると、画像の色が薄くなって表示されます。このときは、RAW 画像の色空間を sRGB に設定し、再度 JPEG 画像、TIFF 画像に変換して保存した画像を見てください。

画面に表示している画像の色味と印刷した写真の色味があわない

- 画像を表示するモニターの色味が正しく調整されていないときや、印刷するプリンターのプロファイルが設定されていないときは、印刷した写真の色味と画面に表示した画像の色味が大きく異なることがあります。画像を表示するモニターの色味を正確にして（p.93）、プリンターのプロファイルを正しく設定（p.93）すると、印刷した写真の色味と画面上の画像の色味を近づけることができます。なお、キヤノン製プリンターを使用した印刷（p.43、p.46）や、連携印刷（p.87、p.88）では、プリンターのプロファイル設定は自動的に行われるため、モニターの設定だけで、簡単に色味を近づけることができます。
- Easy-PhotoPrint を使用した印刷では、Easy-PhotoPrint の自動補正機能や各種の画像調整機能が働いていると、正しい色味で印刷されません。Easy-PhotoPrint の画像調整機能はすべて解除してください。（p.47）
- プリンターのプロファイルを設定しても、プリンタードライバの色を調整する機能を使うと、画面上の画像の色味と、印刷した写真の色味が近づかなくなることがあります。ドライバの色を調整する機能は使わないでください。

大量の画像が一度に印刷できない

- 一度に大量の画像を印刷すると、印刷が途中で止まったり、画像が印刷されないことがあります。一度に印刷する画像数を少なくするか、パソコンの RAM（メモリー）を増設してください。

削除した画像のフォルダにファイルが残っている

- 画像を削除した（p.49）フォルダに、［CRW_YYYY.THM］（カメラのインデックス表示用画像）が残っているときは削除してください。
  ※画像名の［YYYY］には数字が入ります。

画像の情報が表示されない

- EOS 10D、EOS Kiss Digital、PowerShot Pro1 で、Adobe RGB に設定して撮影した JPEG 画像は、画像情報（p.10、p.23）が表示されないことがあります。

ソフトウェアを削除する（アンインストール）

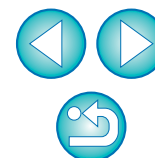
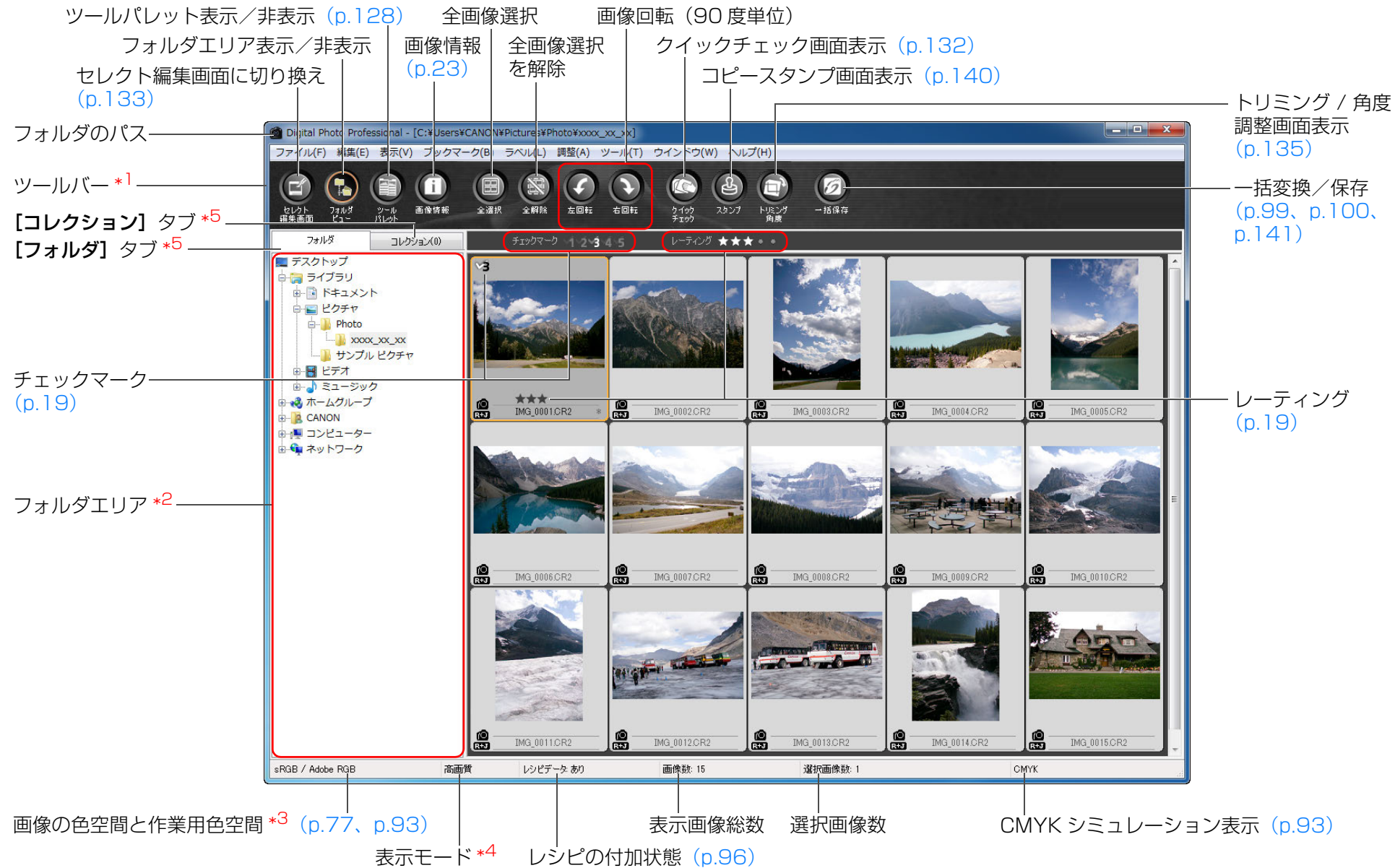
- ソフトウェアの削除をはじめる前に、立ち上がっているすべてのソフトウェアを終了してください。
- ソフトウェアの削除を行うときは、管理者権限でログインしてください。
- ソフトウェアを削除したあとは、必ずパソコンを再起動してください。パソコンが正しく動作しないことがあります。また、再起動をしないでソフトウェアを再インストールすると誤動作の原因になります。

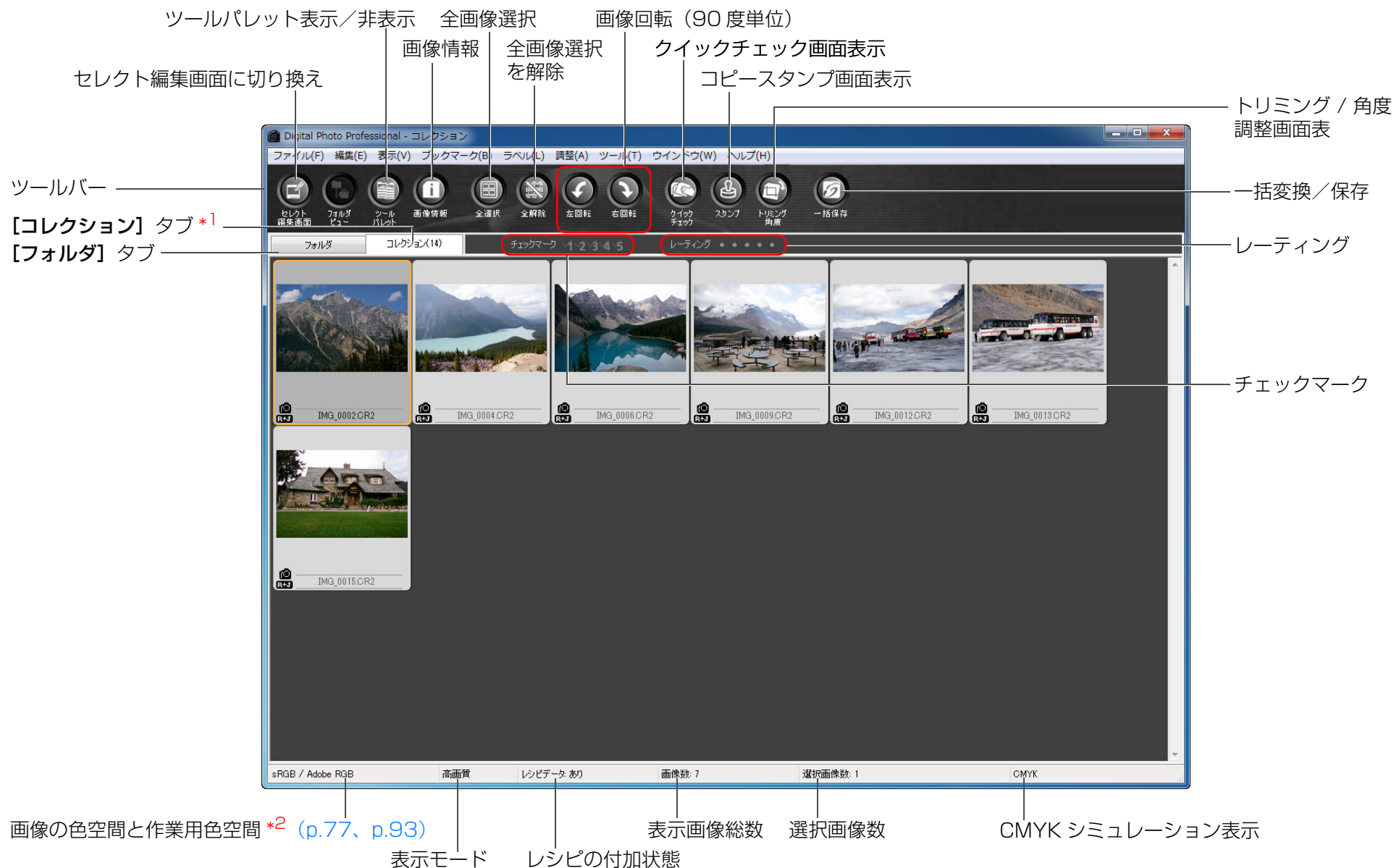
1 ［ ］ボタン（Windows XP では［スタート］ボタン）▶［すべてのプログラム］▶［Canon Utilities］▶［Digital Photo Professional］▶［Digital Photo Professional アンインストール］を選ぶ

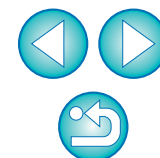
2 表示される画面内容にしたがって、削除をすすめる

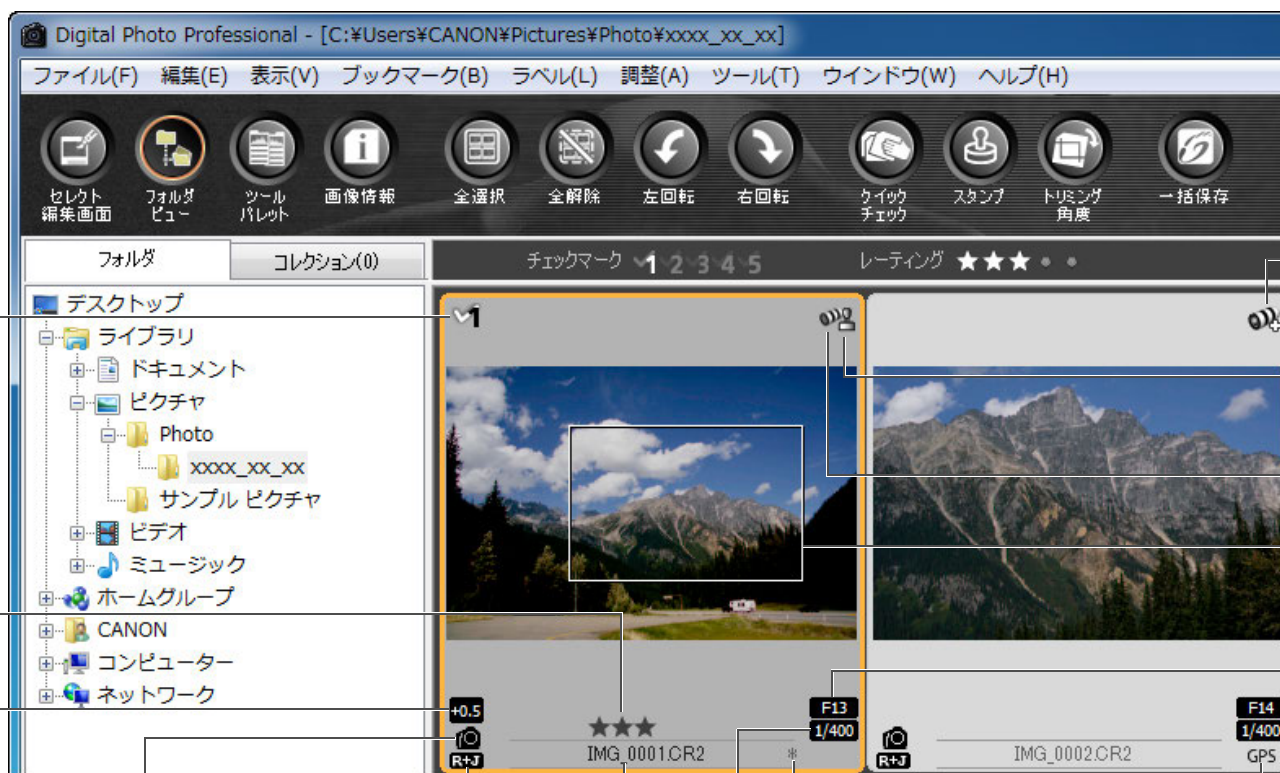
➜ ソフトウェアが削除されます。

メイン画面（フォルダ画面）の機能一覧 (p.10)

ツールパレット表示／非表示 (p.128)
全画像選択
画像回転（90 度単位）
フォルダエリア表示／非表示
画像情報 (p.23)
全画像選択を解除
クイックチェック画面表示 (p.132)
セレクト編集画面に切り換え (p.133)
コピースタンプ画面表示 (p.140)
トリミング / 角度調整画面表示 (p.135)
フォルダのパス
ツールバー *1
一括変換／保存 (p.99、p.100、p.141)
［コレクション］タブ *5
［フォルダ］タブ *5
チェックマーク (p.19)
レーティング (p.19)
フォルダエリア *2
画像の色空間と作業用色空間 *3 (p.77、p.93)
表示画像総数
選択画像数
CMYK シミュレーション表示 (p.93)
表示モード *4
レシピの付加状態 (p.96)

*1 表示／非表示の切り換えは、メニューの［表示］▶［ツールバー］を選びます。
*2 ここで選んだフォルダ内の画像が、右側に一覧で表示されます。
*3 ツールパレットでクリックホワイトバランスを行ったときは、カーソル座標位置と RGB 値（8bit 換算）が表示されます。
*4 ［環境設定］画面の［RAW 画像の表示と保存］(p.89) で選んだ項目が表示されます。
*5 ［フォルダ］画面と［コレクション］画面を切り換えます。

メイン画面（コレクション画面）の機能一覧 (p.36)

*1 [コレクション] タブの（　）内には、[コレクション] 画面に追加された画像の総数が表示されます。そのため 1 枚表示（p.22）にした画像を追加したときは、表示画像総数の 2 倍の枚数が表示されます。

*2 ツールパレットでクリックホワイトバランスを行ったときは、カーソル座標位置と RGB 値（8bit 換算）が表示されます。

メイン画面、セレクト編集画面の画像枠表示内容 （p.10、p.34）

［サムネイル大］（p.10）を選んだときに表示される内容

チェックマーク（p.18、p.19）

レーティングマーク（p.18、p.19）

明るさ調整値 *1（p.26）

ホワイトバランスアイコン *1（p.27）

画像の種類 *2

ファイル名

シャッター速度 *3

編集内容未保存マーク

GPS マーク *5

絞り数値 *3

切り抜き（トリミング）範囲 *4（p.38、p.111）

レンズ収差補正マーク（p.65）

コピースタンプマーク（p.73 ～ p.77、p.114 ～ p.118）

デジタルレンズオプティマイザマーク（p.69 ～ p.72）

*1 **［サムネイル小］**では表示されません。

*2 1 枚表示（p.22）にした RAW +JPEG 画像に表示されます。
RAW 画像には **［RAW］** が表示されます。
（**［サムネイル小］**（p.10）では **［R］** を表示）
PowerShot Pro1 の RAW 画像には **［RAW］** は表示されません。

*3 **［サムネイル中］、［サムネイル小］**では表示されません。

*4 EOS-1D X、EOS-1D Mark IV、EOS-1Ds Mark III、EOS-1D Mark III、EOS 5D Mark III、EOS 7D、EOS 60D、EOS Kiss X6i、EOS Kiss X5 で撮影した画像に、アスペクト比情報が付いているときは、切り抜いた画像として表示されます。

*5 GPS 機能に対応したキヤノン製カメラで撮影した画像に表示されます。

編集画面の機能一覧 （p.11、p.25）

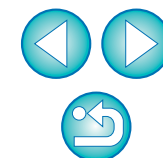
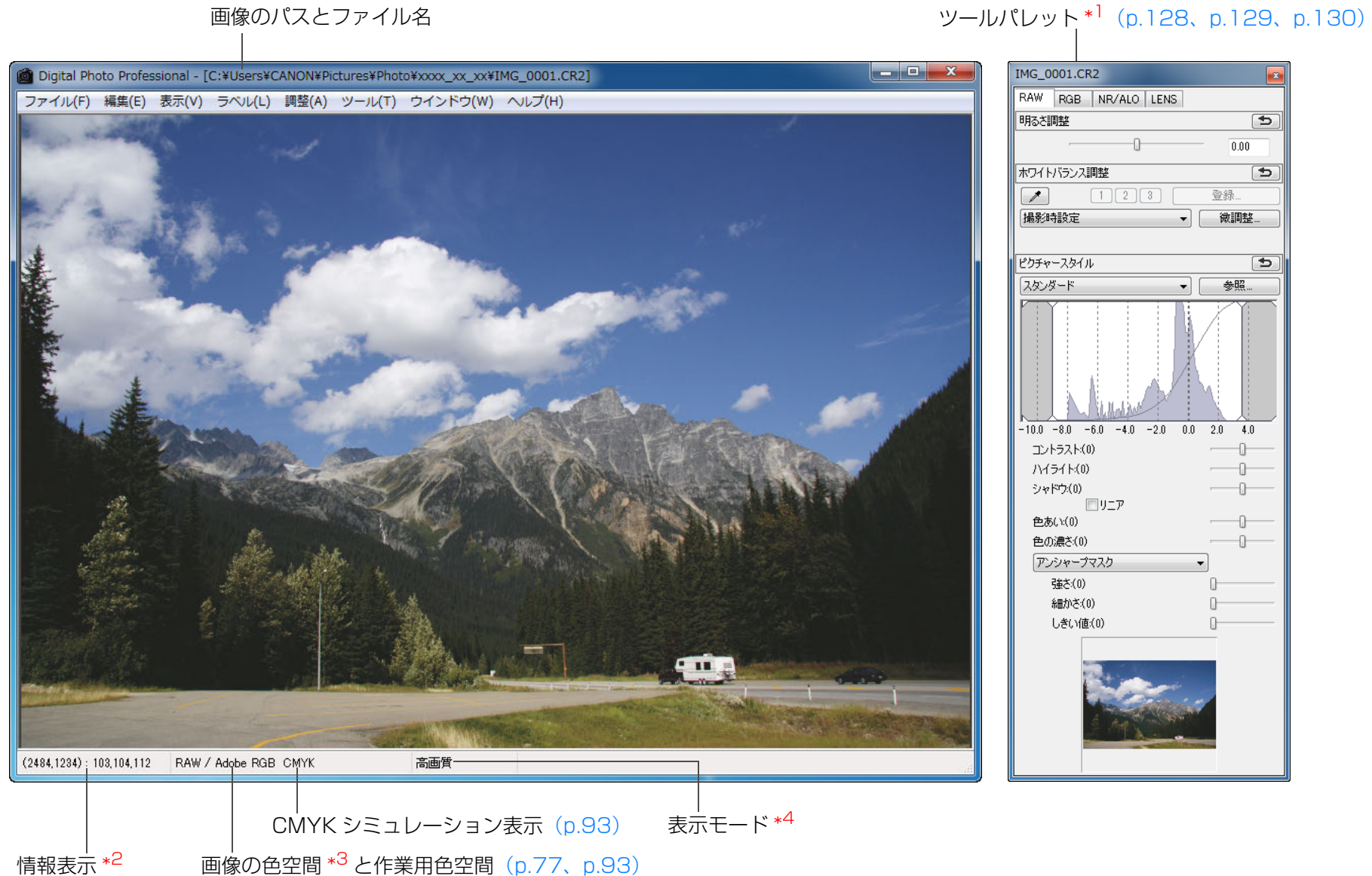
画像のパスとファイル名

ツールパレット *[1] （p.128、p.129、p.130）

CMYK シミュレーション表示 （p.93）

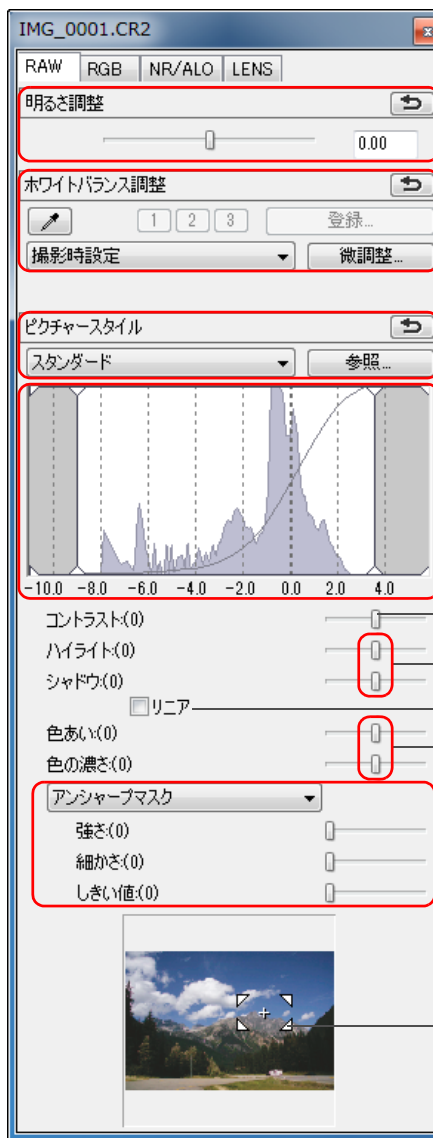
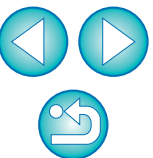
表示モード *[4]

情報表示 *[2]

画像の色空間 *[3] と作業用色空間 （p.77、p.93）

*[1] 表示／非表示の切り換えは、メニューの［表示］▶［ツールパレット］を選びます。

*[2] カーソル座標位置と RGB 値（8bit 換算）を表示します。

*[3] RAW 画像は、［RAW］と表示されます。

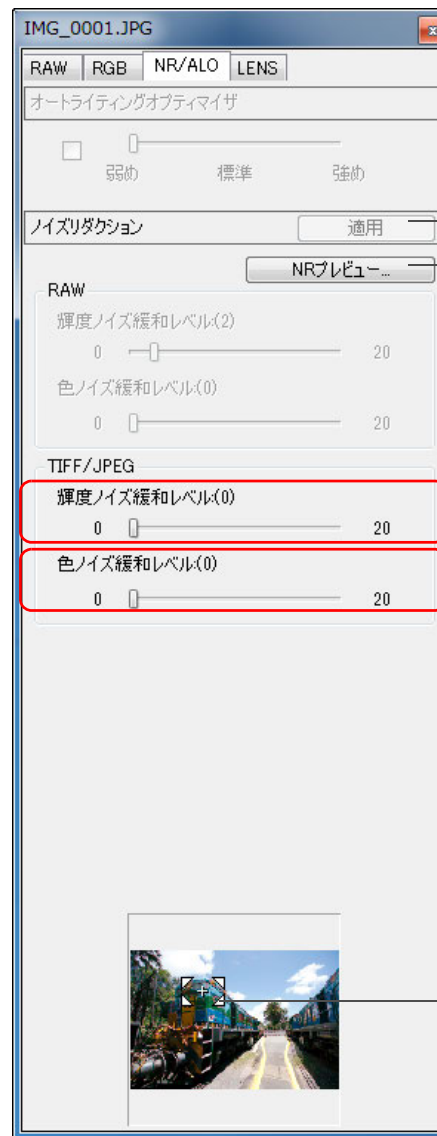
*[4] ［環境設定］画面の［RAW 画像の表示と保存］（p.89）で選んだ項目が表示されます。

はじめに
やりたいこと目次
基本操作
応用操作
高度な機能
大量の画像を扱う機能
JPEG/TIFF 画像編集
資　料
索　引

ツールパレット機能一覧

RAW ツールパレット (p.25)

RGB ツールパレット (p.60)

* 拡大表示したときは、表示される拡大位置をドラッグ操作で移動させることができます。また、セレクト編集画面（p.133）の［**ドッキング表示**］（p.92）では、セレクト編集画面を大きくしたときに表示されます。

NR/ALO ツールパレット（RAW 画像選択時）

NR/ALO ツールパレット（JPEG 画像、TIFF 画像選択時）

* 拡大表示したときは、表示される拡大位置をドラッグ操作で移動させることができます。また、セレクト編集画面（p.133）の［ドッキング表示］（p.92）では、セレクト編集画面を大きくしたときに表示されます。

LENS ツールパレット

IMG_0001.CR2

RAW | RGB | NR/ALO | LENS

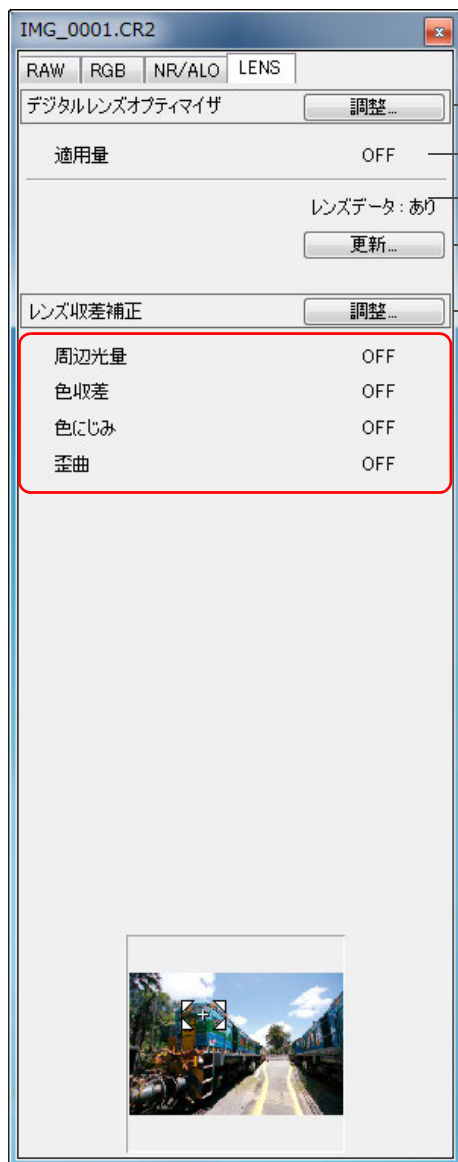
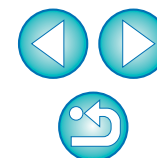
デジタルレンズオプティマイザ　調整...

適用量　OFF

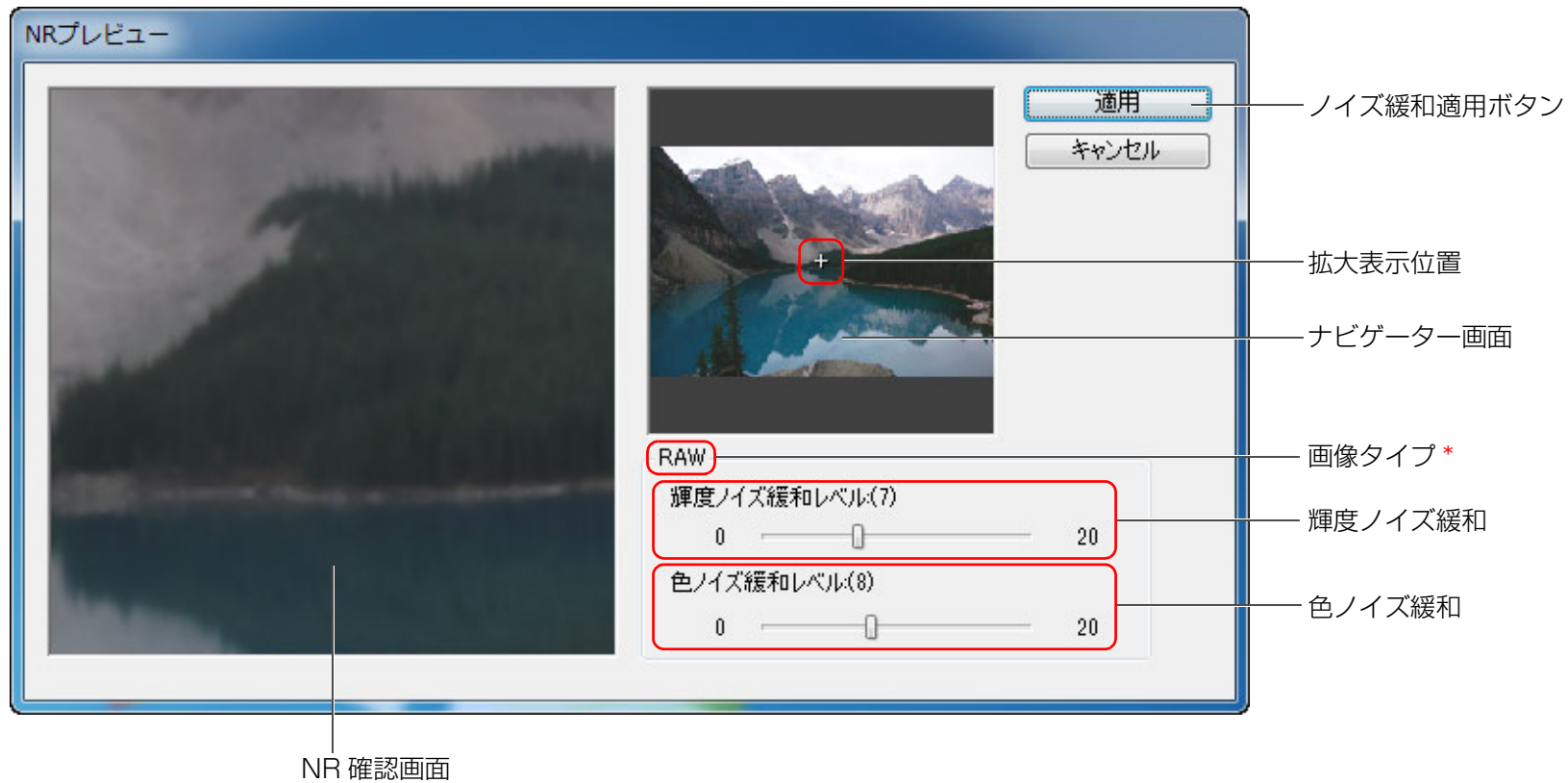
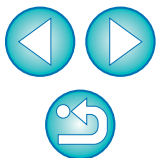
レンズデータ：あり

更新...

レンズ収差補正　調整...

周辺光量　OFF
色収差　OFF
色にじみ　OFF
歪曲　OFF

- デジタルレンズオプティマイザ調整ボタン（p.71）
- デジタルレンズオプティマイザ適用量（p.70）
- レンズデータの状態（p.70）
- レンズデータ更新ボタン（p.70）
- レンズ収差補正調整ボタン（p.65）
- レンズ収差補正（p.65）

NR プレビュー画面の機能一覧 (p.62、p.110)

NRプレビュー
適用
キャンセル
RAW
輝度ノイズ緩和レベル:(7)
0 20
色ノイズ緩和レベル:(8)
0 20

ノイズ緩和適用ボタン
拡大表示位置
ナビゲーター画面
画像タイプ *
輝度ノイズ緩和
色ノイズ緩和
NR 確認画面

* JPEG 画像、TIFF 画像を選んで［NR プレビュー］画面を表示したときは、［TIFF ／ JPEG］と表示され、JPEG 画像、TIFF 画像の輝度ノイズ、色ノイズを緩和することができます。

クイックチェック画面の機能一覧 (p.16、p.18)

画像のパスとファイル名

50% 表示／ 100% 表示（偽色緩和なし）／全体表示 *[1]

2/ 15 C:¥Users¥CANON¥Pictures¥Photo¥xxxx_xx_xx¥IMG_0002.CR2

チェックマーク表示

レーティングマーク表示

50%表示　全画面表示

チェックマーク　解除

レーティング　除外

前へ　次へ

AF フレーム

画像情報

左回転　右回転

OK

画像を全画面表示 *[2]

チェックマーク解除 (p.18)

チェックマーク (p.18)

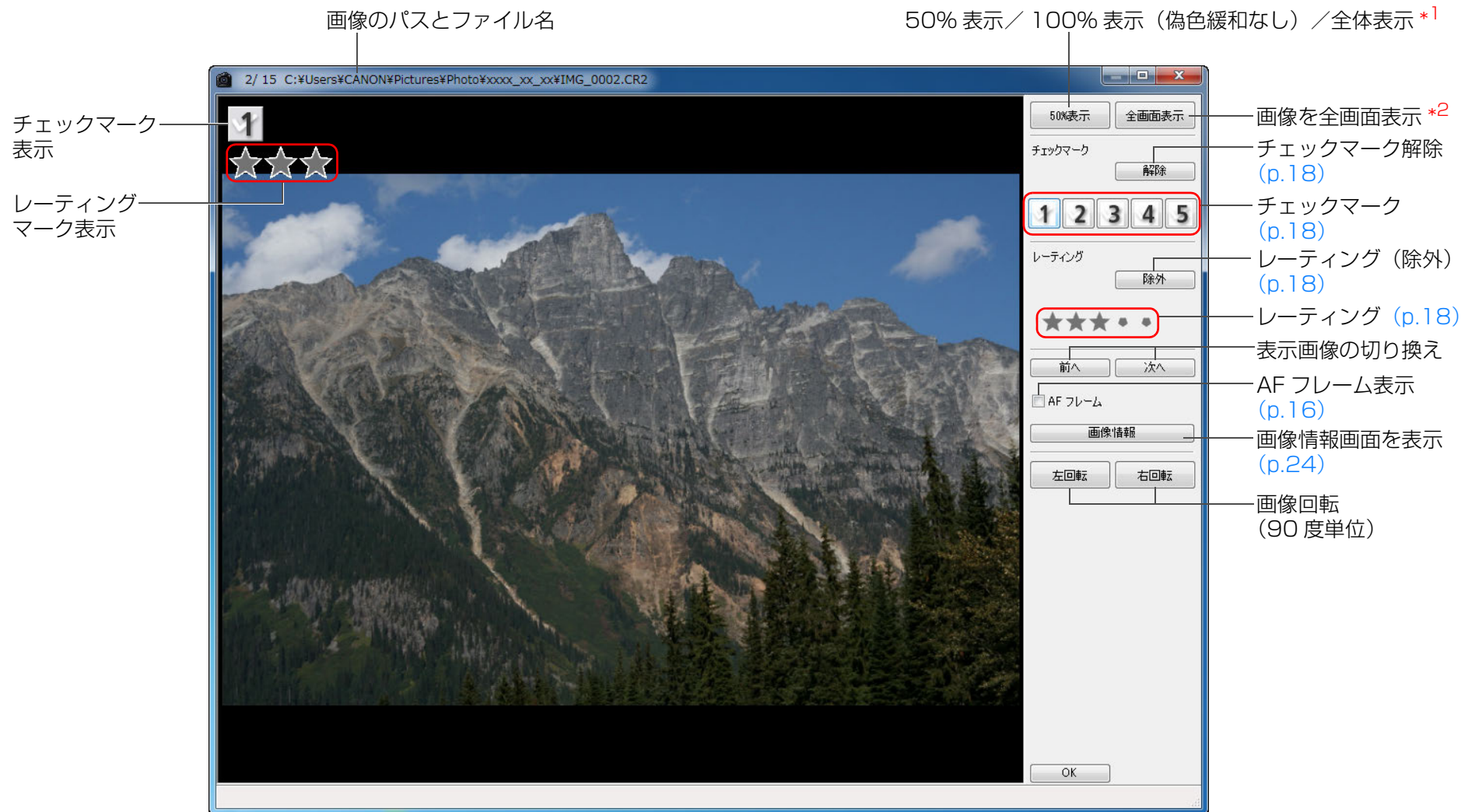
レーティング（除外） (p.18)

レーティング (p.18)

表示画像の切り換え

AF フレーム表示 (p.16)

画像情報画面を表示 (p.24)

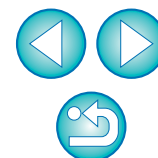
画像回転（90 度単位）

*[1] メニューの［ツール］▶［環境設定］を選び、［表示設定］タブ画面の［クイックチェックツールの表示］で 50%表示／ 100%表示（偽色緩和なし）を選ぶことができます。なお、拡大表示のときは、ドラッグ操作で表示位置を移動することができます。

*[2] 通常表示に戻すときは、〈Esc〉キーを押します。

セレクト編集画面の機能一覧（p.34、p.36）

ツールパレット表示／非表示
グリッド表示／非表示 *4
表示画像の切り換え
コピースタンプ画面表示（p.73～p.77、p.114～p.118、p.140）
サムネイル表示エリア表示／非表示
画像情報（p.23）
表示画像の拡大率
画像回転（90 度単位）
トリミング／角度調整画面表示（p.38、p.111、p.135）
メイン画面に切り換え（p.124）
画像のパスとファイル名
ツールバー
一括変換／保存（p.99、p.100、p.141）
ツールパレット（p.128）
サムネイル表示エリア *3
情報表示 *2
表示モード *5
画像の色空間 *1 と作業用色空間（p.77、p.93）
CMYK シミュレーション表示（p.93）

Digital Photo Professional - [C:¥Users¥CANON¥Pictures¥Photo¥xxxx_xx_xx¥IMG_0003.CR2]
ファイル(F) 編集(E) 表示(V) ラベル(L) 調整(A) ツール(T) ヘルプ(H)
メイン画面　サムネイル　ツールパレット　グリッド　画像情報　画面に合わせる　50%表示　100%表示　200%表示　前の画像　次の画像　左回転　右回転　スタンプ　トリミング角度　一括保存
IMG_0001.CR2　IMG_0002.CR2　IMG_0003.CR2
RAW　RGB　NR/ALO　LENS
明るさ調整　0.00
ホワイトバランス調整　1　2　3　登録...　撮影時設定　微調整...
ピクチャースタイル　スタンダード　参照...
コントラスト(0)　ハイライト(0)　シャドウ(0)　リニア　色あい(0)　色の濃さ(0)　シャープネス　シャープネス(1)
(623,1907) : 104,123,167　RAW / Adobe RGB　CMYK　高画質

*1 RAW 画像は、［RAW］と表示されます。
*2 カーソル座標位置と RGB 値（8bit 換算）を表示します。
*3 メイン画面で選んだ画像を表示します。また、ここで選んだ画像が右側に拡大して表示されます。
*4 グリッドの間隔は、［環境設定］の［グリッドの間隔］（p.91）で設定することができます。
*5 ［環境設定］画面の［RAW 画像の表示と保存］（p.89）で選んだ項目が表示されます。

1 枚の変換／保存画面の機能一覧 (p.42)

保存先

ファイル名

解像度 *1

ICC プロファイル (p.143) の埋め込み *2

大きさ変更 *4

画像の種類

画像の種類	拡張子
Exif-JPEG	.JPG
Exif-TIFF 8bit	.TIF
TIFF 16bit	.TIF
Exif-Tiff 8bit +Exif-JPEG	.TIF ／ .JPG
TIFF 16bit+ Exif-JPEG	.TIF ／ .JPG

保存

JPEG 圧縮率 *3

*1 設定範囲は、1 ～ 60,000dpi です。

*2 画像に設定されている色空間 (p.77、p.93) 情報が ICC プロファイルに付加されます。
Apple RGB、ColorMatch RGB、Wide Gamut RGB の色空間を設定 (p.77、p.93) した画像では、チェックを外しても、自動的に ICC プロファイルが埋め込まれます。

*3 設定範囲は、1 ～ 10 です。数値が大きいほど高画質になります。

*4 ［幅］または［高さ］で設定した大きい方の値を、画像の長辺に適用して画像サイズを変更します。

はじめに
やりたいこと目次
基本操作
応用操作
高度な機能
大量の画像を扱う機能
JPEG/TIFF 画像編集
資料
索引

トリミング / 角度調整画面の機能一覧 (p.38、p.111)

すべてのトリミング（アスペクト比）情報を取り消し

全画面表示／通常表示に戻す

撮影時の状態に戻す

切り抜く範囲の比率（［カスタム］選択時は数値入力も可能）*1

切り抜いた範囲の左上座標（数値入力も可能）

切り抜いた範囲の大きさ（数値入力も可能）

画像の調整角度
（バーをドラッグ、または［▲］／［▼］を押すマウス操作や数値入力で、角度を設定）

切り抜いた範囲のコピーと別画像への適用（貼り付け）*2

表示画像の切り換え *2

切り抜いた範囲の境界線表示

切り抜いた範囲外の不透明度

グリッド線の表示／非表示
（バーをドラッグして、グリッドの間隔を設定）

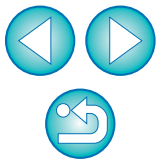
切り抜き範囲を画面の中心に表示

切り抜き範囲

コピーした切り抜き範囲を別の全画像へ適用 *2

画像回転（90 度単位）

*1 ［フリー］を選んだときは、切り抜いた範囲の線をドラッグして、切り抜き範囲を変えることもできます。

*2 複数の画像を選んでトリミング / 角度調整画面を表示したときに動作します。

レンズ収差補正画面の機能一覧 (p.65)

● ［レンズ収差補正］画面にエクステンダーを選ぶリストボックスが表示されたときは、リストボックスから撮影時に装着したエクステンダーを選んでください。

● 魚眼レンズで撮影された画像の歪曲収差補正は、［効果］のリストボックスから、通常の歪曲補正である［撮影時設定］のほかに 4 つの効果を選ぶことができます。

レンズ収差補正 - [IMG_0001.CR2]

拡大表示部 *1

撮影時の状態に戻す

撮影距離スライダー *2 (p.68)

周辺光量補正

色収差補正

青色の収差補正

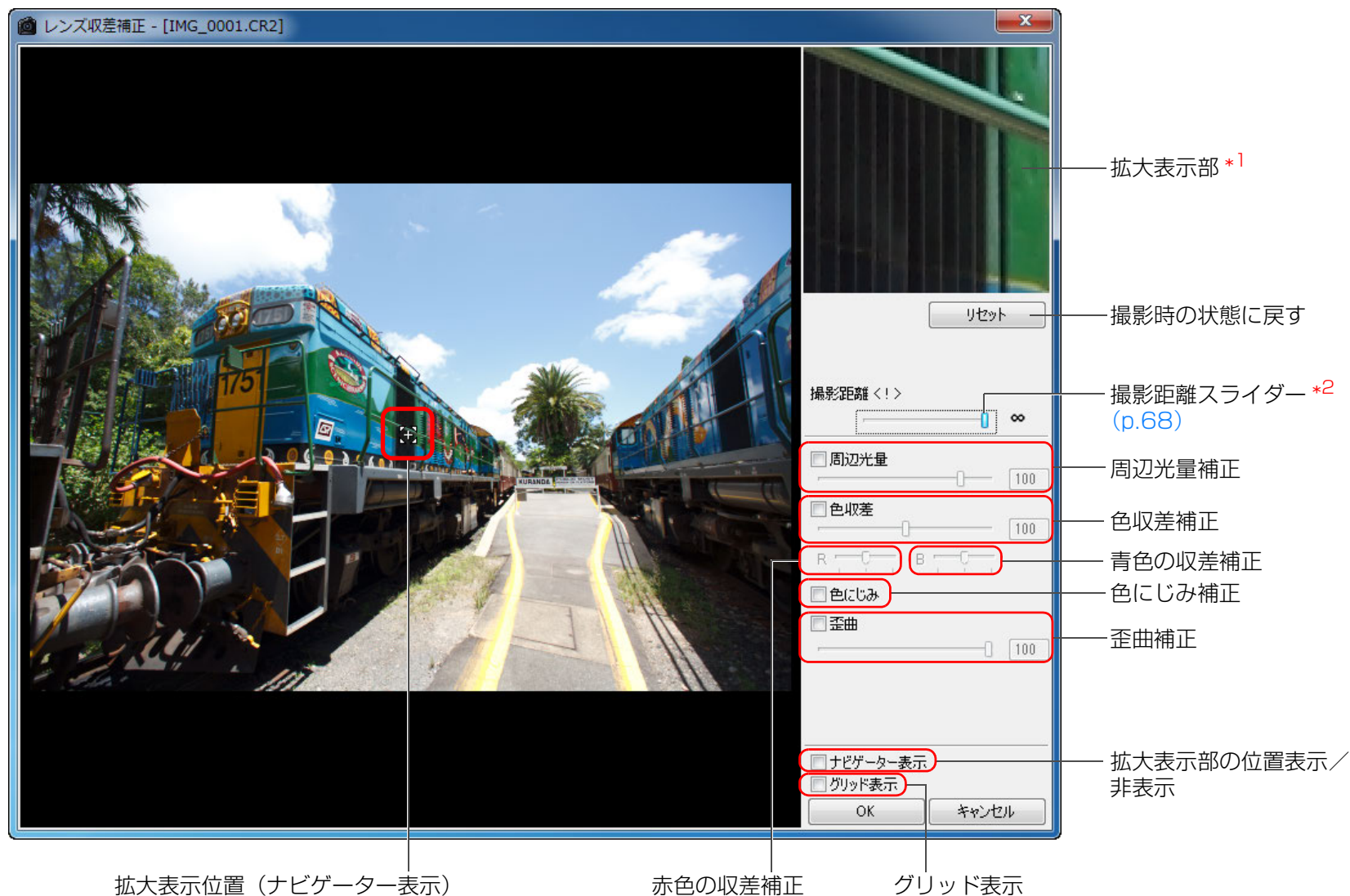
色にじみ補正

歪曲補正

拡大表示部の位置表示／非表示

拡大表示位置（ナビゲーター表示）

赤色の収差補正

グリッド表示

*1 画像上のクリックした個所（拡大表示位置）を 200%で表示します。

*2 MP-E 65mm F2.8 1-5x マクロフォト、EF 50mm F2.5 コンパクトマクロ＋ライフサイズコンバーター EF で撮影した RAW 画像は、スライダーの指標が撮影倍率に変わります。

デジタルレンズオプティマイザ - [IMG_9416_01.CR2]

撮影距離

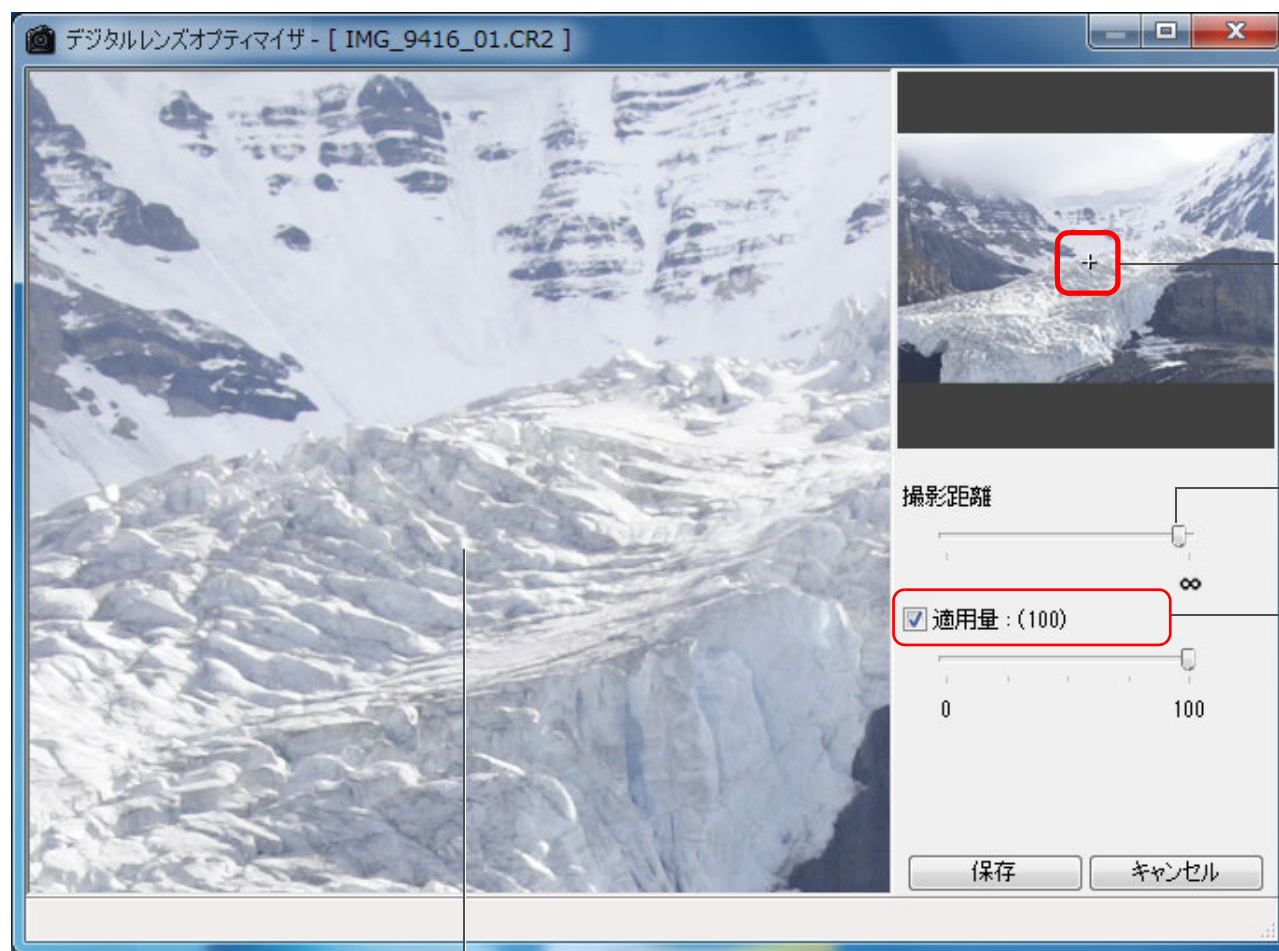
適用量：(100)

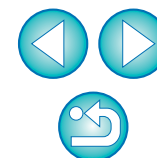
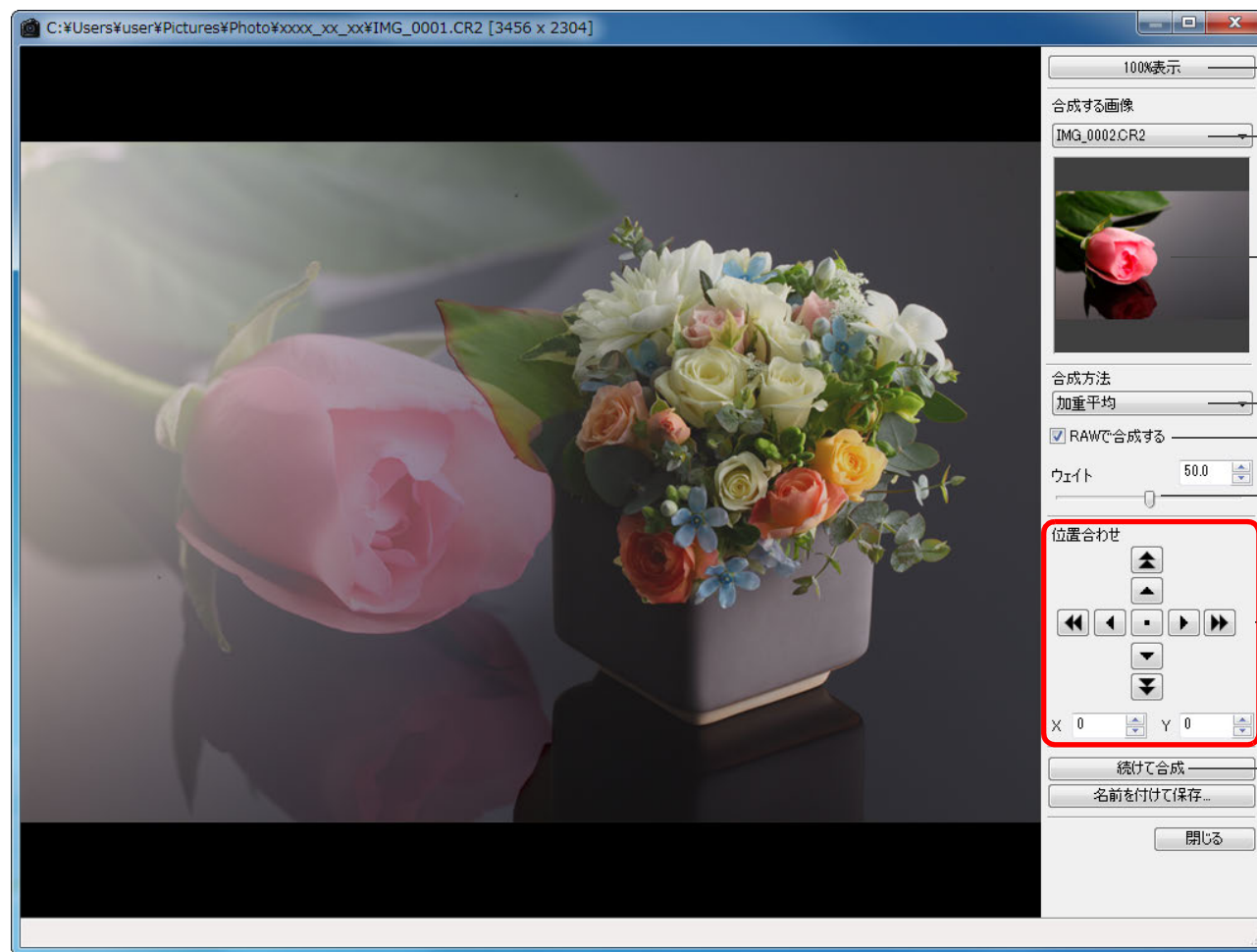
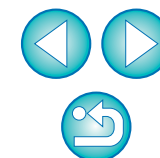
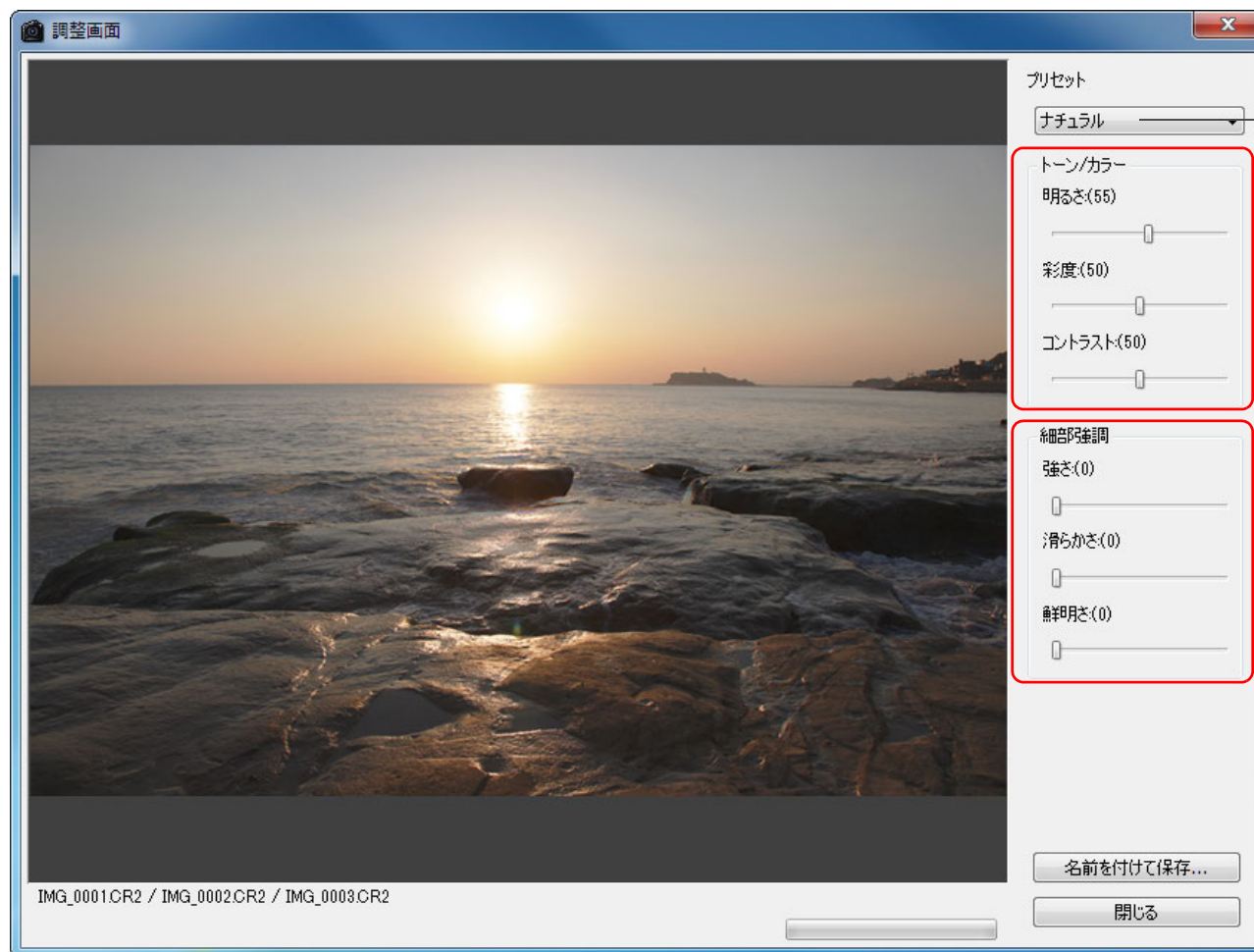
0　100

保存　キャンセル

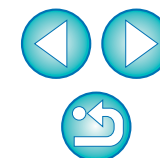
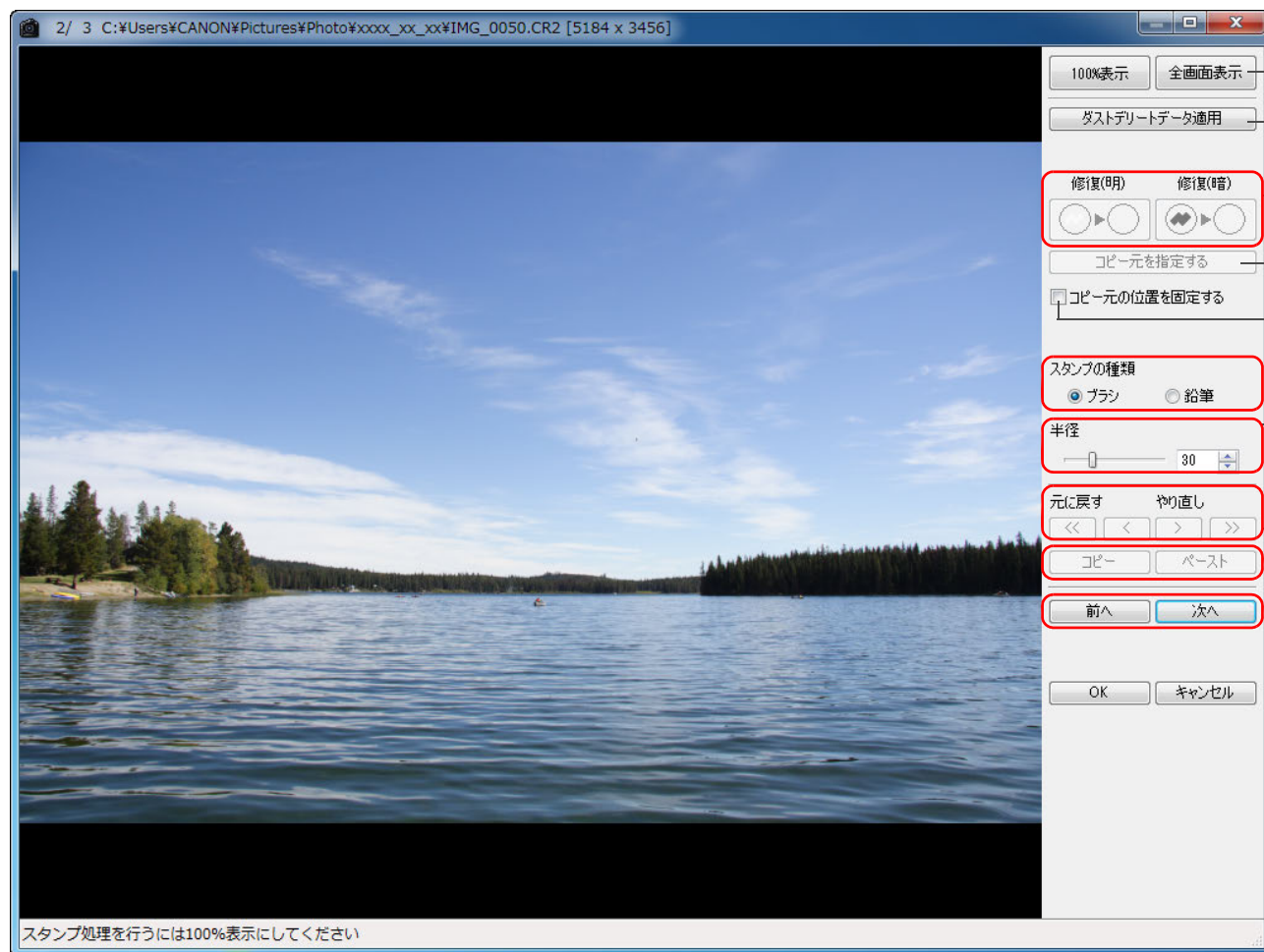
拡大表示位置（ナビゲーター表示）

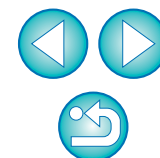
撮影距離スライダー (p.72)

適用量 (p.72)

拡大表示部 *1

*1 拡大画像上のクリックした箇所（拡大表示位置）を 100% で表示します。

多重合成ツール画面の機能一覧 (p.78)

- 100%表示 (p.79)
- 合成する画像を選択 (p.79)
- 合成する画像のサムネイル表示 (p.79)
- 合成方法を選択 (p.79)
- RAW で合成を行う (p.80)
- ウェイトスライダー (p.79)
- 位置合わせ操作部 (p.80)
- 合成を続ける (p.81)

HDR 画面（調整画面）の機能一覧 (p.81)

仕上がり効果を選択 (p.83)

トーン／カラーを調整 (p.83)

細部強調を調整 (p.83)

コピースタンプ画面の機能一覧 (p.73～p.77、p.114～p.118)

- 全画面表示／通常表示に戻す
- ダストデリートデータの適用（p.73、p.114）
- 消すゴミの種類（p.75、p.116）
- コピー元の指定（p.77、p.118）
- コピー元の位置を固定（p.77、p.118）
- スタンプの種類（p.77、p.118）
- ゴミ消し範囲（p.75、p.116）やコピー範囲（p.77、p.118）の大きさを５～100（１ピクセル単位）の範囲で設定（数値入力も可能）
- 画像の復元、やり直し
- ゴミ消し範囲やコピー範囲のコピーと、別画像への適用（貼り付け）
- 表示画像の切り換え *

* 複数の画像を選んでコピースタンプ画面を表示したときに動作します。

複数枚の変換／保存画面（バッチ処理）の機能一覧 （p.99）

画像の種類	拡張子
Exif-JPEG	.JPG
Exif-TIFF 8bit	.TIF
TIFF 16bit	.TIF
Exif-Tiff 8bit +Exif-JPEG	.TIF ／ .JPG
TIFF 16bit+ Exif-JPEG	.TIF ／ .JPG

*1 設定範囲は、1 ～ 60,000dpi です。

*2 画像に設定されている色空間（p.77、p.93）情報が ICC プロファイルに付加されます。
Apple RGB、ColorMatch RGB、Wide Gamut RGB の色空間を設定（p.77、p.93）した画像では、チェックを外しても、自動的に ICC プロファイルが埋め込まれます。

*3 設定範囲は、1 ～ 10 です。数値が大きいほど高画質になります。

*4［幅］または［高さ］で設定した大きい方の値を、画像の長辺に適用して画像サイズを変更します。

*5 メイン画面、セレクト編集画面で画像を選んでいない状態で、［一括保存］ボタン（p.124、p.133）を押すと表示されるボタンです。RAW 画像だけを変換したいときは、［実行］ボタンの代わりに押します。

リネーム画面の機能一覧 （p.101）

C:¥Users¥CANON¥Pictures¥Photo¥xxxx_xx_xx¥

ファイル名
DPP　撮影日時　連番
拡張子
変えない

基本設定
並び替え
メイン画面に合わせる
ファイル名
撮影日時
RAW+JPEG画像を同名にする
コピーしてリネーム　参照...
C:¥Users¥CANON¥Pictures

書式設定
連番
0001　連番の記憶
撮影日時
年 月 日
YY-MM-DD
区切り文字を入れる

元のファイル名
IMG_0001.CR2
IMG_0001.JPG
IMG_0002.CR2
IMG_0002.JPG
IMG_0003.CR2
IMG_0003.JPG
IMG_0004.CR2
IMG_0004.JPG

変更後のファイル名
DPP_06-09-13_0001.CR2
DPP_06-09-13_0001.JPG
DPP_06-09-13_0002.CR2
DPP_06-09-13_0002.JPG
DPP_06-09-13_0003.CR2
DPP_06-09-13_0003.JPG
DPP_06-09-12_0004.CR2
DPP_06-09-12_0004.JPG

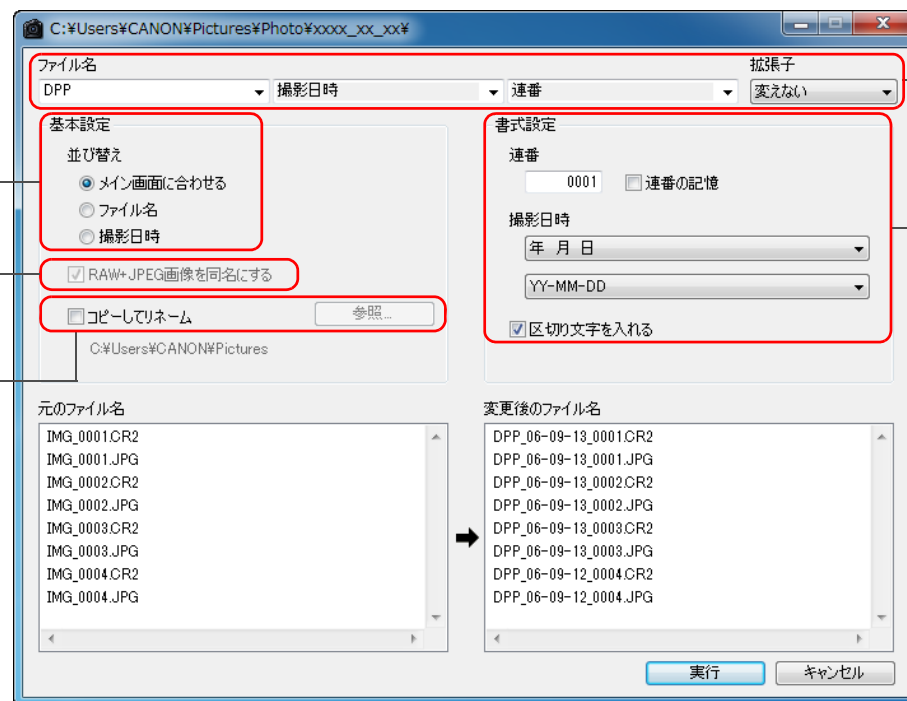
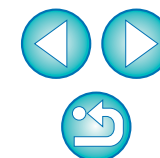
実行　キャンセル

新しいファイル名を設定

画像の並び順

ファイル名に入る情報の書式設定

同時記録された RAW 画像と JPEG 画像を同名にするときはチェック

画像をコピーするときはチェック
［参照］ボタンを押して保存先を設定

はじめに
やりたいこと目次
1 基本操作
2 応用操作
3 高度な機能
4 大量の画像を扱う機能
5 JPEG/TIFF 画像編集
資　料
索　引

用語集

RAW 画像

EOS DIGITAL カメラの RAW 画像は、非圧縮形式の 14bit（ビット）または、12bit で記録された画像です。

RAW 画像は未現像状態の特殊な画像のため、画像を見るには DPP などの現像処理機能を搭載したソフトウェアが必要になります。未現像である RAW 画像の利点は、画像を編集する感覚で各種の調整を行っても、調整にともなう画像の劣化がほとんどないことです。

※「RAW」とは、「生の」や「そのまま」の意味です。

JPEG 画像

非可逆性圧縮形式の 8bit（ビット）で記録された、最も一般的な画像です。

画素数の多い画像データも、保存するときにデータ圧縮率を高くすることでファイル容量を小さくできるという利点がありますが、保存・圧縮時にデータの一部を間引いてファイル容量を小さくしているため、編集／保存を繰り返すと画像が徐々に劣化していきます。

なお、DPP では、編集／保存を繰り返してもレシピデータが変更されるだけで、画像の上書き・圧縮を行わないため、オリジナル画像データに劣化は生じません。

※「JPEG」とは、「Joint Photographic Experts Group」の略です。

TIFF 画像

非圧縮形式の 8bit ／ 16bit（ビット）で記録されるビットマップ形式の画像です。

非圧縮形式のため、高画質を維持したまま画像を保存するのに適しています。

※「TIFF」とは、「Tagged Image File Format」の略です。

レシピ

DPP で編集できる RAW 画像の「画像処理条件の情報」を「レシピ」と呼んでいます。

また、DPP では、JPEG 画像や TIFF 画像も RAW 画像と同じように「レシピ」を使った画像編集を行うことができます。

bit（ビット）数

画像の色における情報量の単位で、1 ピクセルあたりのビット数で表されます。

ビット数が多いほどより多くの色数となめらかな階調になります。なお、1 ビットの画像は白黒の 2 値画像になります。

カラーマネージメントシステム（カラーマッチング）

画像を撮影するデジタルカメラ、画像を表示するモニター、画像を印刷するプリンターは、それぞれ色を作り出す方法が違います。そのため、モニターで見た画像の色味と印刷した画像の色味に、差が起こることがあります。

カラーマネージメントシステムとは、この色味の差を近づけるために、色を管理することです。DPP では、各機器間の ICC プロファイルを使うことで各機器間の色味を近づけることができます。

ICC プロファイル

ICC プロファイルとは、International Color Consortium（国際カラーコンソーシアム）が認定した各機器の色特性や色空間など、色に関する情報を記載したファイルです。画像を見るモニターや画像を印刷するプリンターなど、多くの機器はこの ICC プロファイルを使って色を管理（カラーマネージメント）することができ、各機器間の色味を近づけることができます。

DPP では、この ICC プロファイルを使った色管理（カラーマネージメント）を採用しています。

トーンカーブ

トーンカーブとは、調整前（入力）の値をグラフ上の横軸に、調整後（出力）の値を縦軸に表したものです。また、調整前は、調整前と調整後の値が同じため、トーンカーブは左下から右上への直線で示され、このトーンカーブを操作することで、画像の明るさ、コントラスト、色を詳細に調整することができます。なお、横軸は右に行くほどプラスの値となり、縦軸は上に行くほどプラスの値になります。

色空間

色の再現領域（色域特性）を示したもので、DPP では、次の 5 種類の色空間に対応しています。

sRGB　：Windows の標準色空間です。また、モニター、デジタルカメラ、スキャナーなどの標準色空間として広く採用されています。

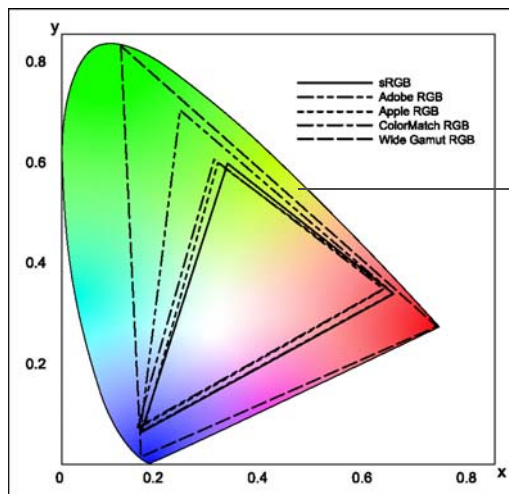
Adobe RGB：sRGB よりも広域な色空間で、主に商用印刷などの業務用途で採用されています。

Apple RGB　：Macintosh の標準色空間です。sRGB よりも若干広域な色空間です。

ColorMatch RGB：sRGB よりも若干広域な色空間で、主に商用印刷などの業務用途で採用されています。

Wide Gamut RGB：Adobe RGB よりもさらに広域な色空間です。

各色空間の色域は、以下の色度図を参考にしてください。

DPP が対応している色空間の色度図

		ガンマ値	白色点（色温度）
	sRGB	2.2	6500K（D65）
	Adobe RGB	2.2	6500K（D65）
	Apple RGB	1.8	6500K（D65）
	ColorMatch RGB	1.8	5000K（D50）
	Wide Gamut RGB	2.2	5000K（D50）

CMYK シミュレーション用プロファイル

CMYK 環境（印刷機等）で印刷したときの色味をシミュレーションするためのプロファイルです。DPP では、次の 4 種類のプロファイルで色味をシミュレーションすることができます。

Euro Standard　：ヨーロッパの書籍印刷で標準的に使用されているプロファイルで、ヨーロッパの標準印刷をシミュレーションするのに適したプロファイルです。

JMPA　：日本の書籍印刷などで使用されているプロファイルで、雑誌広告基準カラーの印刷をシミュレーションするのに適したプロファイルです。

U.S.Web Coated　：北米の書籍印刷で標準的に使用されているプロファイルで、北米の標準印刷をシミュレーションするのに適したプロファイルです。

JapanColor2001 type3：日本の印刷業界で標準化が進められているプロファイルで、JapanColor 規格の印刷をシミュレーションするのに適したプロファイルです。

マッチング方法

マッチング方法とは、画像を印刷するときの色変換方法で、それぞれ、次のような変換方法です。

知覚的　：変換前と変換後で、色のつながりを維持するようにすべての色が変換されます。色が多少変化しても階調性を維持した自然な感じの画像を印刷することができます。ただし、画像によっては全体的に彩度が変わることもあります。

相対的　：変換前と変換後で、共通性のある色にはあまり変換を行いませんが、共通性のない色があるときは適正に変換されます。画像の大部分を占める共通性のある色は変化が少ないため、彩度があまり変化しない自然な感じの画像を印刷することができます。ただし、画像によっては共通性のない色やハイライト部分が変化するため、画像として少しトーンが変わることもあります。

索　引

はじめに
やりたいこと目次
1 基本操作
2 応用操作
3 高度な機能
4 大量の画像を扱う機能
5 JPEG/TIFF 画像編集
資　料
索　引

か

な

は

ま

ら

わ

この使用説明書について

- 本書の内容の一部または全部を無断で転載することは、禁止されています。
- ソフトウェアの仕様および、本書の内容を予告なく変更することがあります。
- 本書に掲載しているソフトウェアの画面や表示文言は、実際のソフトウェアと微小に相違することがあります。
- ソフトウェアを運用した結果については、上記にかかわらず責任を負いかねますので、ご了承ください。

登録商標について

- Microsoft および Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国および他の国における登録商標または商標です。
- Adobe、Photoshop は、アドビシステムズ社の米国ならびにその他の国における商標または登録商標です。
- その他、本書中の社名や商品名は、各社の登録商標または商標です。

DPP を活用するためのホームページをご用意しています

http://cweb.canon.jp/camera/workflow/index.html

付属ソフトウェアに関するご相談窓口

お客様相談センター（全国共通番号）

050-555-90002

受付時間：平日 9：00 ～ 20：00
土・日・祝日 10：00 ～ 17：00
（1 月 1 日～ 1 月 3 日は休ませていただきます）

※上記番号をご利用いただけない方は、043-211-9556 をご利用ください。
※IP 電話をご利用の場合、プロバイダーのサービスによりつながらない場合があります。
※受付時間は予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。